

HITACHI

PowerChute® Business Edition

補足説明書 日立編

【形名 : GQS-VSU7BS100N】

PowerChute® Business Edition 補足説明書 日立編

■ 対象製品

PowerChute Business Edition [適用OS: Windows, Red Hat Enterprise Linux]

■ 商標類

PowerChute は、Schneider Electric Industries SAS またはその関連会社の登録商標または商標です。

Windows は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

VMwareおよびVMwareの製品名は、VMware, Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。

Red Hat は、米国およびその他の国でRed Hat, Inc.の登録商標もしくは商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記		製品名
Windows	Windows20xx	Windows Server20xx Datacenter Windows Server20xx Standard

■ 略語

このマニュアルで使用する略語を次に示します。

表記	製品名
PCBE	PowerChute® Business Edition
UPS	無停電電源装置
vMA	VMware vSphere Management Assistant
VMware	VMware® ESXi Server
IE2	UPS Interface Expander 2
RHEL	Red Hat Enterprise Linux
Hyper-V	Windows Hyper-V Server

■ 発行

2023年5月

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2023, Hitachi, Ltd.

はじめに

このたびは、PowerChute® Business Edition をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本書は、PowerChute® Business Edition をご使用になる際の注意事項をまとめたものです。ご使用前に、必ずお読みくださいますようお願い致します。

目次

はじめに	3
1. ハードウェアおよびソフトウェア要件	6
2. サポート OS	7
3. PowerChute Business Edition の概要	8
3.1 PowerChute Business Edition エージェント	8
3.2 PowerChute Business Edition 構成	8
4. インストール前の注意	9
5. UPS とサーバの接続	13
5.1 USB ケーブルでの接続 (HA8000V シリーズ)	13
5.2 シリアルケーブルでの接続 (HA8000 シリーズ)	14
6. Windows 環境における PCBE のインストール手順	15
6.1 PCBE エージェントインストール手順	15
6.2 PCBE エージェントのアンインストール	32
6.3 Hyper-V 環境における注意事項	32
7. RHEL 環境における PCBE のインストール手順	34
7.1 PCBE エージェントインストール手順	34
7.2 起動と停止	41
7.3 PCBE のアンインストール	41
8. VMware ESXi 環境における PCBE のインストール手順	42
8.1 vMA の導入	42
8.1.1 Host Client を使用して vMA をインストール	42
8.2 PCBE インストール手順	50
8.3 ゲスト OS のシャットダウンの設定方法	61
8.3.1 Host Client を使用する場合	61
8.4 起動と停止	64
8.5 PCBE のアンインストール	64

9. PowerChute Business Edition の設定	65
9.1 初期設定	65
9.1.1 シャットダウンの設定	65
9.1.2 シャットダウンの設定(詳細)	70
9.1.3 スケジュールシャットダウンの設定	76
9.1.4 IE2 に接続した保護サーバの初期設定	78
10. PCBE の設定	80
10.1 セルフテスト	81
10.2 UPS 設定	83
10.3 イベントの設定	85
10.4 電子メールの設定	86
10.5 SNMP 設定	87
11. PCBE から UPS を制御する.....	94
11.1 シャットダウンの設定	94
11.2 スケジュールされたシャットダウン	94
11.3 コンセントシーケンス	95
11.4 負荷制限機能	95
11.5 コンセント管理	97
11.6 すぐにサーバをシャットダウン	98
12. PCBE から UPS を監視する.....	99
12.1 UPS ステータス	99
12.2 バッテリ管理	101
12.3 ログの設定	102
12.3.1 イベントログ	102
12.3.2 データログ	103
12.3.3 ログの設定	104
13. PCBE ユーティリティ.....	105
13.1 UPSSleep	105
14. Java Update.....	106
15. イベントリスト.....	110
16. よくある質問	113
17. 困ったときには.....	114

1. ハードウェアおよびソフトウェア要件

本製品は、以下のシステム装置と接続構成にてご使用になることができます。

[ハードウェア要件]

・システム装置

日立アドバンスドサーバHA8000Vシリーズ

日立アドバンスドサーバHA8000シリーズ

補足: 適用機種の詳細については、弊社営業担当にお問い合わせください。

・システム要件

ディスク領域	200MB以上の空きディスク領域
プロセッサ	Pentium4 1.3GHz以上
メモリ	512MB以上(*1)

・サポートUPS

本製品は下記の形式のUPSをサポートします。

GQ-BURxxxxxxxx および GQ-BUTxxxxxxxx

ただし、GQ-BURxJ5x、GQ-BURA500xxxxは未サポートです。

・オプション機器

GQ-BUA703x/BUA704x/BUA711x(ネットワークマネジメントカード)はサポート対象外になります。

PCBEを使用する際にはネットワークマネジメントカードをUPSに接続しないでください。

[ネットワーク環境要件]

・システム装置がTCP/IPネットワークに接続していること。

・脆弱性への対応について

製品のセキュリティ上の脆弱性に関する情報、および脆弱性によって生じる問題を解決または回避するための方法を必要に応じて下記のURLに掲載しておりますので参照してください。

<https://www.hitachi.co.jp/hirt/security/index.html>

2. サポート OS

PowerChute Business EditionはMicrosoft Windows ServerおよびRed Hat Enterprise Linux、HA構成を使用しないVMware ESXi環境でご使用になることができます。

(注) HA8000 シリーズでは、Red Hat Enterprise Linux 環境の使用は未サポートです。Red Hat Enterprise Linux 環境を使用する場合、PowerChute Network Shutdown をご使用ください。

HA8000V シリーズでは、VMware ESXi 環境での PowerChute Business Edition の使用は未サポートです。VMware ESXi 環境を使用する場合、PowerChute Network Shutdown をご使用ください。

補足:

- ・サポートOSのバージョン詳細については、弊社営業担当にお問い合わせください。

3. PowerChute Business Edition の概要

3.1 PowerChute Business Edition エージェント

PCBE10は、PowerChute Business Editionエージェント(以下、PCBEエージェント)で構成されます。

PCBEエージェントはUPSのステータス監視機能を提供し、長時間の停電が発生した場合にUPSに接続されたサーバのシステムシャットダウン機能を提供しています。

このソフトウェアは、UPSデバイスおよびアクセサリに記載されているUPSデバイスに直接接続されている各コンピュータ上にインストールする必要があります。

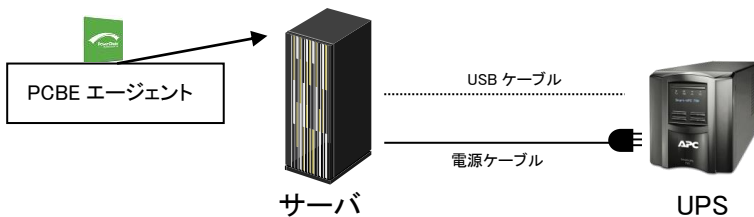
PowerChute Business Editionエージェントインターフェースにはブラウザを介してアクセスし、UPSで保護されているシステムの管理と設定を行います。

SNMPエージェントを使用したPCBEエージェントの管理も可能です。

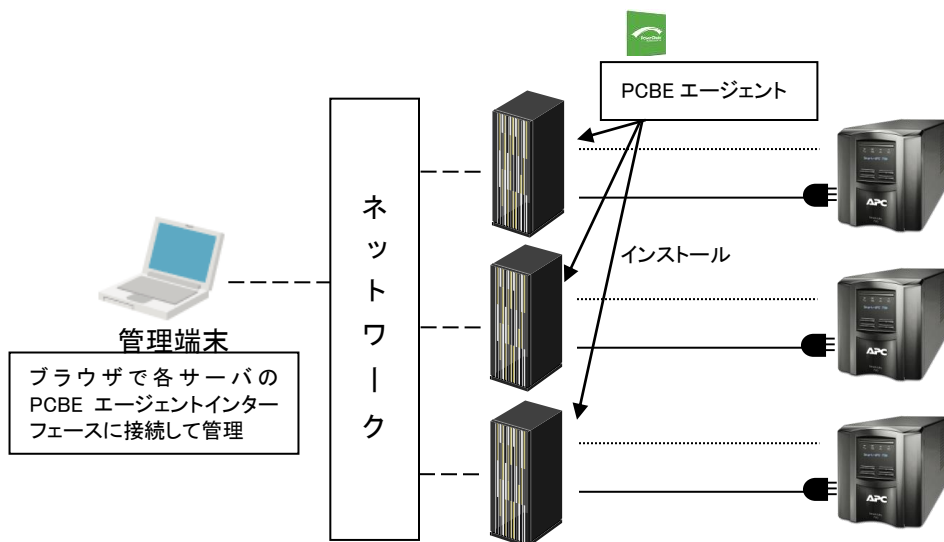
3.2 PowerChute Business Edition 構成

本製品の構成例を紹介します。

(1) PCBEエージェントをサーバにインストールした単一構成



(2) 複数のサーバにPCBEエージェントを異なるサーバにインストールして遠隔地からネットワークを介して管理を行う構成



4. インストール前の注意

本製品のご使用までの手順は下記の通りです。

開始	
システム装置とUSBケーブルを接続	5項を参照
PCBEエージェントのインストール	6、7、8項参照
PCBEの設定	9項参照
終了	

ご使用前に下記の注意事項をよくお読みください。

(1) ドキュメントの確認

本製品には表4-1のドキュメントが同梱されています。

本製品をご使用になる前に表 4-1に示したドキュメントを必ずお読みください。

表 4-1 製品同梱のドキュメント

ドキュメント名称	記載内容(概要)	参照方法
PowerChute Business Edition v10.0.5 － インストールガイド	インストール手順およびト ラブルシューティング	ドキュメントDVDに格納されている “¥Documentation¥JP¥PCBE-Installation- Guide.pdf”をダブルクリック。
PowerChute Business Edition v10.0.5 － リリースノート	PCBE v10.0.5の新機能や 既知のソフトウェア問題 やその解決方法	ドキュメントDVDに格納されている “¥Documentation¥JP¥Release-Notes.pdf” をダブルクリック。
PowerChute Business Edition v10.0.5 － ユーザガイド	PCBE v10.0.5設定方法	ドキュメントDVDに格納されている “¥Documentation¥JP¥PCBE-Agent-User- Guide-xxxxx.pdf”をダブルクリック。

(2) PCBEと他のPowerChute製品との混在環境についての制限事項

他のPowerChute製品(PowerChute Network ShutdownまたはPowerChute plus)をインストールした環境で、PCBEを使用することはできません。

(3) PCBE v9.0.1以前からv10.0.5へ切り替える場合について

PCBE v9.0.1以前の全てのコンポーネントをアンインストールしてください。

その後、v10.0のインストールおよびv10.0.5へのアップデートをしてください。

PCBE v9.0.1以前の各コンポーネントのインストール、アンインストール順序はありません。

(4) PCBEのアップグレードについて

本製品ではPCBEv9.1.1からのみv10.0.5へのアップグレードをサポートしております。

PCBEv9.0.1以前からのアップグレードはサポートしておりません。PCBEv9.1.0以前からは一度

PCBEの全てのコンポーネントをアンインストールしてからv10.0のインストールおよびv10.0.5へのアップデートをしてください。

(5) ユーザ名およびパスワード要件

・ユーザ名の長さは 6 文字以上、128 文字以内でなければなりません。

・パスワードには以下の条件が必要です。

- － 8 文字以上、128 文字以内の長さ。
- － 1 つ以上の大文字と小文字
- － 1 つ以上の数字または特殊文字。
- － ユーザ名をパスワードの一部にすることはできません。

(6) IPv6 互換性

IPv6 アドレスは、表 4-2 のいずれかの形式にする必要があります。

表 4-2 IPv6 形式

IPv6 形式	説明
fe80:0000:0000:0000:0204:61ff:fe9d:f156	IPv6 の完全な形式
fe80:0:0:0:204:61ff:fe9d:f156	先頭のゼロを省略
fe80::204:61ff:fe9d:f156	IPv6 アドレスの複数のゼロを:: に省略した形式
fe80:0000:0000:0000:0204:61ff:254.157.241.86	末尾を IPv4 ドット区切り形式で表現
fe80:0:0:0:0204:61ff:254.157.241.86	先頭のゼロの省略、末尾を IPv4 のドット区切り形式で表現
fe80::204:61ff:254.157.241.86	複数のゼロの省略、末尾を IPv4 のドット区切り形式で表現
::1	Localhost
fe80::	リンクローカルプレフィックス
2001::	グローバルユニキャストプレフィックス

(7) シリアルポート接続時の設定（HA8000シリーズのみ）

UPS接続を行なうシリアルポートに対して、以下の設定を行なってください。

表4-3 シリアルポート設定

パラメータ	設定
ボーレート(ビット/秒)	2400
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	XON/OFF

[設定手順(Windows 2012R2/2016の場合)]

- ①コントロールパネルの「ハードウェア」アイコンをクリックする。
- ②「デバイスマネージャ」をクリックする。
- ③「ポート(COMとLPT)」をクリックし、UPSケーブルを接続するシリアルポートをダブルクリックする。
- ④「ポートの設定」タブを選択し、各項目を表4-3の通り設定する。
- ⑤[詳細設定]ボタンをクリックし、「FIFOバッファを使用する(16550互換のUARTが必要)」のチェックボックスにチェックを入れ、[OK]ボタンを押す。
- ⑥[OK]ボタンを押す。

補足:

シリアルポート接続の設定変更後は、変更した設定値が正常に適用されているかを、再度確認してください。正常に適用されていない場合は、再度、[設定手順]を実施してください。

(8) PCBEが使用するポート、プロトコル

PCBEは表 4-4に示したポート、プロトコルを通信に使用します。WindowsでWindowsファイアウォールが有効になっている環境の場合は、PCBEのインストール前に、Windowsファイアウォール上の例外設定にこれらのポート、プロトコルを追加してください。Windowsファイアウォール上の例外設定を行わないとPCBEのインストールが失敗する場合があります。

また、Linux、VMwareでも表 4-4に示したポート、プロトコルをあらかじめ開放するように、ファイアウォールを設定してください。

表 4-4 PCNSが使用するポート、プロトコル

ポート	プロトコル	用途
6547	TCP	WEBブラウザからPCBEエージェントへの通信用(受信)
161	UDP	SNMP管理設備からPCBEエージェントへの通信用 (送信/受信、デフォルトのポート番号)
162	UDP	PCBEエージェントからSNMP管理設備への通信用(送信)

Windowsファイアウォールが有効な環境で、事前に適切な設定を行わないと、PCBEのインストール中に「Windowsセキュリティの重要な警告」メッセージが表示される場合があります。[ブロックしない]を選択して、インストールを継続できます。[ブロックする]または[あとで確認する]を選択すると、PCBEのインストールに失敗する場合があります。Windowsファイアウォールでポート、プロトコルの例外設定を行なった後、再度PCBEのインストールを行なってください。PCBEが使用するポート、プロトコルは、上記「(8) PCBEが使用するポート、プロトコル」を参照してください。

Linux(RHEL 8.x)のファイアウォール設定例(PCBEをインストールしているシステム装置のWEBブラウザからアクセスする場合)を以下に示します。

(下線部が入力部分)

```
[xxxx]# firewall-cmd --zone=internal --add-port=6547/tcp --permanent
success
[xxxx]# firewall-cmd --reload
success
[xxxx]#
```

(9) PCBE に組み込まれている Java (OpenJDK)について

PCBE v10.0.5 に含まれている Java バージョンは、OpenJDK 17 です。

5. UPS とサーバの接続

PCBE をセットアップする前に UPS とサーバを接続する必要があります。

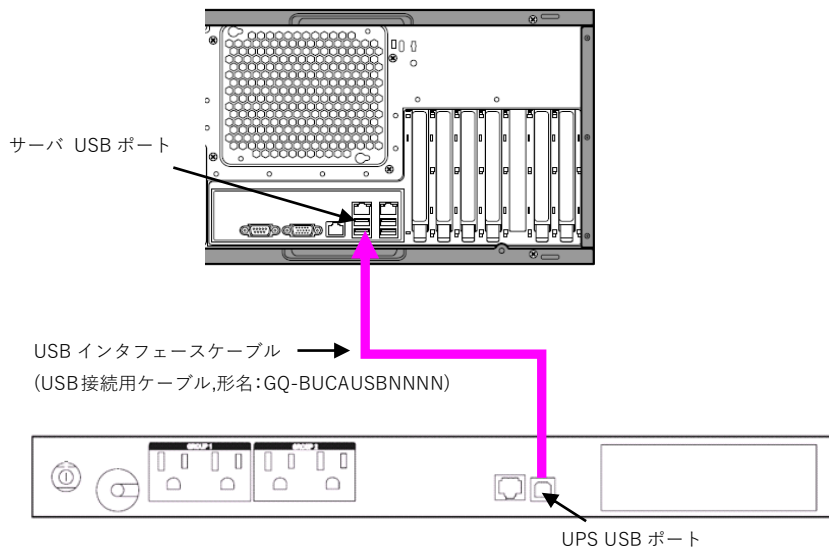
接続するサーバシリーズによってサポートする接続方法が異なるため、

- ・HA8000V シリーズをお使いの場合: 5.1 USB ケーブルでの接続
 - ・HA8000 シリーズをお使いの場合: 5.2 シリアルケーブルでの接続
- をそれぞれご参照ください

5.1 USB ケーブルでの接続 (HA8000V シリーズ)

USB ケーブル(型名: GQ-BCAUSBNNNN)で UPS (UPS USB ポート) とマスタサーバを接続してください。USB ケーブルで接続しているマスタサーバの PCBE エージェントインストール手順は、6.1.1 項をご参照ください。

HA8000Vシリーズではシリアルケーブル及び IE2 による接続は未サポートとなっております。

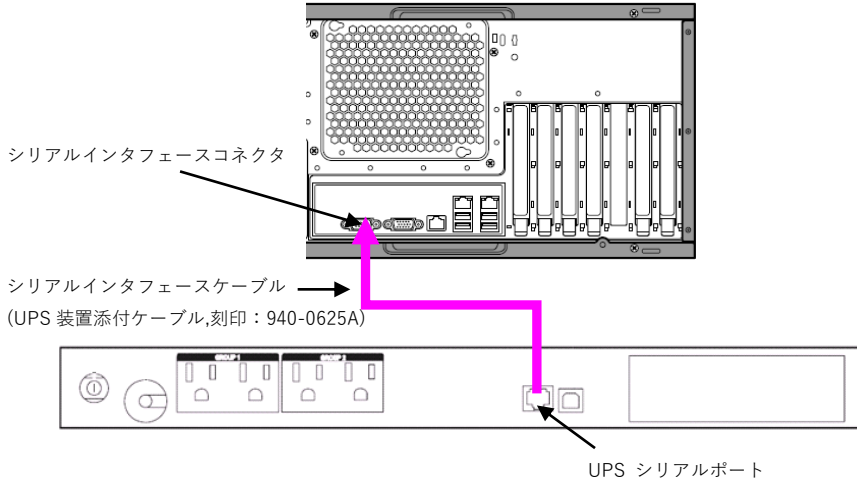


5.2 シリアルケーブルでの接続 (HA8000 シリーズ)

UPS 本体に付属されているシリアルケーブル(刻印: 940-0625A)で UPS (UPS シリアルポート)とマスタサーバを接続してください。IE2 を搭載している場合、IE2 添付ケーブル(刻印: 940-0020E)で IE2 と保護サーバを接続してください。

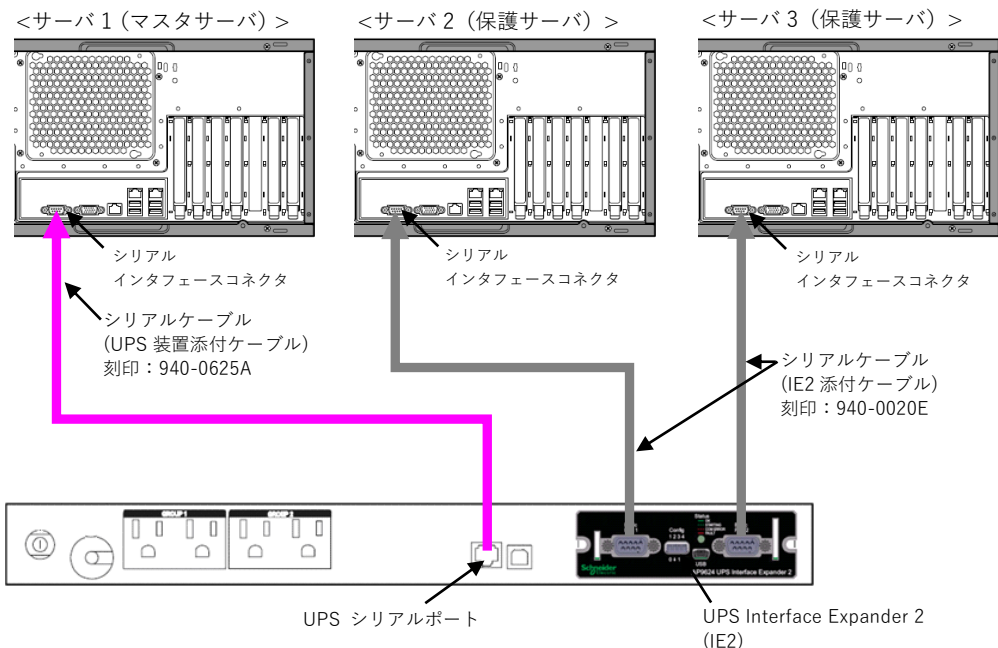
HA8000 シリーズでは USB による接続は未サポートとなっておりますので、USB ケーブルで装置間を接続しないでください。

UPS シリアルポート(アドバンスドポート)に接続するシステム装置を“マスタサーバ”、IE2 に接続するシステム装置を“保護サーバ”と表記します。



UPS シリアルポートに接続しているマスタサーバと IE2 に接続している保護サーバの PCBE のエージェントインストール手順が異なります。

UPS 標準シリアルインタフェースポートに接続しているマスタサーバの PCBE エージェントインストール手順は、6.1.1 項を、IE2 に接続している保護サーバの PCBE エージェントインストール手順は、6.1.2 項を参照ください。



6. Windows 環境における PCBE のインストール手順

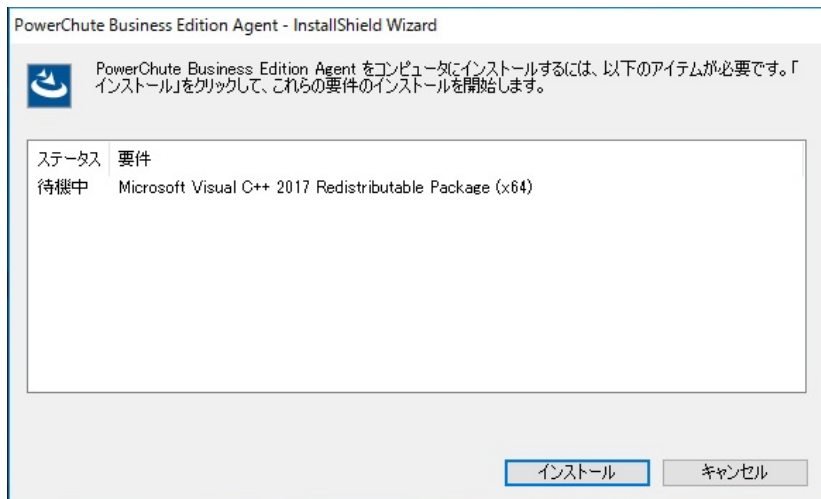
下記インストール手順は Hyper-V 環境でも同様です。ただしクラスター構成は未サポートです。

6.1 PCBE エージェントインストール手順

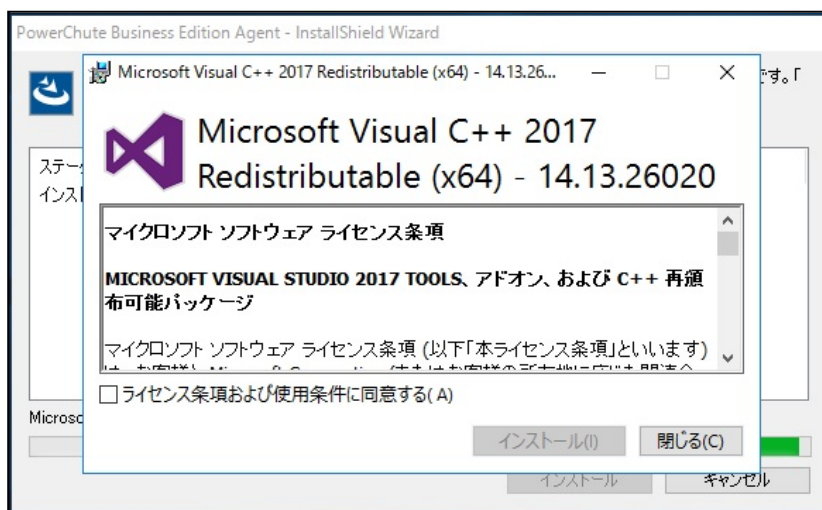
6.1.1 UPS 本体に接続しているマスタサーバの場合

下記の手順に従ってPCBE v10.0エージェントをインストールしてください。

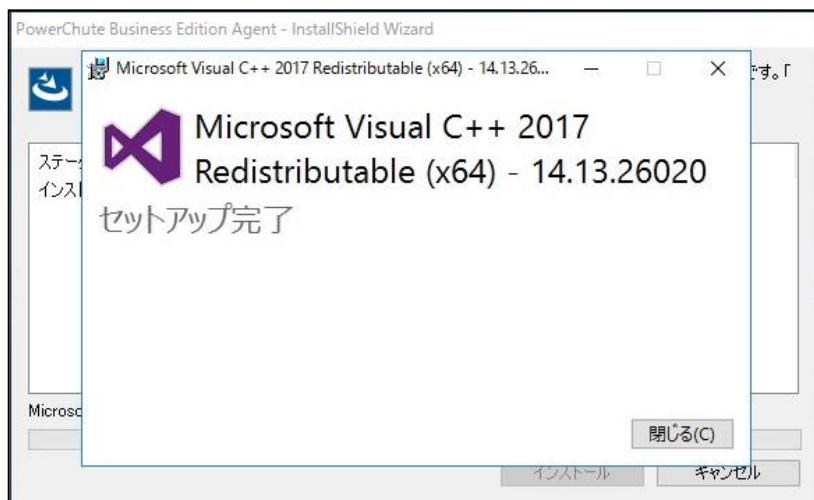
- (1) システム装置にCD-ROMを入れ、CD-ROMに格納されている「¥Windows¥agent¥pcbsetup.exe」をダブルクリックし、インストールプログラムを起動してインストールを開始してください。
- (2) Windows OSにPCBEエージェントをインストールするには、「Microsoft Visual C++ 2017 Redistributable Package (x64)」が必要です。システム装置にインストールされていない場合には、「Microsoft Visual C++ 2017 Redistributable Package (x64)」のインストール画面が表示されますので「インストール」をクリックしてください。
「Microsoft Visual C++ 2017 Redistributable Package (x64)」のインストール画面が表示されない場合にはすでにシステム装置にはインストール済みですので(5)を参照してください。



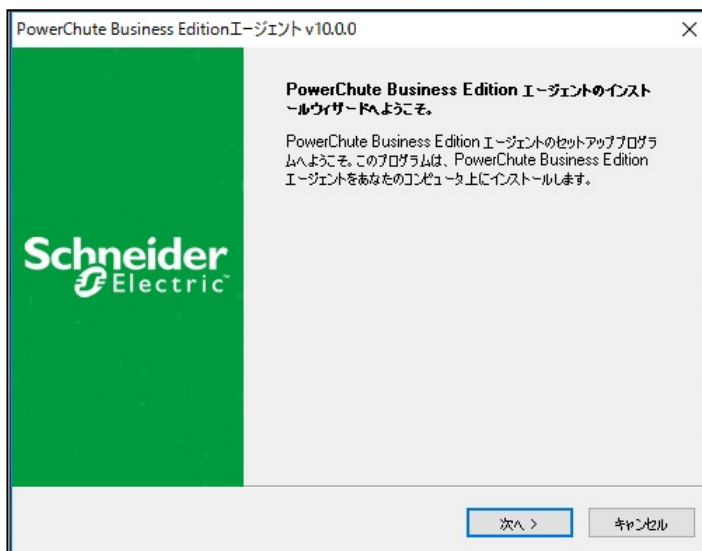
- (3) 「Microsoft Visual C++ 2017 Redistributable Package (x64)」のインストールが開始されます。
インストール中にライセンス画面が表示されますので、ライセンス条項をご確認いただき、「ライセンス条項および使用条件に同意する」にチェックを付けて「インストール」をクリックしてください。



- (4) 「Microsoft Visual C++ 2017 Redistributable Package (x64)」のインストールが完了しましたら、「閉じる」をクリックしてください。



- (5) PowerChute Business Editionエージェントのインストール画面が表示されますので「次へ」をクリックしてください。



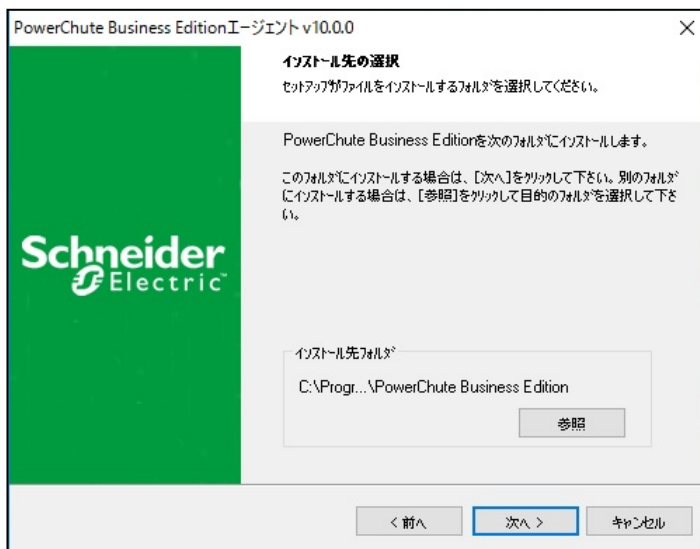
- (6) 使用許諾契約が表示されますのでご確認いただき、「はい」をクリックしてください。



(7) PCBEをインストールするフォルダを指定します。

デフォルトのフォルダ (C:/Program Files (x86)/APC/PowerChute Business Edition) を使用する場合は「次へ」をクリックしてください。

インストールフォルダを変更する場合には「参照」をクリックし、任意のフォルダを選択後に「次へ」をクリックしてください。



(8) 「UPSの通信ポートを自動検出しますか？」とメッセージが表示されます。

「はい」をクリックしてください。



(9) PCBEエージェントのユーザ名、パスワードを入力して、「次へ」をクリックしてください。

ユーザ名は6文字以上、128文字以内の長さが必要です。

パスワードには以下の条件が必要となります。

- ・8文字以上、128文字以内の長さ
- ・1つ以上の大文字と小文字
- ・1つ以上の数字または特殊文字。
- ・ユーザ名をパスワードの一部にすることはできません。

PowerChute Business Edition エージェント 10.0.0

PowerChute Business Editionで使用するユーザ名とパスワードを入力して下さい。

ユーザ名

パスワード

パスワードの確認

パスワードは以下が必要です:
大文字1文字と小文字1文字。
数字または記号1文字。
最低8文字の長さ。

< 前へ 次へ > キャンセル

(10) システム装置のファイアウォールが有効の場合には、PCBEエージェントサービスをWindowsファイアウォールの例外に追加するか質問されますので、「はい」をクリックしてください。

質問

PowerChute Business Editionのセットアップは、Windows ファイアウォールが有効になっていることを検知したため、エージェントサービスをWindows ファイアウォールの例外リストに追加します。

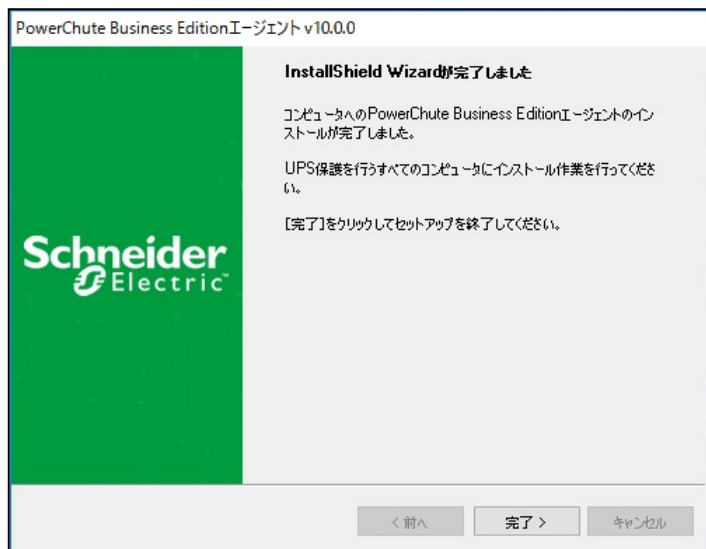
PowerChute Business Editionをネットワーク上で監視・管理するためには、Windows ファイアウォールの例外リストに追加されるエージェントサービスが例外プログラムとして有効になっていることが必要です。

エージェントサービスをWindows ファイアウォールの例外プログラムとして有効にしますか？

後でこの設定を変更するためには、Windows ファイアウォールの例外リストに追加される「PowerChute Business Edition エージェント」のチェックボックスを必要に応じてオン・オフしてください。

はい(Y) いいえ(N)

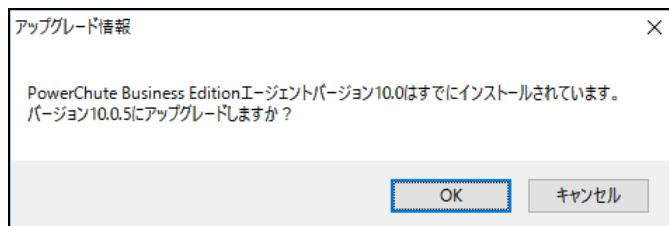
(11) PCBE v10.0エージェントのインストールは完了です。「完了」をクリックしてください。



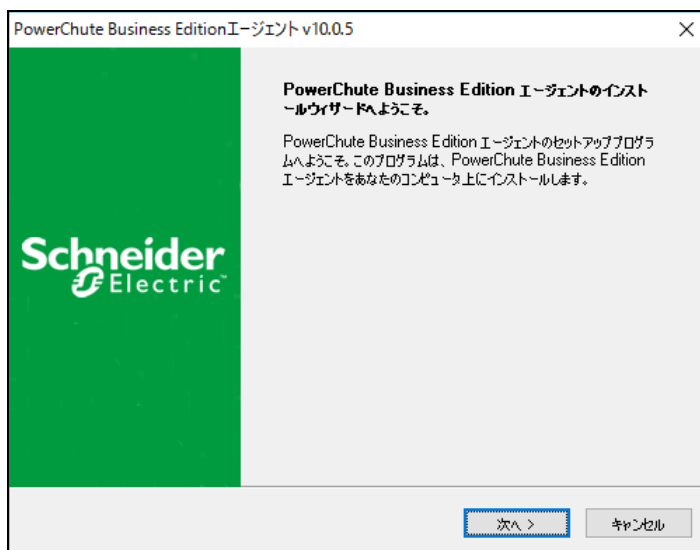
(12) 続けてPCBE v10.0.5へのアップデートを行います。

マニュアルDVDのPCBEv10.0.5¥PCBEv10.0.5-Update-Winフォルダ内のpcbesetup.exeをダブルクリックし、インストールプログラムを起動してインストールを開始してください。

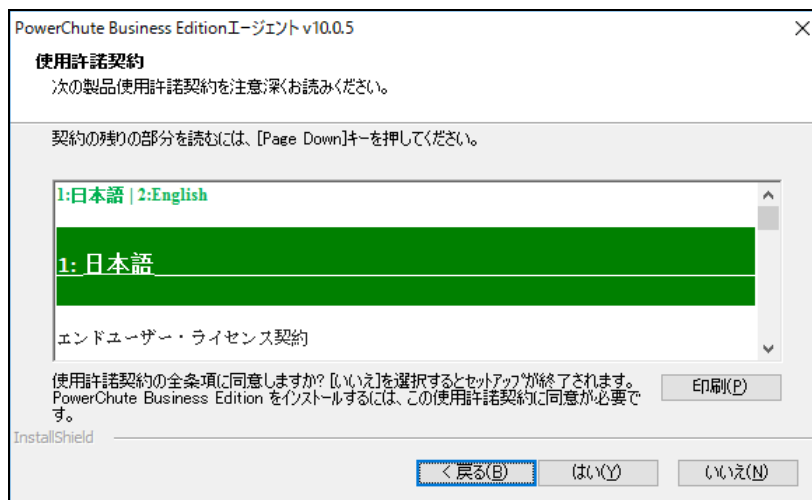
アップデート(アップグレード)情報ダイアログが表示されるので、[OK] をクリックしてください。



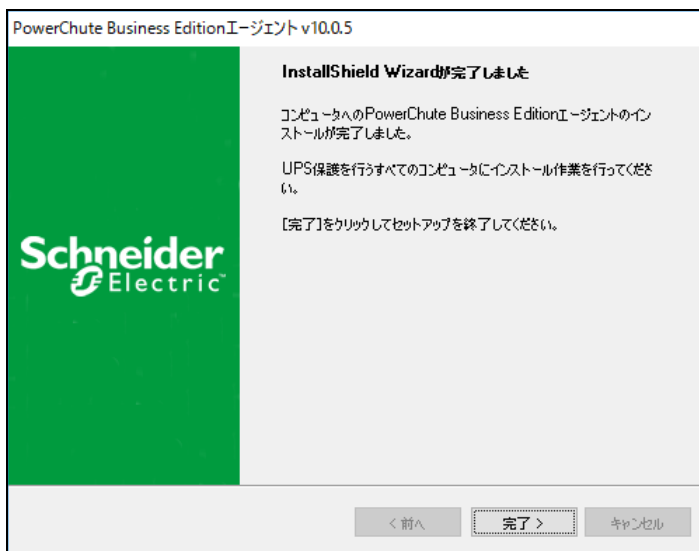
- (13) PowerChute Business Editionエージェントのインストール画面が表示されますので「次へ」をクリックしてください。



- (14) 使用許諾契約が表示されますのでご確認いただき、「はい」をクリックしてください。



(15) PCBE v10.0.5エージェントのアップデートは完了です。「完了」をクリックしてください。



[注意事項]

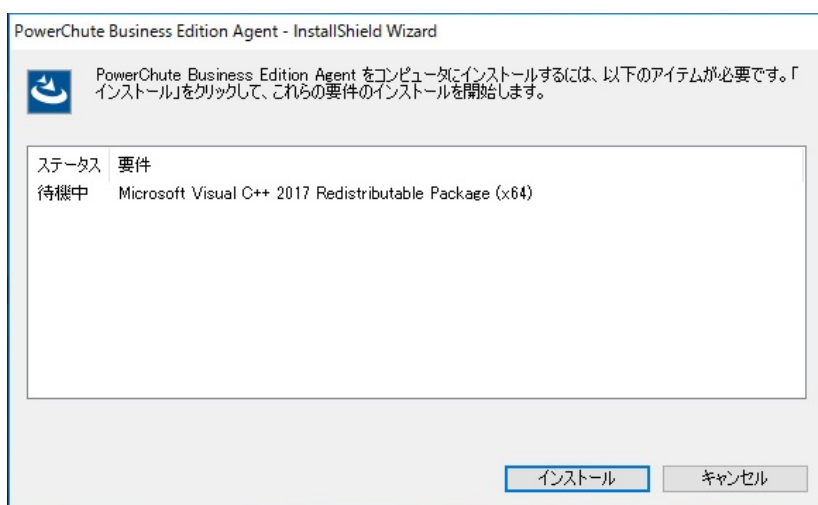
インストールが完了するとPCBEエージェントは自動的に開始します。また、デフォルトではOS起動時にPCBEエージェントは自動起動されます。

PCBEエージェントの手動停止やOS起動時にPCBEエージェントを自動起動させたくない場合などは、[Windows] - [コントロールパネル] - [システムとセキュリティ] - [管理ツール] - [サービス]を開き、「APC PCBE Agent」のサービスのプロパティで設定してください。

6.1.2 IE2(HA8000 シリーズ)に接続している保護サーバの場合

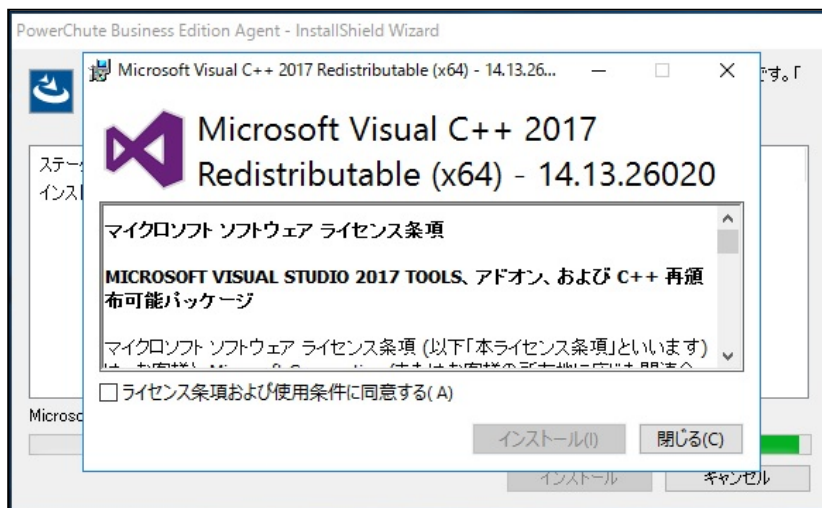
下記の手順に従ってPCBEエージェントをインストールしてください。

- (1) システム装置にCD-ROMを入れ、CD-ROMに格納されている「¥Windows¥agent¥pcbsetup.exe」をダブルクリックし、インストールプログラムを起動してインストールを開始してください。
- (2) Windows OSにPCBEエージェントをインストールするには、「Microsoft Visual C++ 2017 Redistributable Package (x64)」が必要です。システム装置にインストールされていない場合には、「Microsoft Visual C++ 2017 Redistributable Package (x64)」のインストール画面が表示されますので「インストール」をクリックしてください。
「Microsoft Visual C++ 2017 Redistributable Package (x64)」のインストール画面が表示されない場合にはすでにシステム装置にはインストール済みですので(5)を参照してください。

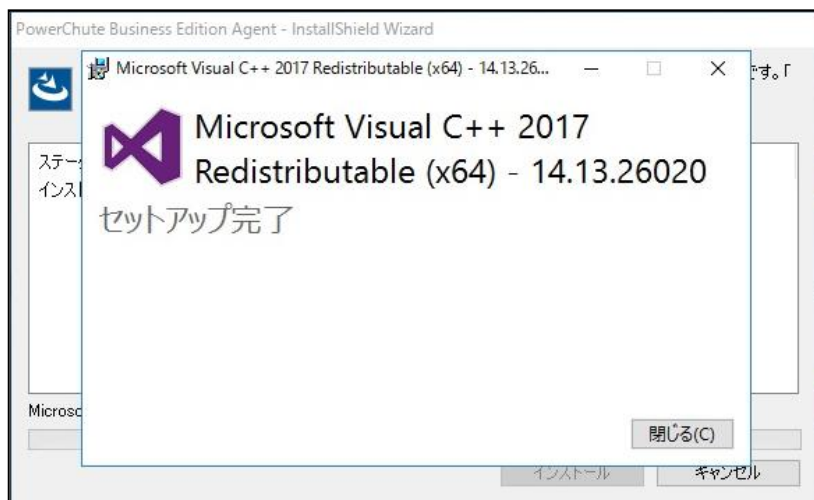


(3) 「Microsoft Visual C++ 2017 Redistributable Package (x64)」のインストールが開始されます。

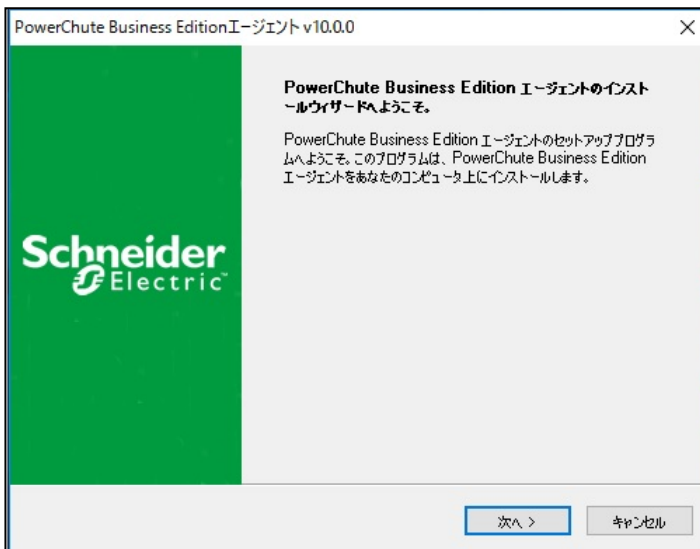
インストール中にライセンス画面が表示されますので、ライセンス条項をご確認いただき、「ライセンス条項および使用条件に同意する」にチェックを付けて「インストール」をクリックしてください。



(4) 「Microsoft Visual C++ 2017 Redistributable Package (x64)」のインストールが完了しましたら、「閉じる」をクリックしてください。



- (5) PowerChute Business Edition エージェントのインストール画面が表示されますので「次へ」をクリックしてください。



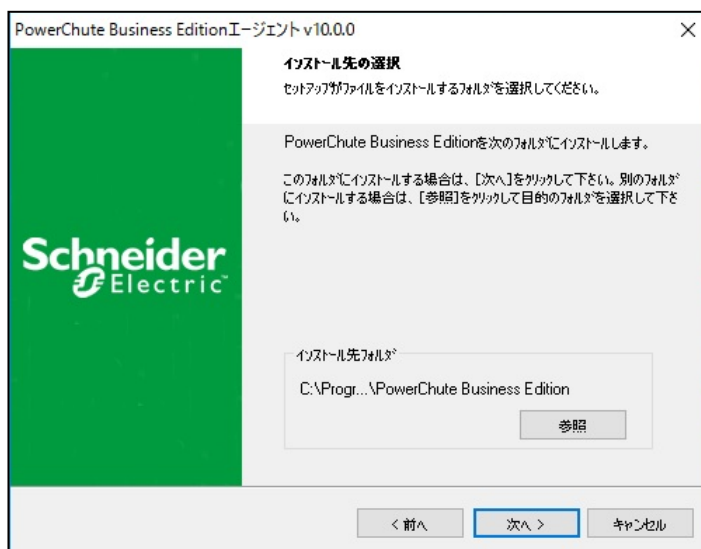
- (6) 使用許諾契約が表示されますのでご確認いただき、「はい」をクリックしてください。



(7) PCBEをインストールするフォルダを指定します。

デフォルトのフォルダ (C:/Program Files (x86)/APC/PowerChute Business Edition) を使用する場合は「次へ」をクリックしてください。

インストールフォルダを変更する場合には「参照」をクリックし、任意のフォルダを選択後に「次へ」をクリックしてください。



(8) 「UPSの通信ポートを自動検出しますか？」とメッセージが表示されます。

「はい」をクリックしてください。

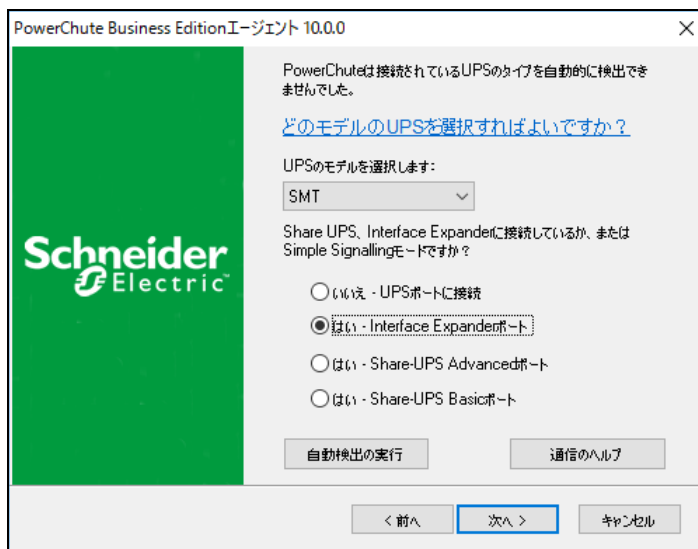


(9) UPSの通信ポートの確認

UPSの通信ポートの自動検出に失敗し、手動によるUPSの選択画面が表示されます。

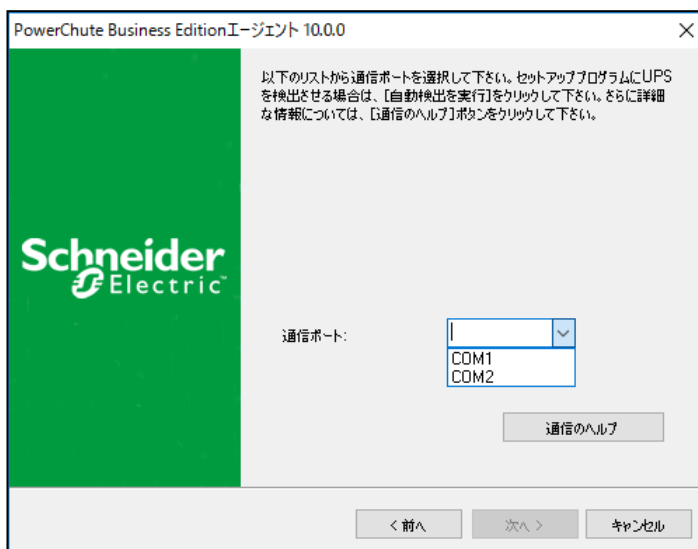
「UPS モデルを選択します:」ではシステム装置と接続された UPS が GQ-BURV1202xxx/1502xxx、GQ-BURW122xxxx/152xxxx、GQ-BUTV752xxx/1002xxx/1502xxx、GQ-BUTW072xxxx/102xxxx/152xxxx の場合には「SMT」を選択し、システム装置と接続された UPS が GQ-BURV3002xxx、GQ-BURW302xxxx の場合には「SMX」を選択してください。

「Share UPS、Interface Expanderに接続しているか、またはSimple Signallingモードですか?」では、「はい、Interface Expanderのポート」を選択し、「次へ」をクリックしてください。



(10) サーバで使用する通信ポートを設定します。

「通信ポート:」にサーバで使用する通信ポートを選択し、「次へ」をクリックします。



(11) PCBEエージェントのユーザ名、パスワードを入力して、「次へ」をクリックしてください。

ユーザ名は6文字以上、128文字以内の長さが必要です。

パスワードには以下の条件が必要となります。

- ・8文字以上、128文字以内の長さ
- ・1つ以上の大文字と小文字
- ・1つ以上の数字または特殊文字。
- ・ユーザ名をパスワードの一部にすることはできません。

PowerChute Business Edition エージェント 10.0.0

PowerChute Business Editionで使用するユーザ名とパスワードを入力して下さい。

ユーザ名

パスワード

パスワードの確認

パスワードは以下が必要です:
大文字1文字と小文字1文字。
数字または記号1文字。
最低8文字の長さ。

< 前へ 次へ > キャンセル

(12) システム装置のファイアウォールが有効の場合には、PCBEエージェントサービスをWindowsファイアウォールの例外に追加するか質問されますので、「はい」をクリックしてください。

質問

PowerChute Business Editionのセットアップは、Windows ファイアウォールが有効になっていることを検知したため、エージェントサービスをWindows ファイアウォールの例外リストに追加します。

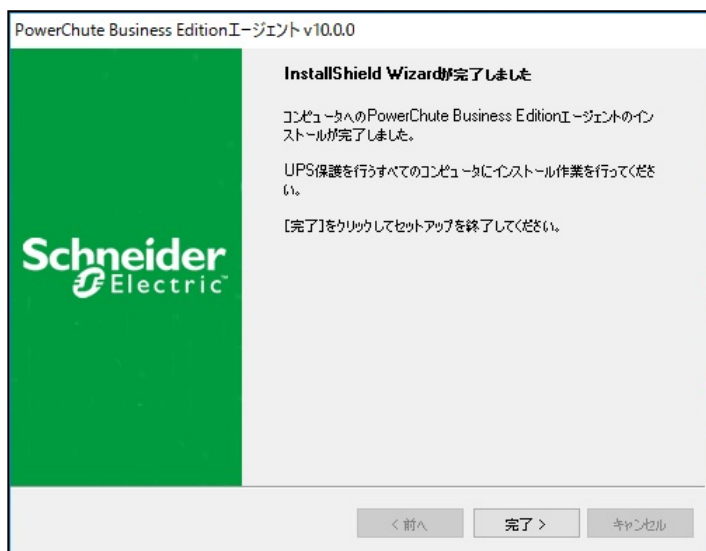
PowerChute Business Editionをネットワーク上で監視・管理するためには、Windows ファイアウォールの例外リストに追加されるエージェントサービスが例外プログラムとして有効になっている必要があります。

エージェントサービスをWindows ファイアウォールの例外プログラムとして有効にしますか？

後でこの設定を変更するためには、Windows ファイアウォールの例外リストに追加される「PowerChute Business Edition エージェント」のチェックボックスを必要に応じてオン・オフしてください。

はい(Y) いいえ(N)

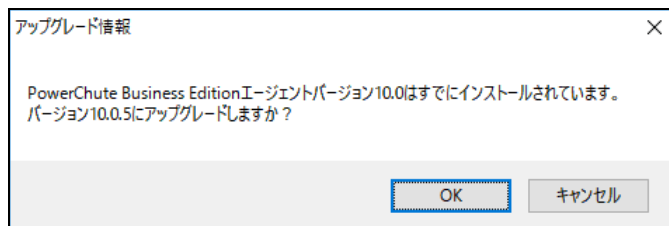
(13) PCBEエージェントのインストールは完了です。「完了」をクリックしてください。



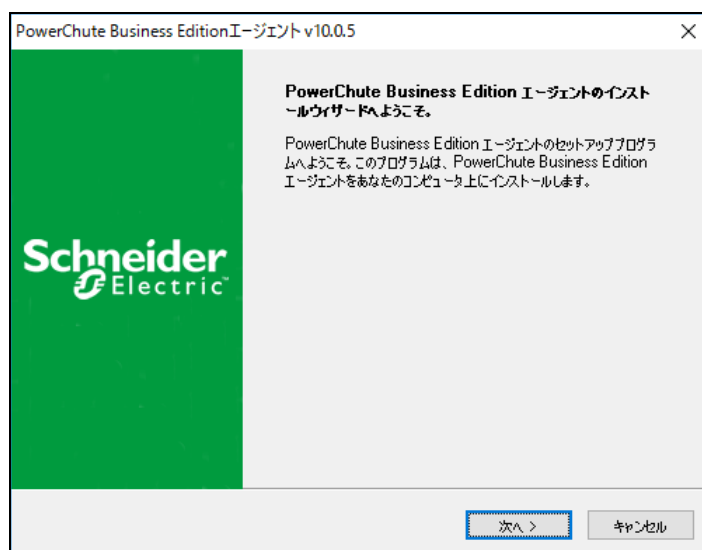
(14) 続けてPCBE v10.0.5へのアップデートを行います。

マニュアルDVDのPCBEv10.0.5¥PCBEv10.0.5-Update-Winフォルダ内のpcbesetup.exeをダブルクリックし、インストールプログラムを起動してインストールを開始してください。

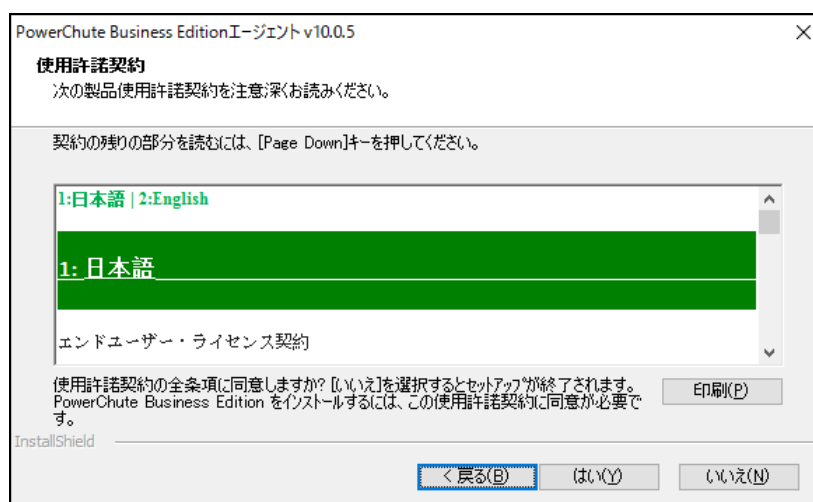
アップデート(アップグレード)情報ダイアログが表示されるので、[OK] をクリックしてください。



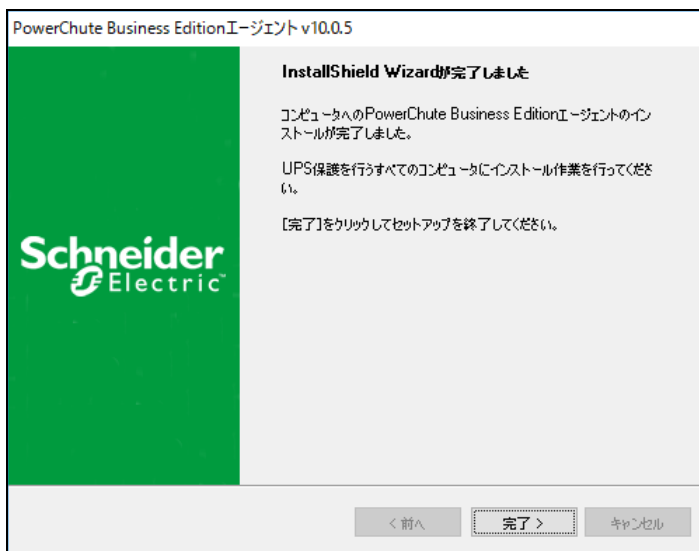
- (15) PowerChute Business Editionエージェントのインストール画面が表示されますので「次へ」をクリックしてください。



- (16) 使用許諾契約が表示されますのでご確認いただき、「はい」をクリックしてください。



(17) PCBE v10.0.5エージェントのアップデートは完了です。「完了」をクリックしてください。



[注意事項]

インストールが完了するとPCBEエージェントは自動的に開始します。また、デフォルトではOS起動時にPCBEエージェントは自動起動されます。

PCBEエージェントの手動停止やOS起動時にPCBEエージェントを自動起動させたくない場合などは、[Windows] - [コントロールパネル] - [システムとセキュリティ] - [管理ツール] - [サービス]を開き、「APC PCBE Agent」のサービスのプロパティで設定してください。

6.2 PCBE エージェントのアンインストール

[Windows] - [コントロールパネル] - [プログラム] - [プログラムと機能] - [プログラムのアンインストール]で「PowerChute Business Edition エージェント」を指定して[アンインストール]を行います。これはWindows上の全コンポーネントで共通です。

[注意事項]

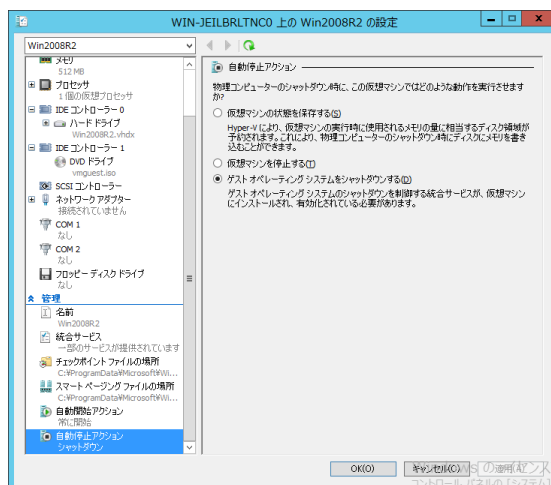
PCBEアンインストール後、いくつかのファイルやフォルダは手動削除が必要な場合があります。インストールフォルダがまだ残っている場合は、その内容ごと削除します。(デフォルトではC:/Program Files (x86)/APC/PowerChute Business Editionフォルダ、またはインストール時に指定したフォルダ)

6.3 Hyper-V 環境における注意事項

(1) Hyper-V 環境での仮想マシンの設定について Hyper-V 機能をご使用の場合、障害発生時の仮想マシンの自動停止設定は、ホスト OS 上で以下の方法で行なってください。自動開始設定については、お客様の運用に従い任意の値を設定してください。

[自動停止アクション設定]

- (a) ホスト OS 上の [Hyper-V マネージャー]を起動します。
- (b) [Hyper-V マネージャー]画面で対象の仮想マシンを選択し、メニューバーより[操作] - [設定]をクリックします。
- (c) 「<仮想マシン名称>の設定」画面で、[管理] - [自動停止アクション]をクリックします。
- (d) ホスト OS がシャットダウンする際の、仮想マシンの動作に「ゲストオペレーティングシステムをシャットダウンする」を選択し、[適用] [OK]をクリックします。
- (e) 全ての仮想マシンで(b)~(d)を実施してください。



補足：本設定でもホストに連動してゲストがシャットダウンしない場合は上図左のメニューにある [管理] - [統合サービス]にあるサービスで「オペレーティングシステムのシャットダウン」にチェックが入っていることを確認してください。(デフォルトでチェックが入っています。)

(2) Windows2012 R2 で Hyper-V を使用される場合の注意事項

ホストシャットダウン時に仮想マシンがシャットダウンしません。マイクロソフトの更新プログラム KB2887595 を適用することにより解決します。

(3) Windows2019 で Hyper-V を使用される場合の注意事項

ホストシャットダウン時に仮想マシンがシャットダウンしません。マイクロソフトの更新プログラム KB4551853 あるいは KB4520062 (OS ビルド 17763.1039 より前の OS ビルド)を適用することにより解決します。

(4) Hyper-V環境へのインストールについての制限事項

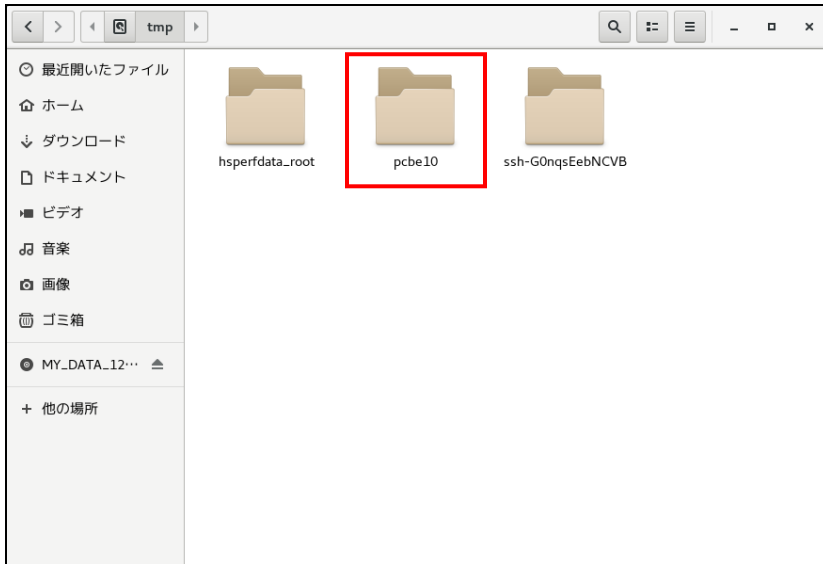
ホストOS上にPCBEをインストールしてください。仮想マシン上のゲストOSへのPCBEのインストールは未サポートです。仮想マシン上のゲストOSへのPCBEのインストールは行なわないでください。

7. RHEL 環境における PCBE のインストール手順

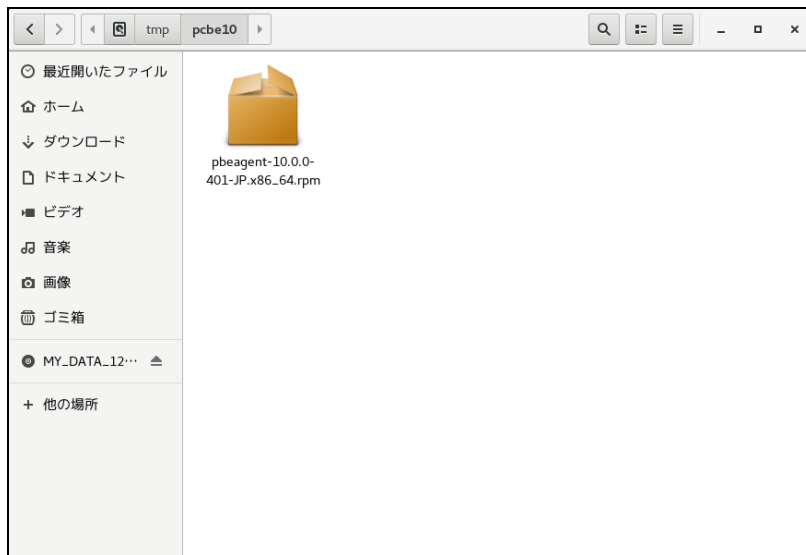
HA8000 シリーズでは、RHEL 環境での PCBE の使用はサポートしていません。
使用されるお客様は PowerChute Network Shutdown をご使用ください。

7.1 PCBE エージェントインストール手順

(1) システム装置のテンポラリディレクトリに「pcbe10」フォルダを作成します。



(2) システム装置にPCBEソフトウェアディスクを入れ、ディスク内のフォルダを開き、「Linux64」フォルダ内のファイルをシステム装置のテンポラリディレクトリの「pcbe10」フォルダにコピーします。以降、「/tmp/pcbe10」の場合を例に説明します。



- (3) 端末を開き、コピーしたテンポラリディレクトリの「pcbe10」フォルダに下記コマンド(波線部)で移動します。

```
[root@localhost ~] # cd /tmp/pcbe10
```

- (4)下記の rpm コマンドを実行して PCBE のインストールを開始します。

PCBE はデフォルトで「/opt/APC/PowerChuteBusinessEdition フォルダ」にインストールされます。

```
[root@localhost pcbe10] # rpm -ivh pbeagent-10.0.0-401-JP.x86_64.rpm
```

- (5)rpm コマンドによるインストールが完了したら、下記コマンドでインストールディレクトリにある設定スクリプト config.sh を実行します。

```
[root@localhost pcbe10] # /opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent/config.sh
```

- (6)端末上に PCBE エージェントの新しいユーザ名の入力が必要されます。新しいユーザ名を入力して「Enter」キーを押します。

ユーザ名は 6 文字以上、128 文字以内の長さが必要です。

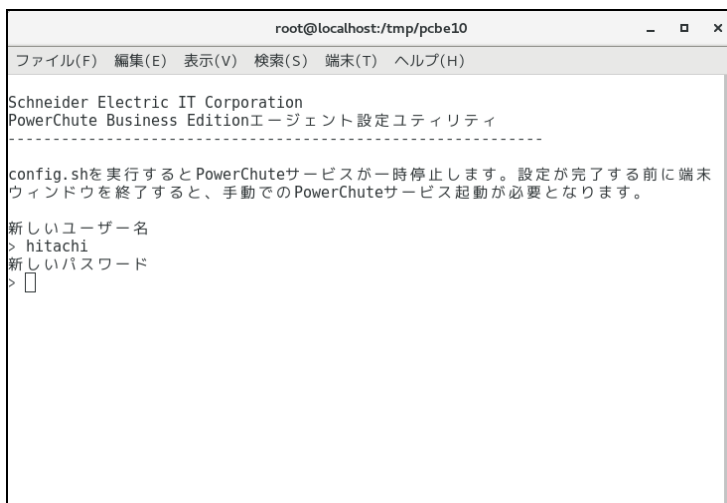


```
root@localhost:~/tmp/pcbe10
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H)
Schneider Electric IT Corporation
PowerChute Business Editionエージェント設定ユーティリティ
-----
config.shを実行するとPowerChuteサービスが一時停止します。設定が完了する前に端末
ウィンドウを終了すると、手動でのPowerChuteサービス起動が必要となります。
新しいユーザー名
> 
```

(7)新しいパスワード入力が必要されますので、新しいパスワードを入力して(入力したパスワードは端末上には表示されません)、「Enter」キーを押します。

パスワードには以下の条件が必要となります。

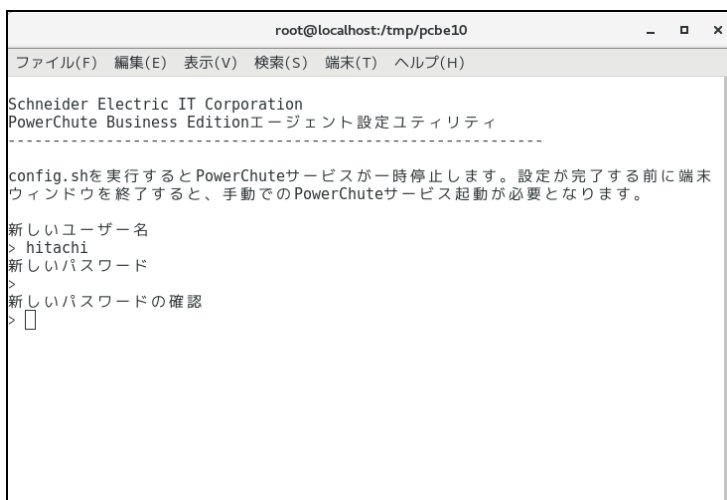
- ・8文字以上、128文字以内の長さ
- ・1つ以上の大文字と小文字
- ・1つ以上の数字または特殊文字。
- ・ユーザ名をパスワードの一部にすることはできません。

A terminal window titled 'root@localhost:/tmp/pcbe10' with a menu bar containing 'ファイル(F)', '編集(E)', '表示(V)', '検索(S)', '端末(T)', and 'ヘルプ(H)'. The terminal output shows the Schneider Electric IT Corporation PowerChute Business Edition agent configuration utility. It displays a warning that the service will stop temporarily during configuration. It prompts for a new user name, which is entered as 'hitachi'. It then prompts for a new password, with the input field shown as an empty box.

```
root@localhost:/tmp/pcbe10
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H)
Schneider Electric IT Corporation
PowerChute Business Editionエージェント設定ユーティリティ
-----
config.shを実行するとPowerChuteサービスが一時停止します。設定が完了する前に端末
ウィンドウを終了すると、手動でのPowerChuteサービス起動が必要となります。

新しいユーザー名
> hitachi
新しいパスワード
> □
```

(8)入力したパスワードの確認が要求されますので(7)で入力したパスワードを再度入力して「Enter」キーを押します。

A terminal window titled 'root@localhost:/tmp/pcbe10' with a menu bar containing 'ファイル(F)', '編集(E)', '表示(V)', '検索(S)', '端末(T)', and 'ヘルプ(H)'. The terminal output shows the same configuration utility as in the previous screenshot. It prompts for a new user name ('hitachi'), a new password, and then a confirmation of the new password. The confirmation input field is shown as an empty box.

```
root@localhost:/tmp/pcbe10
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H)
Schneider Electric IT Corporation
PowerChute Business Editionエージェント設定ユーティリティ
-----
config.shを実行するとPowerChuteサービスが一時停止します。設定が完了する前に端末
ウィンドウを終了すると、手動でのPowerChuteサービス起動が必要となります。

新しいユーザー名
> hitachi
新しいパスワード
>
新しいパスワードの確認
> □
```

(9)接続するUPSのモデルを要求されます。

システム装置と接続されたUPSがGQ-BURV1202NNx/1502NNx、GQ-BURW122xxNx/152xxNx、GQ-BUTV0752NNx/1002NNx/1502NNx、GQ-BUTW072xxNx/102xxNx/152xxNxである場合は[b](SMT)を入力して「Enter」キーを押してください。

システム装置と接続されたUPSがGQ-BURV3002xxx、GQ-BURW302xxxxである場合は[d](SMX)を入力して「Enter」キーを押してください

```
root@localhost:/tmp/pcbe10
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H)
どのモデルのUPSを選択すればよいですか？
以下のリストから、UPSモデルのプレフィックスを選択してください。詳しくは、APCウェブサイト
(http://www.apc.com/us/en/faqs/)のKnowledge Baseの記事FA315835を参照してください。
UPSのモデルを選択します：
[a]: SMC
[b]: SMT
[c]: SRT
[d]: SMX
[e]: SURTD
[f]: SU
[g]: SUA
[h]: SURT
[i]: SY
[j]: SC
[k]: SURTA
[l]: SU4G
[m]: OTHER_TYPE_A
[n]: OTHER_TYPE_B
> [
```

(10)使用するケーブルの種類を要求されますので、[3](USB)を入力して「Enter」キーを押してください。

```
root@localhost:/tmp/pcbe10
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H)
い。
UPSのモデルを選択します：
[a]: SMC
[b]: SMT
[c]: SRT
[d]: SMX
[e]: SURTD
[f]: SU
[g]: SUA
[h]: SURT
[i]: SY
[j]: SC
[k]: SURTA
[l]: SU4G
[m]: OTHER_TYPE_A
[n]: OTHER_TYPE_B
> b
ケーブルの種類：
[1]: Serial
[2]: Simple
[3]: USB
> [
```

(11) 選択した構成の確認を要求されますので、「Yes」を入力して「Enter」キーを押してください。

```

root@localhost:/tmp/pcbe10
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H)
[k]: SURTA
[l]: SU4G
[m]: OTHER_TYPE_A
[n]: OTHER_TYPE_B
> b

ケーブルの種類：
[1]: Serial
[2]: Simple
[3]: USB
> 3

== 選択した構成： ==
ケーブルの種類： USB

UPSは正しく設定されていますか？(Yes or No)
> Yes

```

(12) PCBE エージェントを起動するかを確認されますので、「Yes」を入力して「Enter」キーを押してください。

PCBE エージェントのインストールが完了し、PCBE エージェントを起動します。

```

root@localhost:/tmp/pcbe10
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H)
[k]: SURTA
[l]: SU4G
[m]: OTHER_TYPE_A
[n]: OTHER_TYPE_B
> b

ケーブルの種類：
[1]: Serial
[2]: Simple
[3]: USB
> 3

== 選択した構成： ==
ケーブルの種類： USB

UPSは正しく設定されていますか？(Yes or No)
> Yes

PowerChute Business Editionエージェントを起動しますか？(Yes or No)
> 

```

(13) 続けて PCBE v10.0.5 へのアップデートを行います。

システム装置にPCBEマニュアルディスクを入れ、ディスク内のフォルダを開き、「PCBEv10.0.5-Update-Linux」フォルダ内のファイルをシステム装置のテンポラリディレクトリの「pcbe10」フォルダにコピーします。以降、「/tmp/pcbe10」の場合を例に説明します。

- (14) コピーしたファイルに対し、「/tmp/pcbe10」ディレクトリからtarコマンドを使用してアップデートに使用するファイルを展開します。

```
[root@localhost pcbe10]# tar -xzvf pcbeagent-10.0.5-401-JP.x86_64.tar.gz
EULA/
EULA/PCBE_EULA_Chinese.txt
EULA/PCBE_EULA_English.txt
EULA/PCBE_EULA_French.txt
EULA/PCBE_EULA_German.txt
EULA/PCBE_EULA_Indonesian.txt
EULA/PCBE_EULA_Italian.txt
EULA/PCBE_EULA_Japanese.txt
EULA/PCBE_EULA_Kazakh.txt
EULA/PCBE_EULA_Korean.txt
EULA/PCBE_EULA_Portuguese.txt
EULA/PCBE_EULA_Romanian.txt
EULA/PCBE_EULA_Russian.txt
EULA/PCBE_EULA_Spanish.txt
EULA/PCBE_EULA_Turkish.txt
EULA/PCBE_EULA_Ukrainian.txt
install_pbeagent_linux.sh
pcbeagent-10.0.5-401-JP.x86_64.rpm
[root@localhost pcbe10]#
```

- (15) 展開したファイルの「install_pbeagent_linux.sh」を実行すると、使用許諾契約(EULA)の表示言語を問われるので、言語を番号で選択して表示しますので、ご確認ください。
(1画面分表示すると表示が一時停止しますので。スペースキーなどで続きを表示します)

```
[root@localhost pcbe10]# ./install_pbeagent_linux.sh
== PowerChute Business Edition エージェントのインストール ==

PowerChute のアップグレード手順については、インストールガイドを参照してください。

EULA 言語を選択します (デフォルト : 英語) 1:English | 2:日本語 | 3:Deutsch | 4:P
у с с к и й | 5:Francais | 6:Espanola | 7:中文 | 8:Bahasa Indonesia | 9:Italiano
| 10:к з а х | 11:??? | 12:Portugues | 13:Roman? | 14:у к р а ? н с ь к а | 15:Turk
2
エンドユーザー・ライセンス契約

(2020-02-25)

重要 - よくお読みください:

本契約書は、付随するソフトウェア製品の提供が、試用、購入、ライセンス、またはその
他のいかなる形態をとっているかに関係なく適用されるため、よくお読みください。
...
```

- (16) 使用許諾契約(EULA)を全て表示終わると、同意を求められますので、「Y」+エンターキーで同意すると、PCBEをアップグレードするかの確認を求められます。

「Y」+エンターキーを押すと、PCBE v10.0.5へアップグレード(アップデート)が実行されます。

...

- 「サイト」という用語は、シュナイダー・エレクトリックが当初ソフトウェア製品を供給した施設だけでなく、お客様の会社および会社のグループのすべての施設を指します。施設は同じ国または複数の国に存在していてもかまいません。

上記のライセンス条項に同意しますか？ [Y = はい/N = いいえ]

y

PowerChute Business Edition エージェントは既にインストールされています。

PowerChute をアップグレードしますか？ ["yes"または"no"]y

PowerChute Business Edition エージェントのアップグレード中.....

PowerChute Business Edition エージェントのインストール中.....完了

[root@localhost pcbe10]#

7.2 起動と停止

以下のコマンドを使用して PCBE エージェントサービスの停止と起動を行います。
PCBE エージェントサービスを停止するには、端末で次のコマンドを実行します。

```
[root@localhost ~] # /etc/init.d/PBEAgent stop
```

LinuxOS の種類やバージョンによって/etc/init.d が存在しない場合がございます。

上記コマンドで PCBE エージェントサービスが停止しない場合には、端末で次のコマンドを実行します。

```
[root@localhost ~] # systemctl stop PBEAgent
```

PCBE エージェントサービスを手動で起動するには、端末で次のコマンドを実行します。

```
[root@localhost ~] # /etc/init.d/PBEAgent start
```

LinuxOS の種類やバージョンによって/etc/init.d が存在しない場合がございます。

上記コマンドで PCBE エージェントサービスが起動しない場合には、端末で次のコマンドを実行します。

```
[root@localhost ~] # systemctl PBEAgent start
```

7.3 PCBE のアンインストール

PCBE エージェントをアンインストールする場合は、端末で次のコマンドを実行します。

```
[root@localhost ~] # rpm -e pbeagent
```

8. VMware ESXi 環境における PCBE のインストール手順

HA8000V シリーズでは、VMware ESXi 環境での PCBE の使用はサポートしていません。

使用されるお客様は PowerChute Network Shutdown をご使用ください。

PCBE は VMwareHA 環境をサポートしていません。VMwareHA を使用されるお客様は PowerChute Network Shutdown をご使用ください。

8.1 vMA の導入

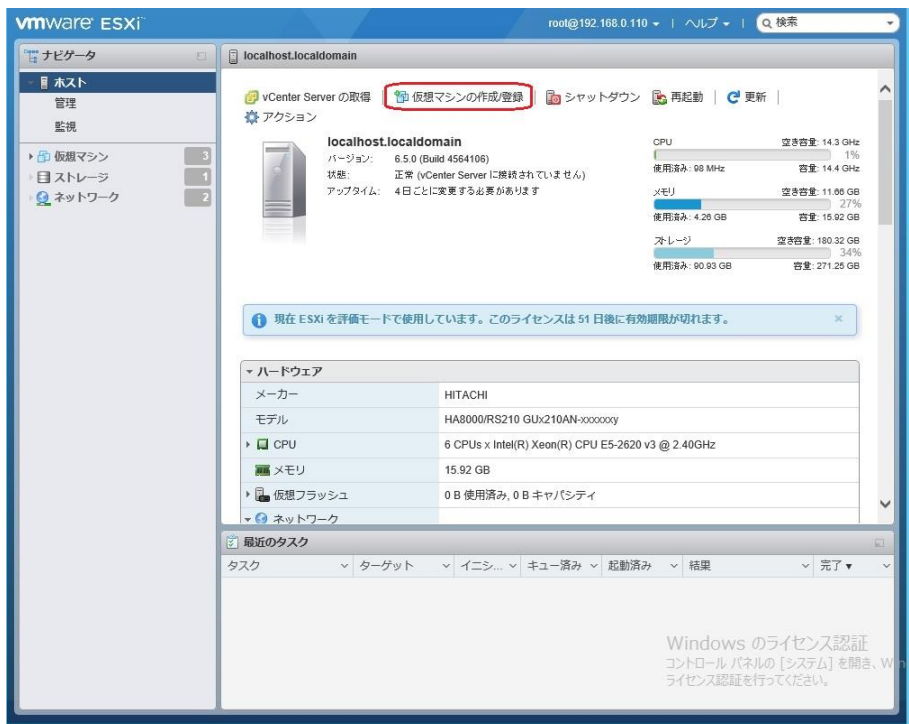
VMwareESXi では、直接インストールが許可されていないため、PCBE エージェント を ESXi ホストで使用するには、vMA をインストールする必要があります。

vSphere Management Assistant から vMA のインストールファイルをダウンロードして、ファイルを抽出します。使用可能な vMA のバージョンに関しましては、弊社担当営業にご確認ください。

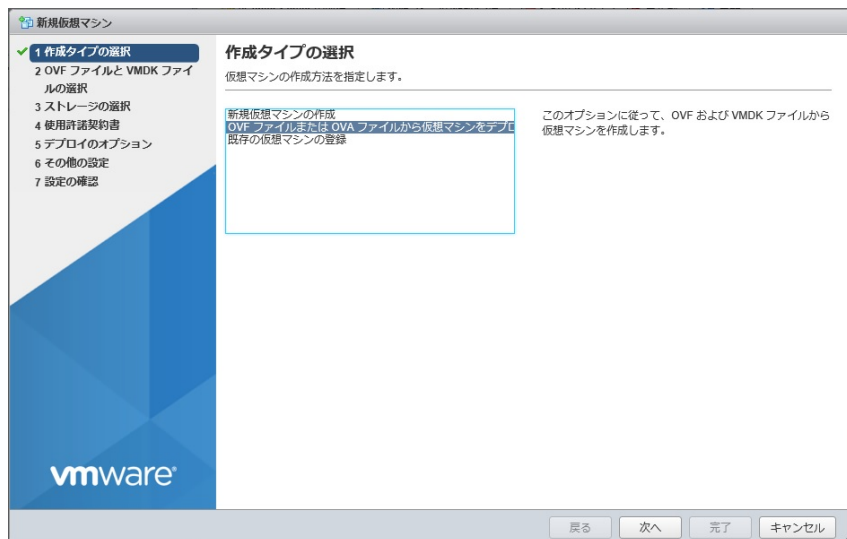
また、VMware ESXi 6.7 以降は vMA が提供されていないため、PCBE の使用はサポートしていません。使用されるお客様は PowerChute Network Shutdown をご使用ください。

8.1.1 Host Client を使用して vMA をインストール

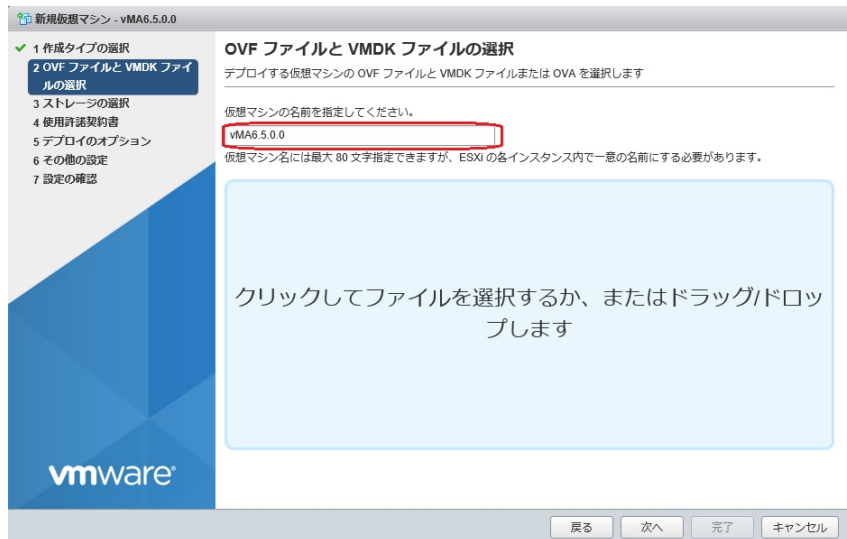
- (1) 管理サーバなどから Host Client を使用して、ESXi ホストサーバまたは vCenter サーバにログオンします。
- (2) 画面左側の[ナビゲータ]から[ホスト]を選択し、[仮想マシンの作成/登録]をクリックします。



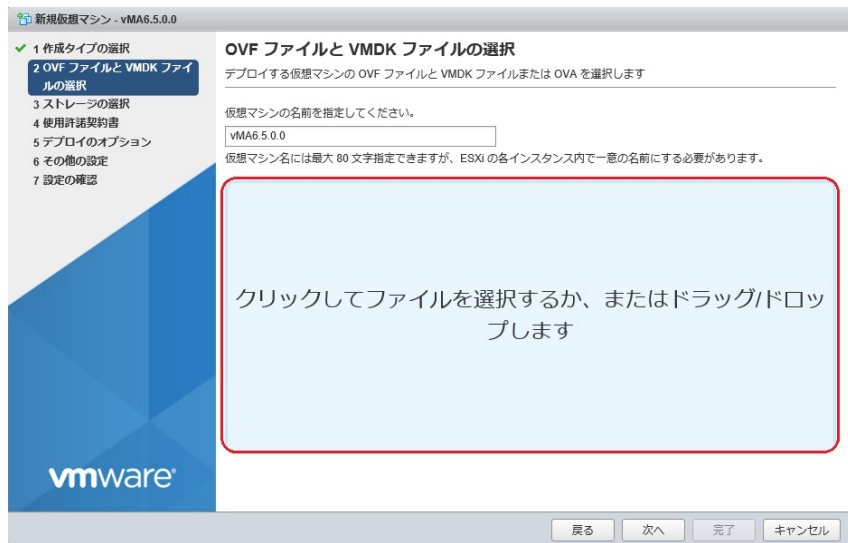
- (3) [作成タイプの選択]で[OVFファイルまたはOVAファイルから仮想マシンをデプロイ]を選択し、[次へ]をクリックします。



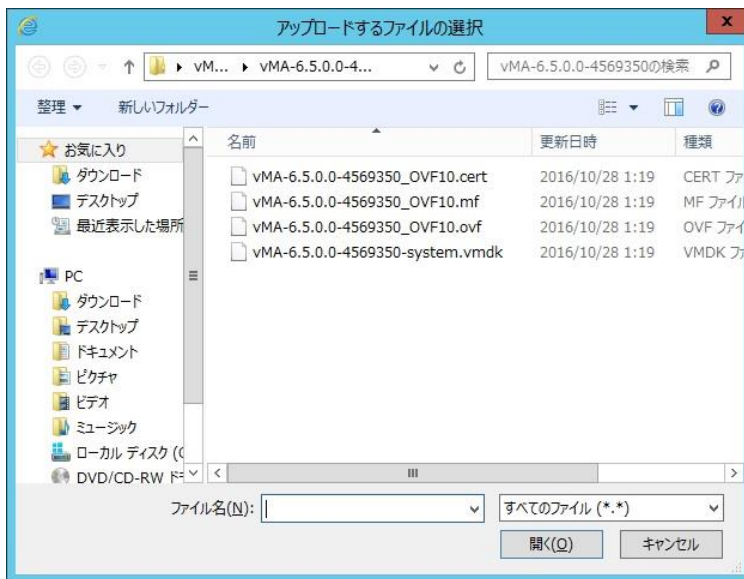
- (4) [OVFファイルとVMDKファイルの選択]でデプロイする仮想アプライアンスの仮想マシンに任意の名前を指定します。



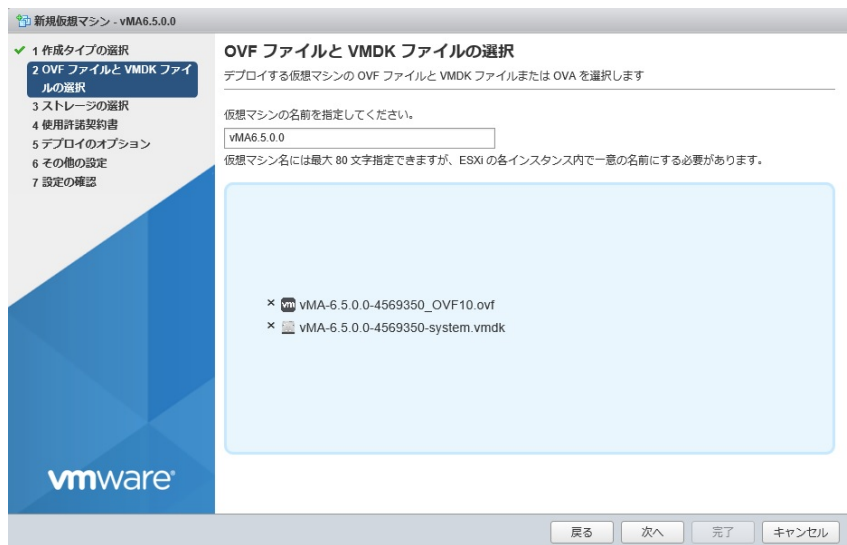
(5)次に画面中央の[クリックしてファイルを選択するか、またはドラッグ/ドロップします]をクリックします。



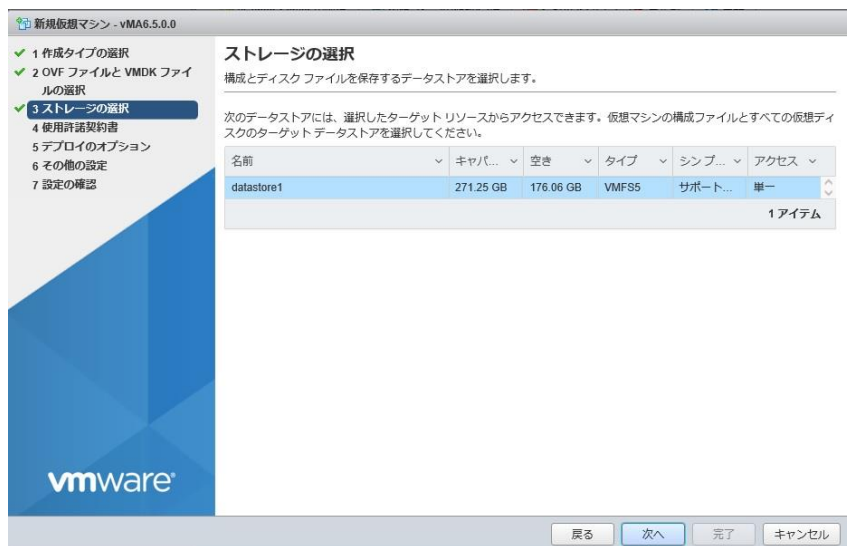
(6)[アップロードするファイルの選択]画面が表示されますので、ダウンロードした vMA のインストールファイルから OVF ファイルと VMDK ファイルを選択し、[開く]をクリックします。



(7) 画面中央にOVFファイルとVMDKファイルが表示されていることを確認して、[次へ]をクリックします。



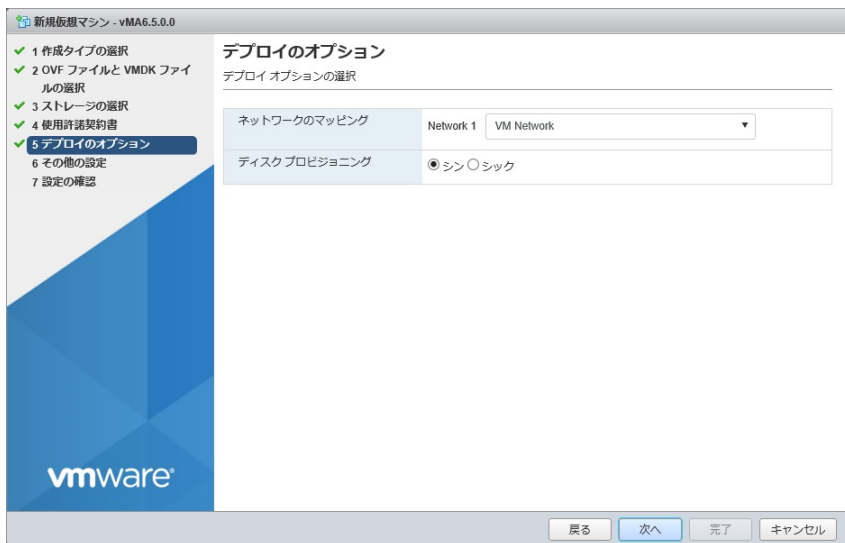
(8) [ストレージの選択]で、仮想アプライアンスをデプロイするデータストアを選択して、[次へ]をクリックします。



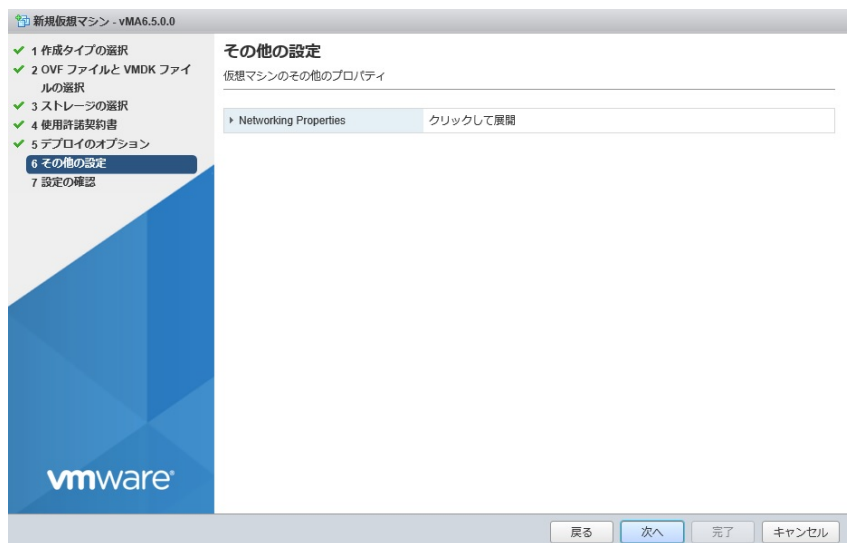
(9)[使用許諾契約書]で[同意します]をクリックしてから、[次へ]をクリックします。



(10)[デプロイのオプション]は変更せずに、[次へ]をクリックします。



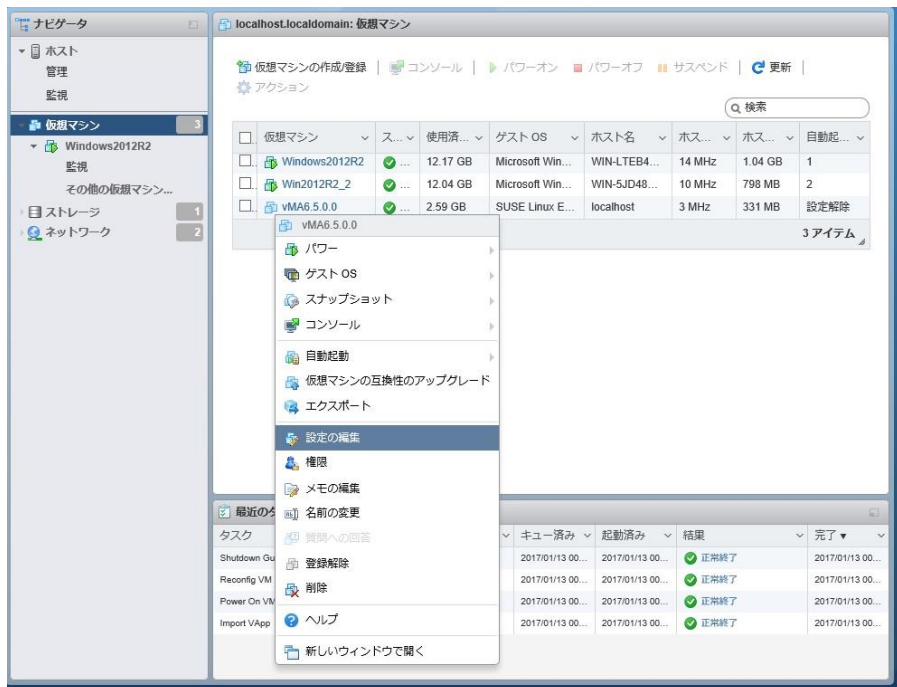
(11)[その他の設定]は変更せずに、[次へ]をクリックします。



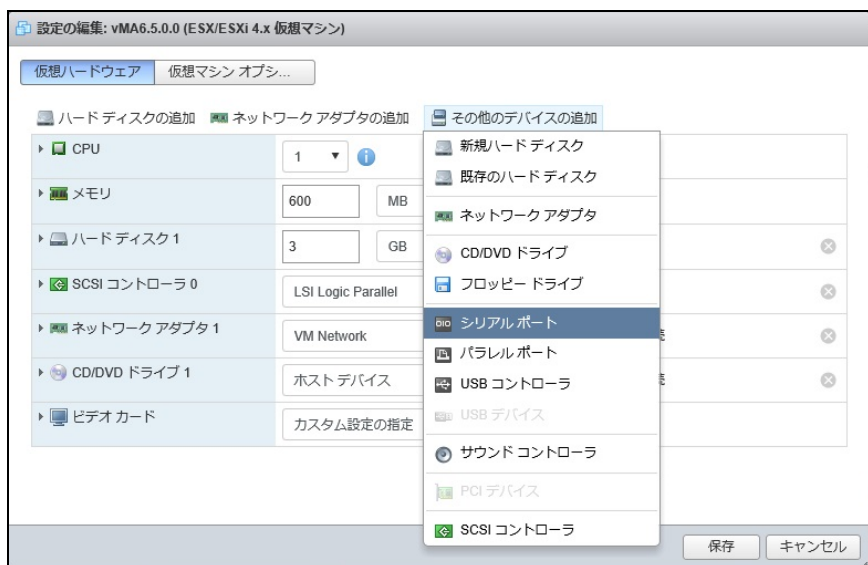
(12)[設定の確認]で設定した内容に間違いがないことを確認してから、[完了]をクリックします。



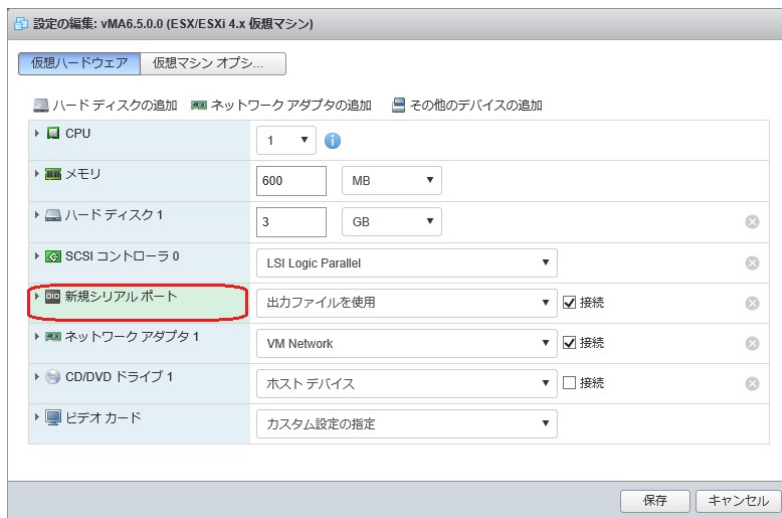
(13) デプロイ完了後、ナビゲータの仮想マシンを選択し、仮想マシンの vMA を右クリックし、[設定の編集]を選択します。(もし、vMA が起動しているようであれば停止してからさせてから実施します)



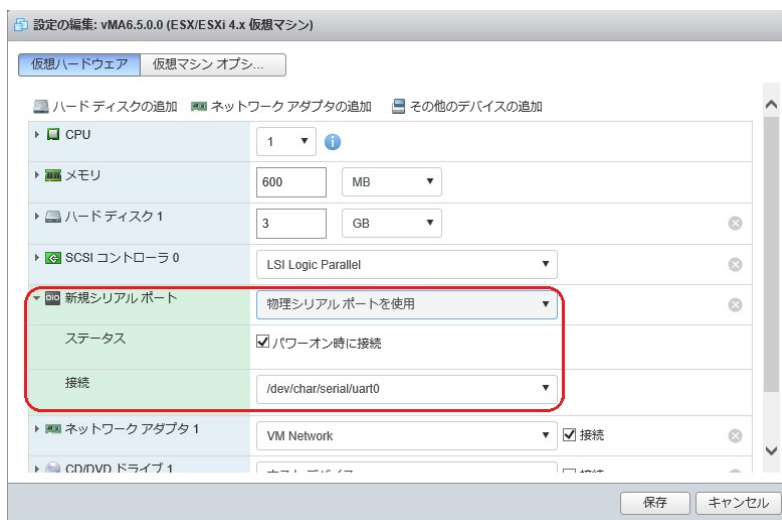
(14) [設定の編集]画面が表示されるので、[その他のデバイスの追加]をクリックし、[シリアルポート]を選択します。



(15)[設定の編集]画面に[新規シリアルポート]が追加されるのでクリックします。



(16)[新規シリアルポート]の設定に[物理シリアルポートを使用]を選択し、[ステータス]の[パワーオン時に接続]にチェックを付けます。[接続]は任意の物理シリアルポートを設定してください。

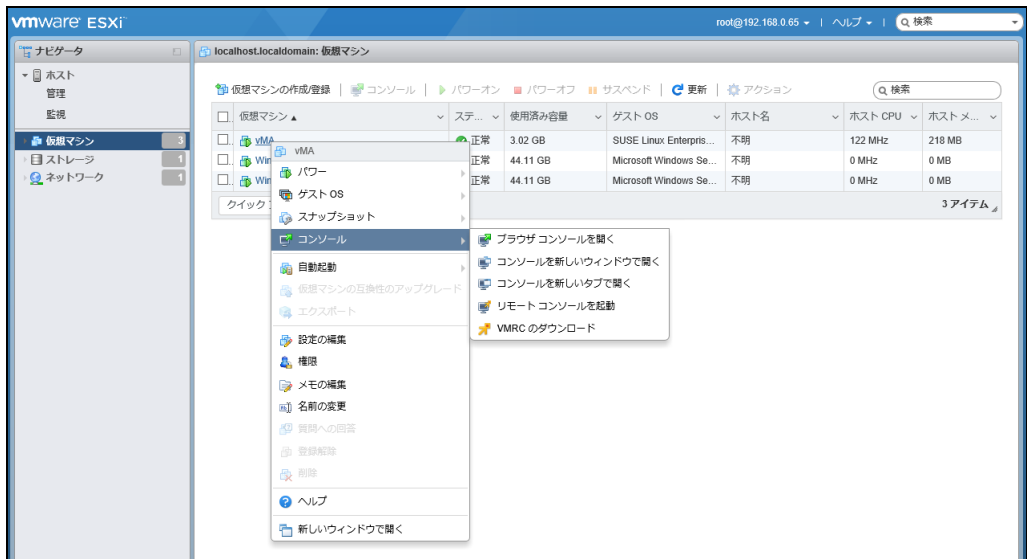


(17)[新規シリアルポート]の設定が完了したら、[保存]をクリックして[設定の編集]を終了します。

(18) vMA の仮想マシンの電源を入れ、IP アドレスの設定、vi-admin パスワードの設定などに関する指示に従います。

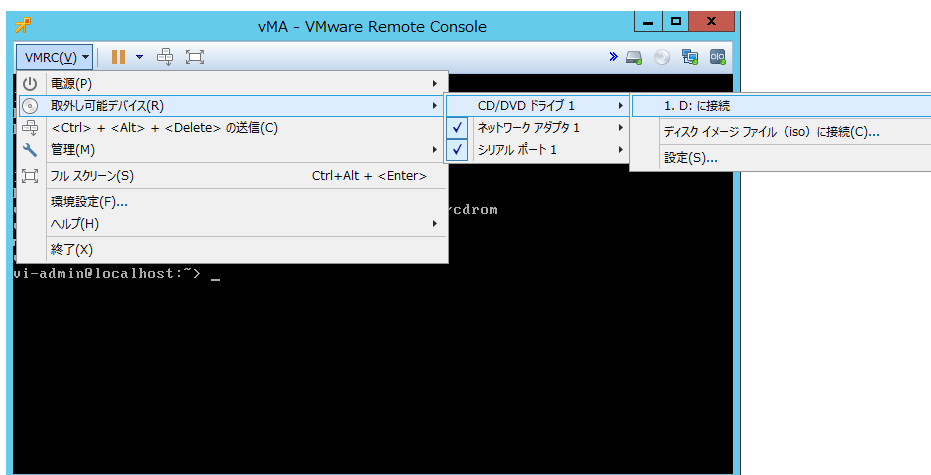
8.2 PCBE インストール手順

- (1) 管理サーバなどから Host Client を起動し、左側ペインの仮想マシンを選択し、右側ペインに表示される vMA を右クリックし、「コンソール」から「リモートコンソールを起動」を選択します。



- (注) リモートコンソールの起動に失敗した場合には、vMA を右クリックし、「コンソール」から「VMRC のダウンロード」を選択します。VMRC ファイルをダウンロードしたら実行し、セットアップウィザードに従い、VMware Remote Console を管理サーバなどへインストールします。VMware Remote Console のインストールが完了したら、再度 vMA を右クリックし、「コンソール」から「リモートコンソールを起動」を選択します。

- (2) リモートコンソールが起動したら、左上の「VMRC(V)」をクリックし、「取り外し可能デバイス(R)」-「CD/DVD ドライブ 1」を選択し、「1. D:に接続」をクリックします。

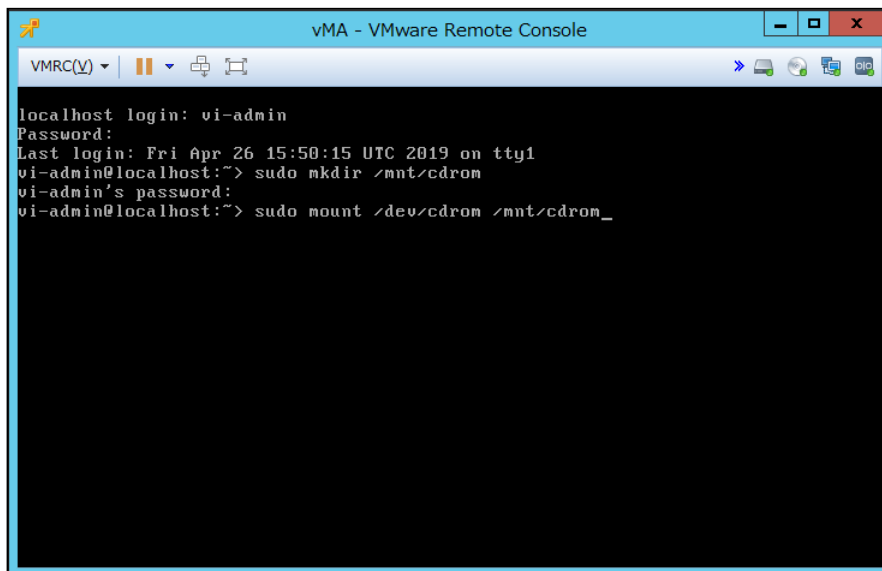


(3) Host Client を起動したサーバのドライブに CD-ROM を挿入し、リモートコンソールで以下のコマンドを実行して CD-ROM マウントします。

* ディレクトリがない場合は、最初にディレクトリを作成し、マウントします。

```
sudo mkdir /mnt/cdrom
```

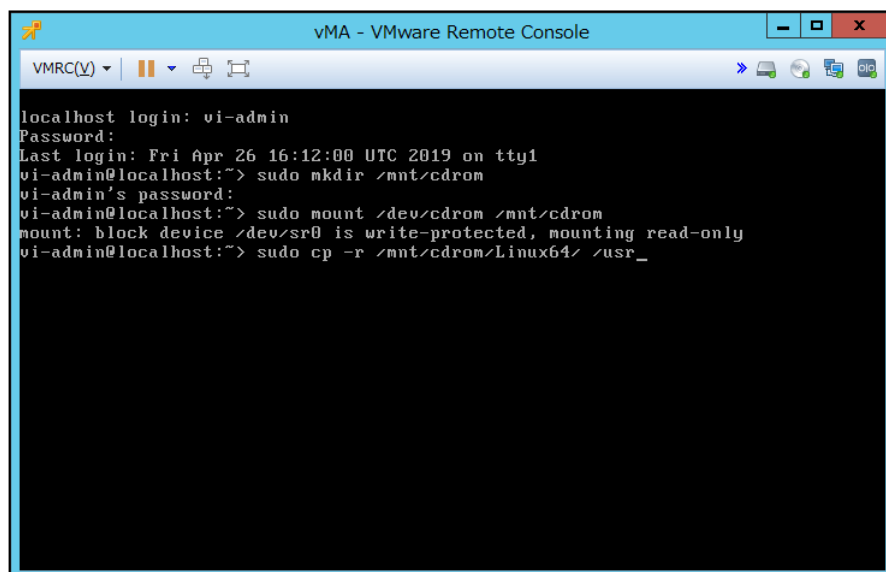
```
sudo mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```



```
vMA - VMware Remote Console
VMRC(V) | [Icons]
localhost login: vi-admin
Password:
Last login: Fri Apr 26 15:50:15 UTC 2019 on tty1
vi-admin@localhost:~> sudo mkdir /mnt/cdrom
vi-admin's password:
vi-admin@localhost:~> sudo mount /dev/cdrom /mnt/cdrom_
```

(4) CD-ROM をマウント後、以下のコマンドで vMA 上の「/usr」フォルダに PCBE のインストール CD-ROM にある「Linux64」フォルダをコピーします。

```
sudo cp -r /mnt/cdrom/Linux64 /usr
```

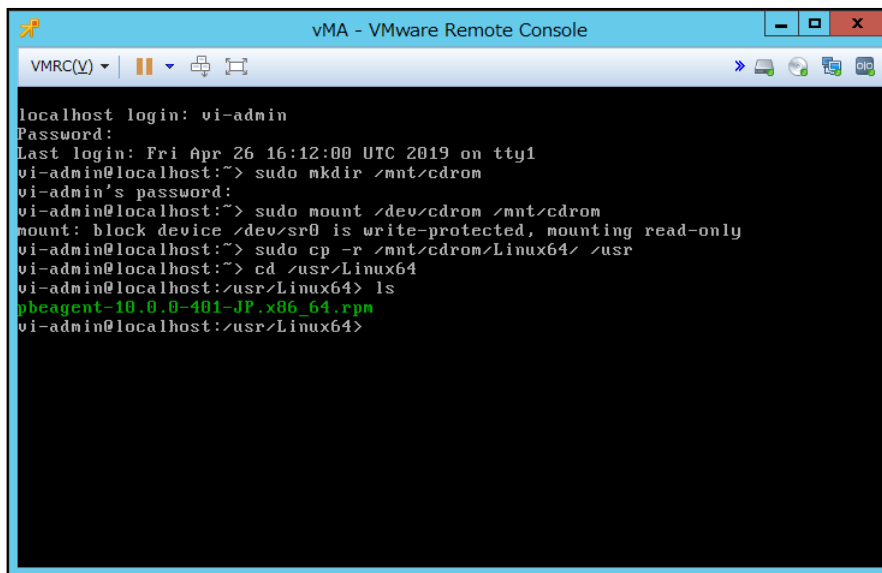


```
vMA - VMware Remote Console
VMRC(V) | [Icons]
localhost login: vi-admin
Password:
Last login: Fri Apr 26 16:12:00 UTC 2019 on tty1
vi-admin@localhost:~> sudo mkdir /mnt/cdrom
vi-admin's password:
vi-admin@localhost:~> sudo mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
mount: block device /dev/sr0 is write-protected, mounting read-only
vi-admin@localhost:~> sudo cp -r /mnt/cdrom/Linux64 /usr_
```

- (5) 以下のコマンドでコピーした「Linux64」フォルダに移動し、「ls」コマンドでファイルが正常にコピーされたことを確認します。

```
cd /usr/Linux64
```

```
ls
```

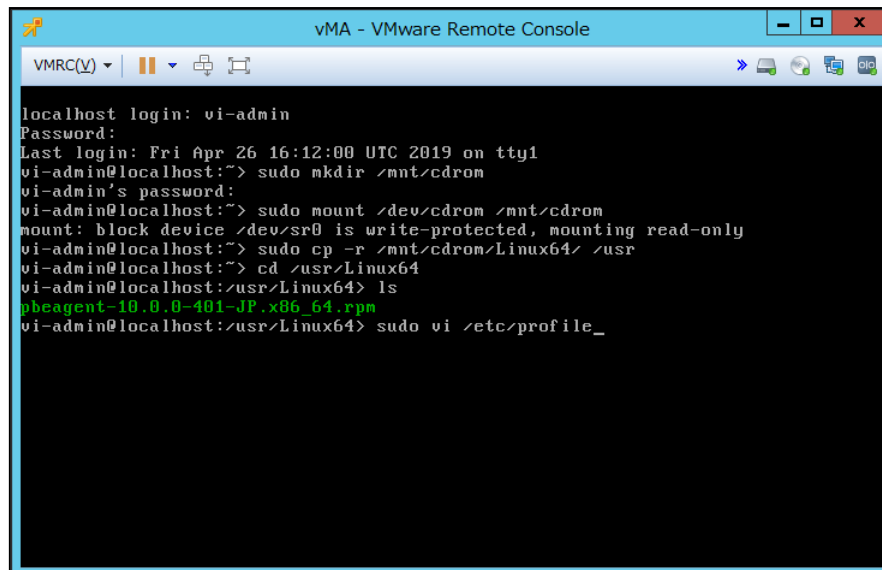


```
vMA - VMware Remote Console
VMRC(V)
localhost login: vi-admin
Password:
Last login: Fri Apr 26 16:12:00 UTC 2019 on tty1
vi-admin@localhost:~> sudo mkdir /mnt/cdrom
vi-admin's password:
vi-admin@localhost:~> sudo mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
mount: block device /dev/sr0 is write-protected, mounting read-only
vi-admin@localhost:~> sudo cp -r /mnt/cdrom/Linux64/ /usr
vi-admin@localhost:~> cd /usr/Linux64
vi-admin@localhost:/usr/Linux64> ls
pbeagent-10.0.0-401-JP.x86_64.rpm
vi-admin@localhost:/usr/Linux64>
```

- (6) PCBE のインストールを実行する前にvMA のロケールを English に変更します。

①次のコマンドを入力してプロファイルファイルを開きます。

```
sudo vi /etc/profile
```



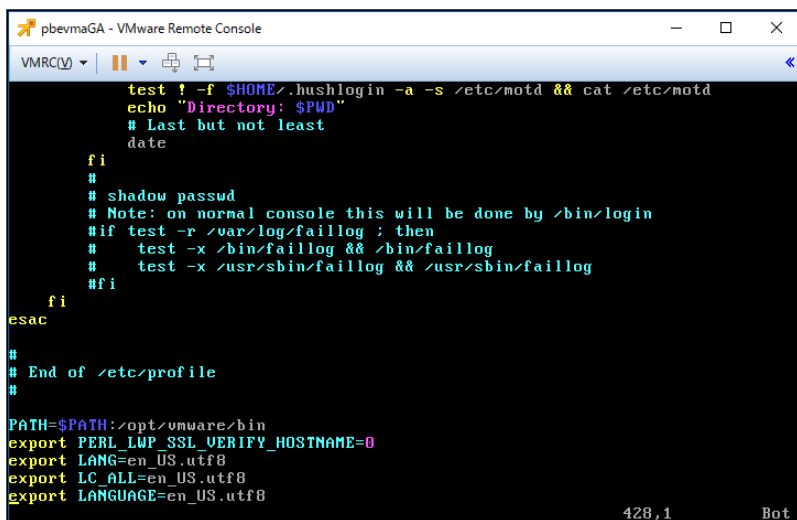
```
vMA - VMware Remote Console
VMRC(V)
localhost login: vi-admin
Password:
Last login: Fri Apr 26 16:12:00 UTC 2019 on tty1
vi-admin@localhost:~> sudo mkdir /mnt/cdrom
vi-admin's password:
vi-admin@localhost:~> sudo mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
mount: block device /dev/sr0 is write-protected, mounting read-only
vi-admin@localhost:~> sudo cp -r /mnt/cdrom/Linux64/ /usr
vi-admin@localhost:~> cd /usr/Linux64
vi-admin@localhost:/usr/Linux64> ls
pbeagent-10.0.0-401-JP.x86_64.rpm
vi-admin@localhost:/usr/Linux64> sudo vi /etc/profile_
```

②以下をプロファイルファイルの最後の行に追加します。

```
export LANG=en_US.utf8
export LC_ALL=en_US.utf8
export LANGUAGE=en_US.utf8
```

③プロファイルファイルに“export LANG=C.utf8”を含む行がある場合には削除します。

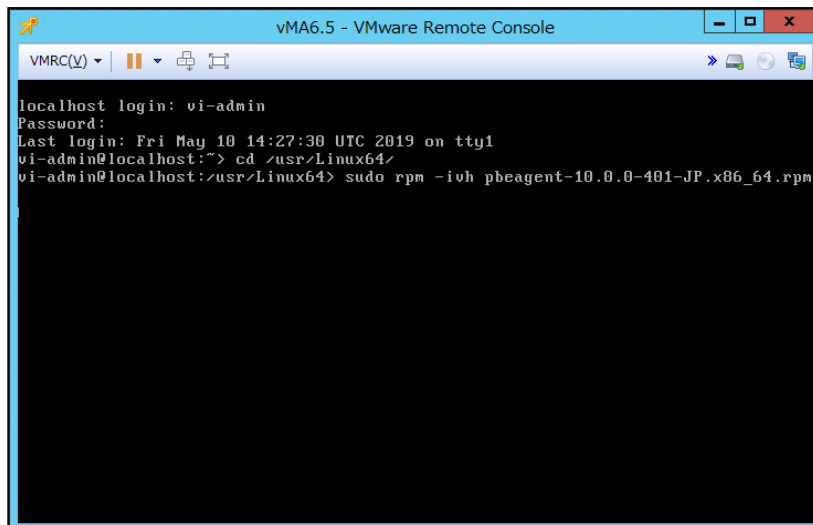
④プロファイルファイルを保存し、vMA を再起動します。



```
pbevmaGA - VMware Remote Console
VMRC(Y)
test ! -f $HOME/.hushlogin -a -s /etc/motd && cat /etc/motd
echo "Directory: $PWD"
# Last but not least
date
fi
#
# shadow passwd
# Note: on normal console this will be done by /bin/login
# if test -r /var/log/faillog ; then
#   test -x /bin/faillog && /bin/faillog
#   test -x /usr/sbin/faillog && /usr/sbin/faillog
# fi
fi
esac
#
# End of /etc/profile
#
PATH=$PATH:/opt/vmware/bin
export PERL_LWP_SSL_VERIFY_HOSTNAME=0
export LANG=en_US.utf8
export LC_ALL=en_US.utf8
export LANGUAGE=en_US.utf8
428,1 Bot
```

(7) vMA 再起動後、以下のコマンドでコピーした「Linux64」フォルダに移動し、rpm コマンドを実行してインストールを開始します。

```
cd /usr/Linux64
sudo rpm -ivh pbeagent-10.0.0-401-jp.x86_64.rpm
```

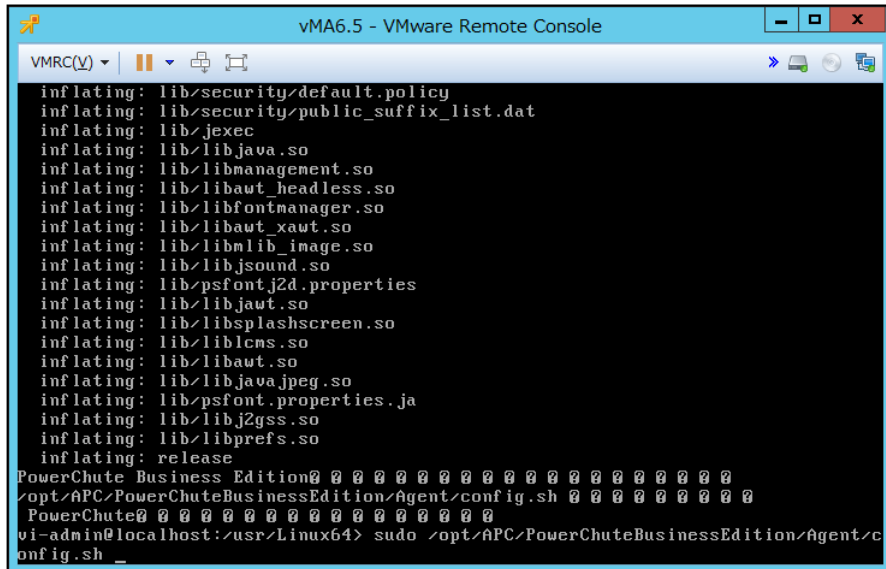


```
vMA6.5 - VMware Remote Console
VMRC(Y)
localhost login: vi-admin
Password:
Last login: Fri May 10 14:27:30 UTC 2019 on tty1
vi-admin@localhost:~> cd /usr/Linux64/
vi-admin@localhost:~/Linux64> sudo rpm -ivh pbeagent-10.0.0-401-JP.x86_64.rpm
```

(8) PCBEのインストールが完了すると、インストールディレクトリにある設定スクリプトのconfig.sh を実行して、PCBEの設定を行う必要があります。

以下のコマンドを実行し、PCBE の設定を開始します。

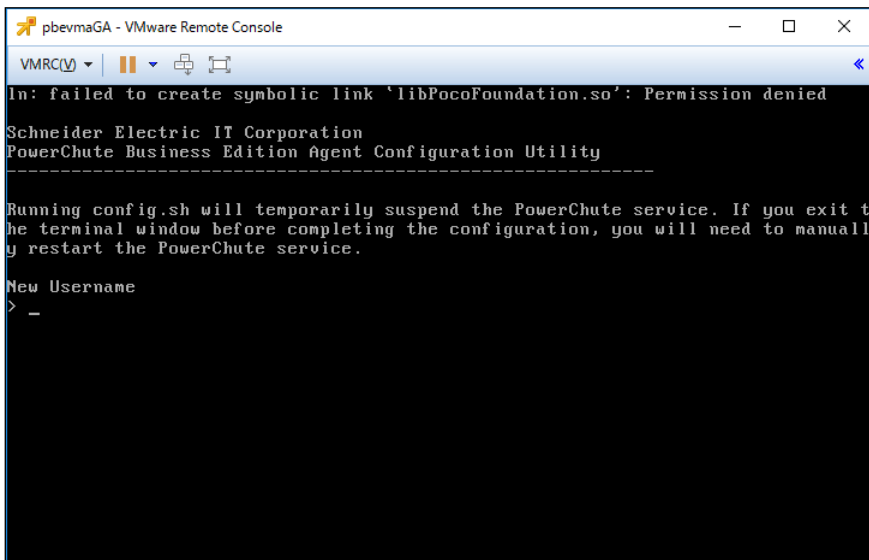
```
sudo /opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent/config.sh
```



```
vMA6.5 - VMware Remote Console
VMRC(V) | || |
inflating: lib/security/default.policy
inflating: lib/security/public_suffix_list.dat
inflating: lib/jexec
inflating: lib/libjava.so
inflating: lib/libmanagement.so
inflating: lib/libawt_headless.so
inflating: lib/libfontmanager.so
inflating: lib/libawt_xawt.so
inflating: lib/libmlib_image.so
inflating: lib/libjsound.so
inflating: lib/psfontj2d.properties
inflating: lib/libjaut.so
inflating: lib/libsplashscreen.so
inflating: lib/liblcms.so
inflating: lib/libawt.so
inflating: lib/libjava.jpeg.so
inflating: lib/psfont.properties.ja
inflating: lib/libj2gss.so
inflating: lib/libprefs.so
inflating: release
PowerChute Business Edition@ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @
/opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent/config.sh @ @ @ @ @ @ @ @ @ @
PowerChute@ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @
wi-admin@localhost:/usr/Linux64> sudo /opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent/c
onfig.sh _
```

(9) 端末上に PCBE エージェントの新しいユーザ名の入力が必要されます。新しいユーザ名を入力して「Enter」キーを押します。

ユーザ名は 6 文字以上、128 文字以内の長さが必要です。



```
pbevmaGA - VMware Remote Console
VMRC(V) | || |
ln: failed to create symbolic link 'libPocoFoundation.so': Permission denied

Schneider Electric IT Corporation
PowerChute Business Edition Agent Configuration Utility
-----

Running config.sh will temporarily suspend the PowerChute service. If you exit t
he terminal window before completing the configuration, you will need to manuall
y restart the PowerChute service.

New Username
> _
```

(10) ユーザ名入力後は新しいパスワード入力が必要されますので、新しいパスワードを入力して(入力したパスワードは端末上には表示されません)、「Enter」キーを押します。

パスワードには以下の条件が必要となります。

- ・8 文字以上、128 文字以内の長さ
- ・1 つ以上の大文字と小文字
- ・1 つ以上の数字または特殊文字。
- ・ユーザ名をパスワードの一部にすることはできません。

入力したパスワードの確認が要求されますので入力したパスワードを再度入力して「Enter」キーを押します。

```
pbevmaGA - VMware Remote Console
VMRC(V) | | | |
In: failed to create symbolic link 'libPocoFoundation.so': Permission denied
Schneider Electric IT Corporation
PowerChute Business Edition Agent Configuration Utility
-----
Running config.sh will temporarily suspend the PowerChute service. If you exit the terminal window before completing the configuration, you will need to manually restart the PowerChute service.

New Username
> apcAPC
New Password
>
Confirm New Password
> -
```

(11) 接続する UPS のモデルを要求されます。

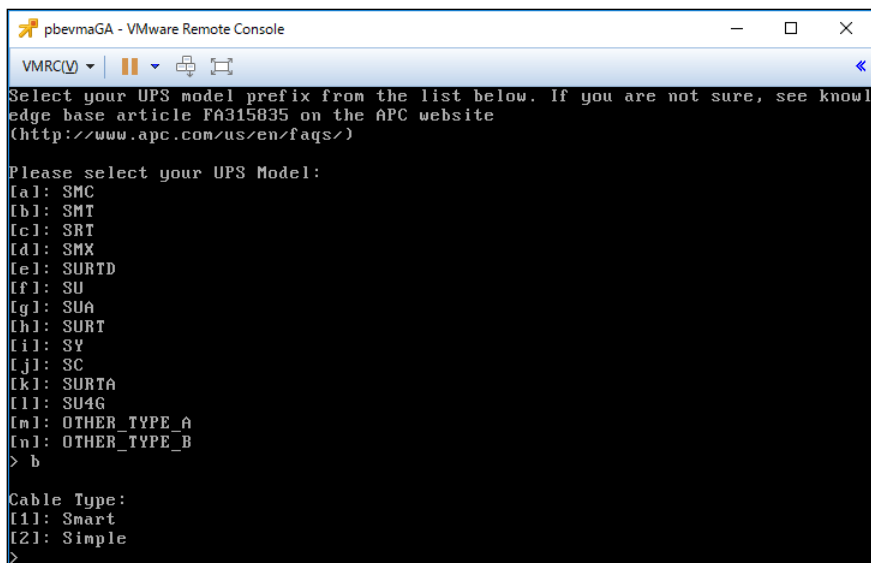
システム装置と接続された UPS が GQ-BURA120xNNx/150xNNx、GQ-BURW122xxNx/152xxNx、GQ-BUTA75xNNx/100xNNx/150xNNx、GQ-BUTW072xxNx/102xxNx/152xxNx である場合は [b](SMT)を入力して「Enter」キーを押してください。

システム装置と接続された UPS が GQ-BURA3002xxx、GQ-BURW302xxxx である場合は [d](SMX)を入力して「Enter」キーを押します。

```
pbevmaGA - VMware Remote Console
VMRC(V) | | | |
Confirm New Password
>
Which UPS model should I select?
Select your UPS model prefix from the list below. If you are not sure, see knowledge base article FA315835 on the APC website
(http://www.apc.com/us/en/faqs/)

Please select your UPS Model:
[a]: SMC
[b]: SMT
[c]: SRT
[d]: SMX
[e]: SURTD
[f]: SU
[g]: SUA
[h]: SURT
[i]: SY
[j]: SC
[k]: SURTA
[l]: SU4G
[m]: OTHER_TYPE_A
[n]: OTHER_TYPE_B
> -
```

(12) 使用するケーブルの種類を要求されますので、[1](Smart)を入力して「Enter」キーを押します。

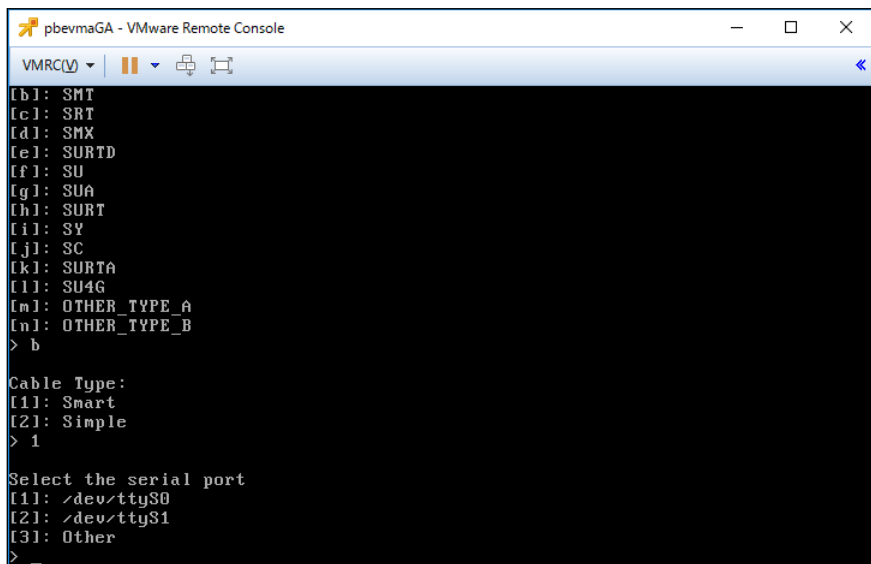


```
pbevmaGA - VMware Remote Console
VMRC(V) | || |
Select your UPS model prefix from the list below. If you are not sure, see knowl
edge base article FA315835 on the APC website
(http://www.apc.com/us/en/faqs/)

Please select your UPS Model:
[a]: SMC
[b]: SMT
[c]: SRT
[d]: SMX
[e]: SURTD
[f]: SU
[g]: SUA
[h]: SURT
[i]: SY
[j]: SC
[k]: SURTA
[l]: SU4G
[m]: OTHER_TYPE_A
[n]: OTHER_TYPE_B
> b

Cable Type:
[1]: Smart
[2]: Simple
> _
```

(13) シリアルケーブルが接続されたサーバのシリアルポートを要求されますので、選択肢から該当するポートを選択して、「Enter」キーを押します。



```
pbevmaGA - VMware Remote Console
VMRC(V) | || |
[b]: SMT
[c]: SRT
[d]: SMX
[e]: SURTD
[f]: SU
[g]: SUA
[h]: SURT
[i]: SY
[j]: SC
[k]: SURTA
[l]: SU4G
[m]: OTHER_TYPE_A
[n]: OTHER_TYPE_B
> b

Cable Type:
[1]: Smart
[2]: Simple
> 1

Select the serial port
[1]: /dev/ttyS0
[2]: /dev/ttyS1
[3]: Other
> _
```


(14) 選択した構成の確認を要求されますので、問題なければ「Yes」を入力して「Enter」キーを押します。

```
pbevmaGA - VMware Remote Console
VMRC(V) | || |
[ ]: SC
[k]: SURTA
[l]: SU4G
[m]: OTHER_TYPE_A
[n]: OTHER_TYPE_B
> b

Cable Type:
[1]: Smart
[2]: Simple
> 1

Select the serial port
[1]: /dev/ttyS0
[2]: /dev/ttyS1
[3]: Other
> 1

== Selected Configuration: ==
Cable Type: Serial
Serial Port: /dev/ttyS0

Are the UPS settings correct? (Yes or No)
> -
```

(15) ESXi ホストの IP アドレスを要求されますので、ESXi ホストの IP アドレスを入力して「Enter」キーを押します。

```
pbevmaGA - VMware Remote Console
VMRC(V) | || |

Cable Type:
[1]: Smart
[2]: Simple
> 1

Select the serial port
[1]: /dev/ttyS0
[2]: /dev/ttyS1
[3]: Other
> 1

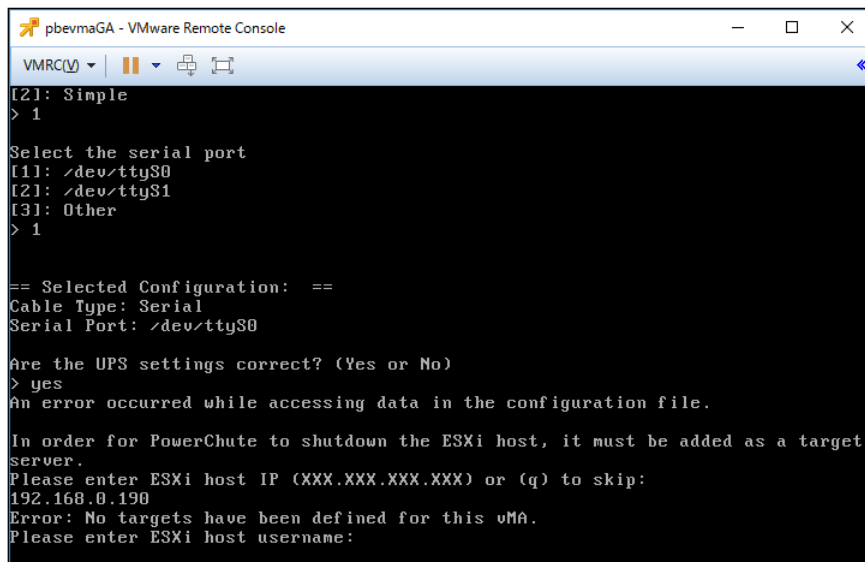
== Selected Configuration: ==
Cable Type: Serial
Serial Port: /dev/ttyS0

Are the UPS settings correct? (Yes or No)
> yes
An error occurred while accessing data in the configuration file.

In order for PowerChute to shutdown the ESXi host, it must be added as a target
server.
Please enter ESXi host IP (XXX.XXX.XXX.XXX) or (q) to skip:
```

※「Enter」キー押下後にエラーメッセージ”Error: No targets have been defined for this vMA.”と
出ることがありますが問題ありません。そのまま、PCBE の設定を継続してください。

- (16) ESXi ホストのユーザ名を要求されますので、ESXi ホストのユーザ名を入力して「Enter」キーを押します。



```
pbevmaGA - VMware Remote Console
VMRC(V) | || |
[2]: Simple
> 1

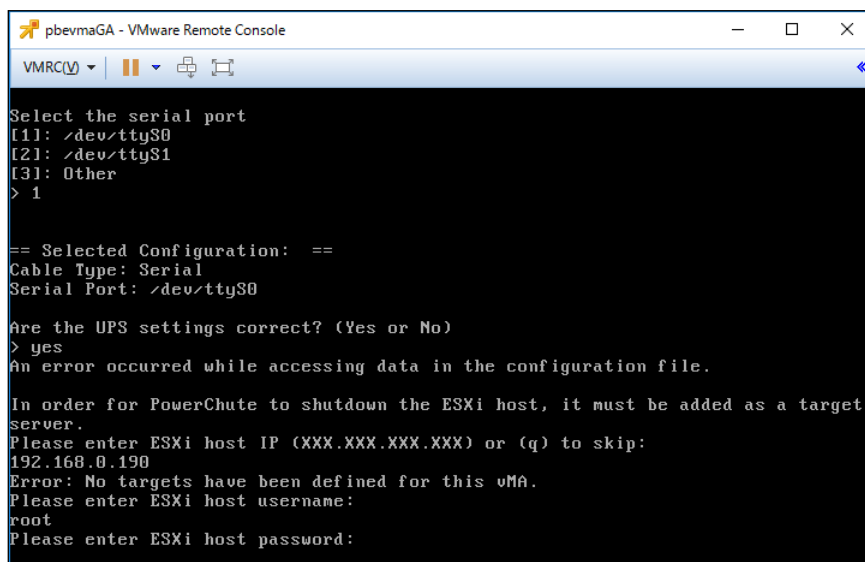
Select the serial port
[1]: /dev/ttyS0
[2]: /dev/ttyS1
[3]: Other
> 1

== Selected Configuration: ==
Cable Type: Serial
Serial Port: /dev/ttyS0

Are the UPS settings correct? (Yes or No)
> yes
An error occurred while accessing data in the configuration file.

In order for PowerChute to shutdown the ESXi host, it must be added as a target
server.
Please enter ESXi host IP (XXX.XXX.XXX.XXX) or (q) to skip:
192.168.0.190
Error: No targets have been defined for this vMA.
Please enter ESXi host username:
```

- (17) ESXi ホストのパスワードを要求されますので、ESXi ホストのパスワードを入力して(入力したパスワードは端末上には表示されません)、「Enter」キーを押します。



```
pbevmaGA - VMware Remote Console
VMRC(V) | || |

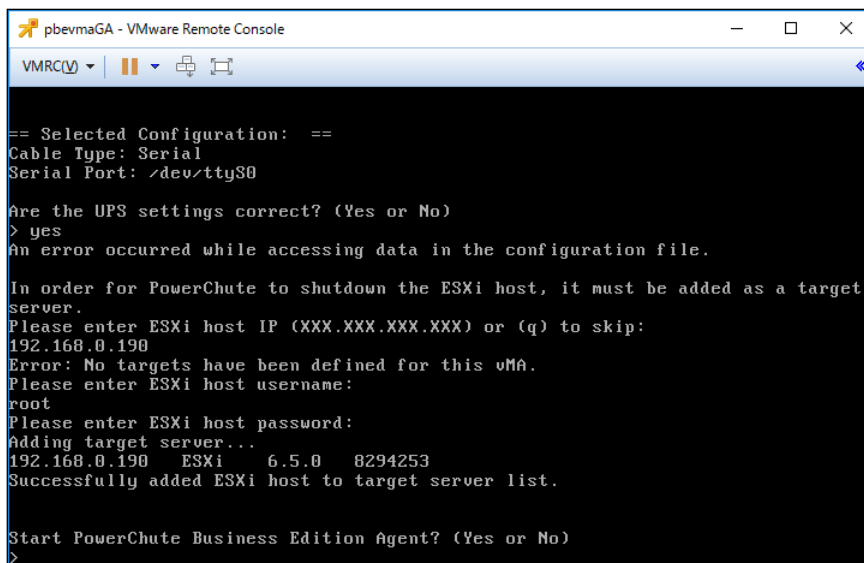
Select the serial port
[1]: /dev/ttyS0
[2]: /dev/ttyS1
[3]: Other
> 1

== Selected Configuration: ==
Cable Type: Serial
Serial Port: /dev/ttyS0

Are the UPS settings correct? (Yes or No)
> yes
An error occurred while accessing data in the configuration file.

In order for PowerChute to shutdown the ESXi host, it must be added as a target
server.
Please enter ESXi host IP (XXX.XXX.XXX.XXX) or (q) to skip:
192.168.0.190
Error: No targets have been defined for this vMA.
Please enter ESXi host username:
root
Please enter ESXi host password:
```

(18) PCBE エージェントをすぐに起動するか問われていますので no を入力して「Enter」キーを押します。



```

pbevmaGA - VMware Remote Console
VMRC(V)
== Selected Configuration: ==
Cable Type: Serial
Serial Port: /dev/ttyS0

Are the UPS settings correct? (Yes or No)
> yes
An error occurred while accessing data in the configuration file.

In order for PowerChute to shutdown the ESXi host, it must be added as a target
server.
Please enter ESXi host IP (XXX.XXX.XXX.XXX) or (q) to skip:
192.168.0.190
Error: No targets have been defined for this vMA.
Please enter ESXi host username:
root
Please enter ESXi host password:
Adding target server...
192.168.0.190 ESXi 6.5.0 8294253
Successfully added ESXi host to target server list.

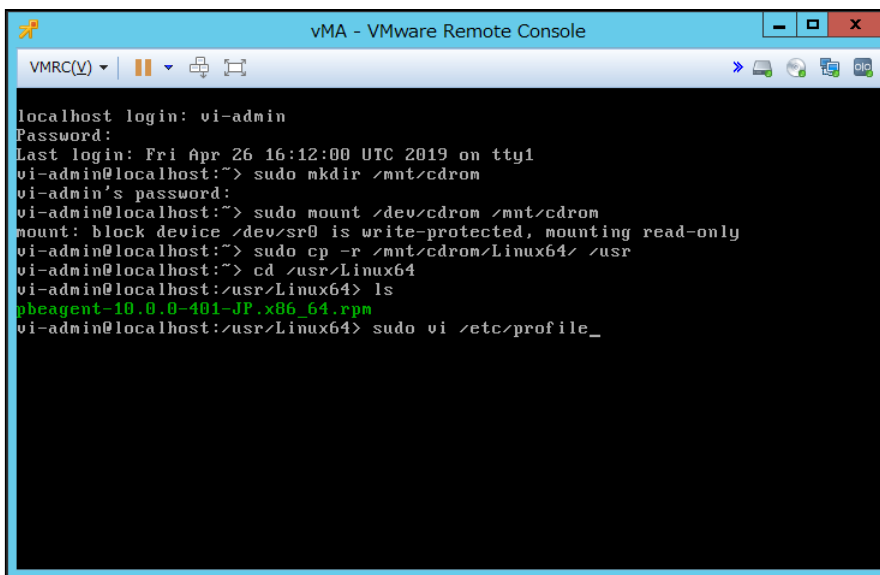
Start PowerChute Business Edition Agent? (Yes or No)
> _

```

(19) PCBE を開始する前にvMA のロケールを日本語に変更します。

①次のコマンドを入力してプロファイルファイルを開きます。

```
sudo vi /etc/profile
```



```

vMA - VMware Remote Console
VMRC(V)
localhost login: vi-admin
Password:
Last login: Fri Apr 26 16:12:00 UTC 2019 on tty1
vi-admin@localhost:~> sudo mkdir /mnt/cdrom
vi-admin's password:
vi-admin@localhost:~> sudo mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
mount: block device /dev/sr0 is write-protected, mounting read-only
vi-admin@localhost:~> sudo cp -r /mnt/cdrom/Linux64/ /usr
vi-admin@localhost:~> cd /usr/Linux64
vi-admin@localhost:~/usr/Linux64> ls
pbeagent-10.0.0-401-JP.x86_64.rpm
vi-admin@localhost:~/usr/Linux64> sudo vi /etc/profile_

```

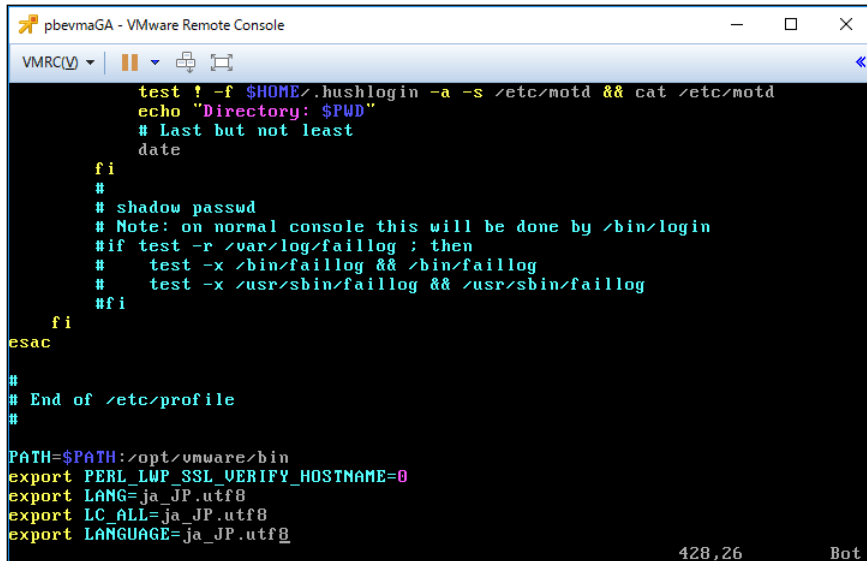
②以下をプロファイルファイルの最後の行に追加します。

```

export LANG=ja_JP.utf8
export LC_ALL=ja_JP.utf8
export LANGUAGE=ja_JP.utf8

```

③プロファイルファイルを保存し、vMA を再起動します。



```

pbevmaGA - VMware Remote Console
VMRC(V)
test ! -f $HOME/.hushlogin -a -s /etc/motd && cat /etc/motd
echo "Directory: $PWD"
# Last but not least
date

fi
#
# shadow passwd
# Note: on normal console this will be done by /bin/login
#if test -r /var/log/faillog ; then
#   test -x /bin/faillog && /bin/faillog
#   test -x /usr/sbin/faillog && /usr/sbin/faillog
#fi
fi
esac

#
# End of /etc/profile
#

PATH=$PATH:/opt/vmware/bin
export PERL_LWP_SSL_VERIFY_HOSTNAME=0
export LANG=ja_JP.utf8
export LC_ALL=ja_JP.utf8
export LANGUAGE=ja_JP.utf8

428,26 Bot

```

(20) PCBEエージェントインターフェースにアクセスします。

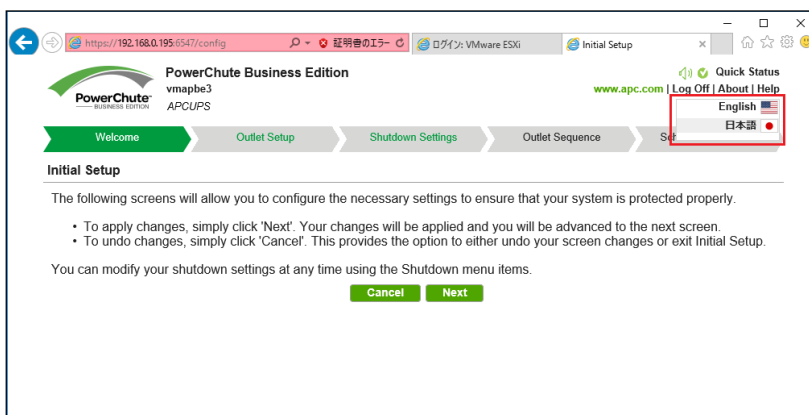
VMwareではWebブラウザに「servername(IPアドレスでも可)」と「port」を入力することでPCBEエージェントインターフェースにアクセスできます。

入力例: <https://localhost:6547>

PCBEエージェントインターフェースにアクセスするとユーザ名とパスワードの入力画面が表示されますので、インストール時に設定したユーザ名とパスワードでログインします。

ログイン後のPCBEエージェントインターフェースの表示がEnglish表示となっています。画面右上のEnglishをクリックし、日本語を選択し日本語表示に切り換えてください。

PCBEエージェントインターフェースでの設定については「9. PowerChute Business Editionの設定」を参照ください。



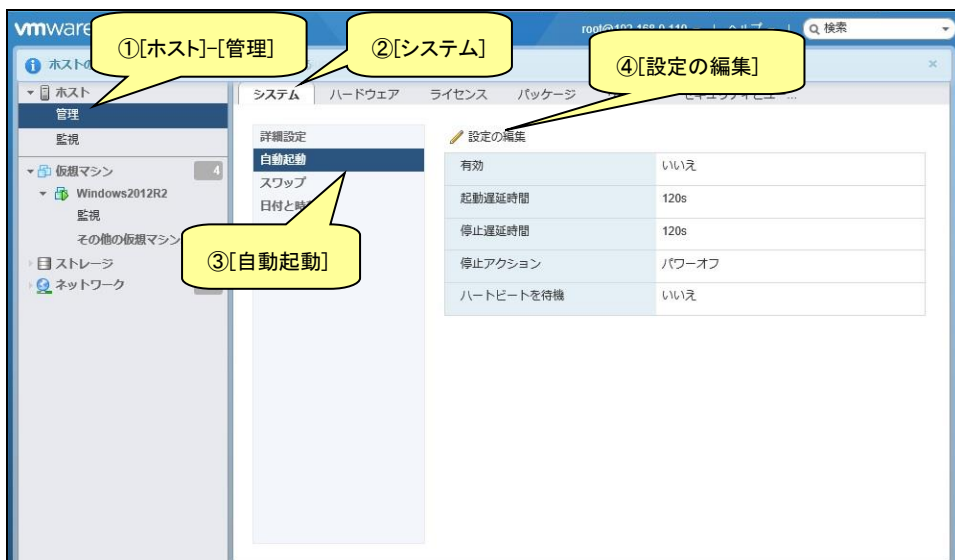
8.3 ゲスト OS のシャットダウンの設定方法

ゲストOSのシャットダウンはVMware ESXiの機能を使用して行ないます。障害発生時の仮想マシンの自動停止設定、および自動開始設定は、管理端末上で以下の方法で行なってください。

8.3.1 Host Client を使用する場合

(1)ESXi サーバで実行中の VM を安全にシャットダウンするために、すべての仮想マシンで VMware Tool をインストールする必要があります。インストールするには、Host Client の仮想マシンを右クリックして、[ゲスト OS]-[VMware Tools のインストール]の順に選択します。

(2)Host Client の画面左側の[ナビゲータ]で①[ホスト]-[管理]を選択し、②[システム]-③[自動起動]を選択して、④[設定の編集]をクリックしてください。



(3)下記画面が表示されるので[有効]に[はい]を選択し、[起動遅延時間]を[0 秒]に設定し、[停止遅延時間]は任意の値(60 秒以上)に設定してください。この値はすべてのゲスト OS がシャットダウンを完了させるまでのホスト OS の最大待ち時間となります。

[停止遅延時間]にはすべてのゲスト OS がシャットダウンを完了するまでの時間よりも十分長い時間を設定してください。

[停止アクション]にはプルダウンメニューから[シャットダウン]を選択します。

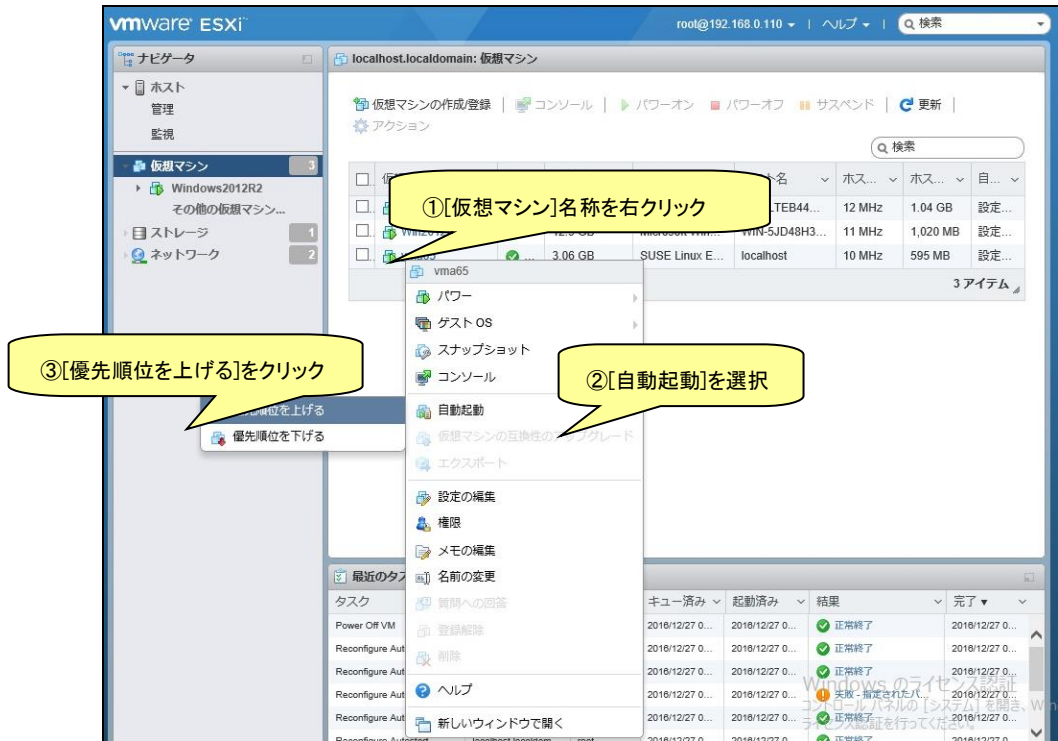
[ハートビートを待機]は[いいえ]のまま変更しないでください。

(4)次に仮想マシンの自動起動の順序を設定します。

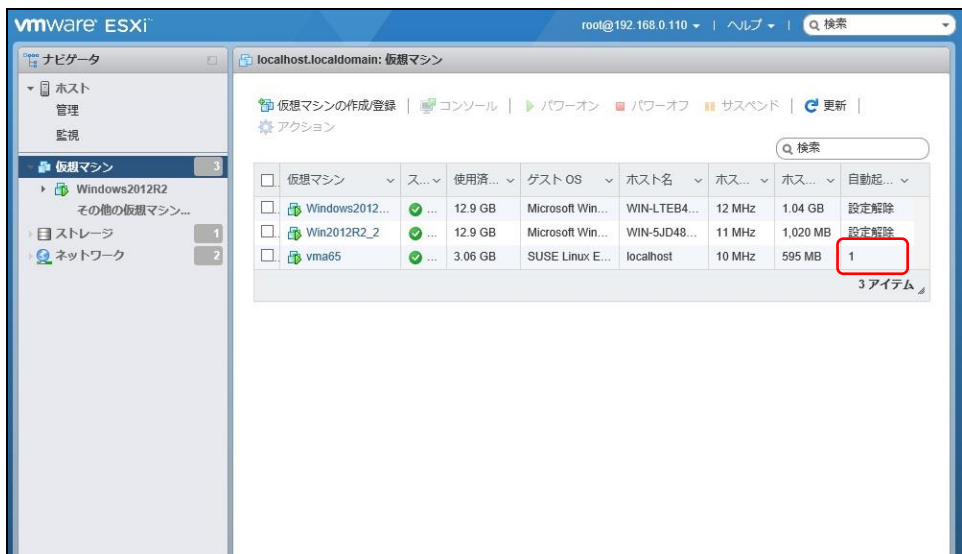
画面左側の[ナビゲータ]で[仮想マシン]を選択します。

仮想マシン	ス...	使用済み...	ゲスト OS	ホスト名	ホス...	ホス...	自...
Windows2012R2	...	12.9 GB	Microsoft Win...	WIN-LTEB44...	12 MHz	1.04 GB	設定...
Win2012R2_2	...	12.9 GB	Microsoft Win...	WIN-SJD48H3...	11 MHz	1,020 MB	設定...
vma65	...	3.06 GB	SUSE Linux E...	localhost	10 MHz	595 MB	設定...

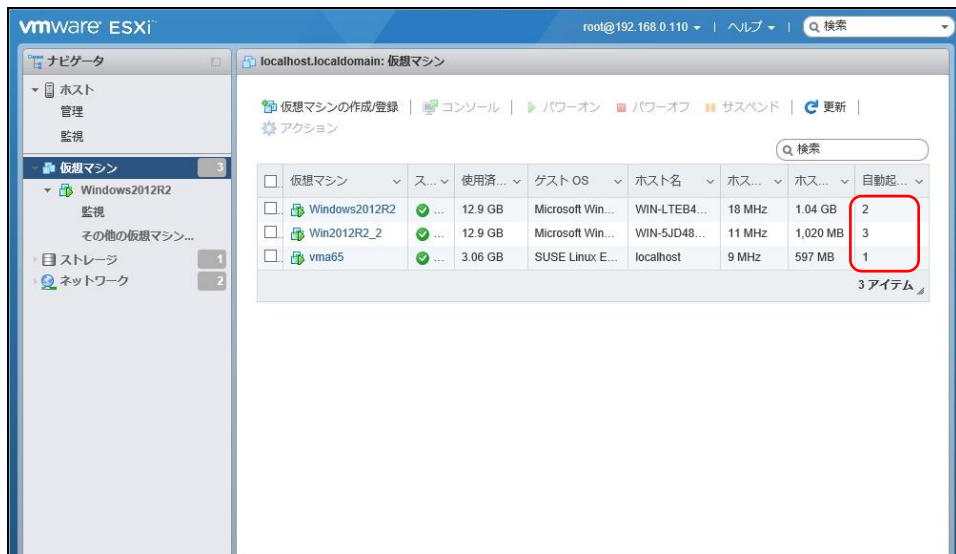
- (5) ①[仮想マシン]画面の[仮想マシン]名称を右クリックして、②[自動起動]を選択し、③[優先順位を上げる]をクリックします。



- (6) [自動起動]の[優先順位を上げる]をクリックすると、[仮想マシン]画面の[自動起動の順序]に順序が表示されます。



(7)[仮想マシン]画面に表示されている全ての仮想マシンで[自動起動]の[優先順位を上げる]をクリックして[自動起動の順序]を設定します。その際、仮想アプライアンスまたは PCBE をインストールした vMA の仮想マシンの[自動起動の順序]が[1]になるよう設定します。



以上で、仮想マシンの自動的起動の設定は完了です。

本設定を行なうことにより、VMware サーバのシャットダウン時に、ゲスト OS もシャットダウンされます。

8.4 起動と停止

以下のコマンドを使用して ESXi で PCBE エージェントサービスの停止と起動を行います。

サービスを停止するには、コマンドラインで次のコマンドを入力します。

```
sudo /etc/rc.d/init.d/PBEAgent stop
```

PowerChute を手動で起動するには、コマンドラインで次のコマンドを入力します。

```
sudo /etc/rc.d/init.d/PBEAgent start
```

8.5 PCBE のアンインストール

アンインストールする場合は、次のコマンドを入力します。

```
sudo rpm -e pbeagent
```


9. PowerChute Business Edition の設定

以下の初期設定は、UPS 本体に接続しているシステム装置にインストールした PCBE の設定手順です。
IE2 に接続している保護サーバの初期設定については、9.1.4 項を参照してください。

9.1 初期設定

以下の手順に従い、初期設定を行ってください。初期設定の項目は全て、再設定が可能です。

9.1.1 シャットダウンの設定

(1) PCBEエージェントインターフェースにアクセスします。

Windowsの場合は「スタート」-「PowerChute business Edition」-「エージェントWebインターフェース」をクリックするとPCBEエージェントインターフェースにアクセスできます。

RHELやVMware、WindowsではWebブラウザに「servername(IPアドレスでも可)」と「port」を入力することでPCBEエージェントインターフェースにアクセスできます。

入力例: `https://localhost:6547`

PCBEエージェントインターフェースにアクセスするとユーザ名とパスワードの入力画面が表示されます。インストール時に設定したユーザ名とパスワードでログインしてください。



[注意事項]

エージェントに初めてアクセスすると、セキュリティ証明書を信頼できないことを示すエラーメッセージがブラウザに表示されます。

一部のブラウザでは、ボタンをクリックして証明書の信頼性を確認するメッセージボックスが表示されます。ボタンをクリックして、エラーメッセージが表示されないようにしてください。その他のブラウザでは、<servername(IPアドレス)>を信頼できるサイトとして追加し、証明書を手動で追加する必要があります。

ブラウザに証明書をインストールする方法については、APC ウェブサイトのサポート技術情報項目 FA53519 (<https://www.apc.com/jp/ja/faqs/FA53519/>)に、ブラウザに証明書を追加する方法が掲載されていますのでご参照ください。
 (「PowerChute Business Edition v9.x…」のタイトルになっておりますが、PCBE v10の場合についても適用対象となります)

- (2)PowerChuteカスタマーエクスペリエンス向上プログラムについての説明が表示されますので、「PowerChuteカスタマーエクスペリエンス…」の右側にあるチェックボックスにチェックが付いていないことを確認してから「適用」をクリックしてください。

PowerChute Business Edition
 WIN-MTNKSTFQ1J6
 APCUPS

クイックステータス
www.apc.com/jp/ja | ログオフ | バージョン情報 | ヘルプ
 日本語

環境設定

PowerChuteカスタマーエクスペリエンス向上プログラム

PowerChuteの「カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP)」は、当社の製品およびサービスを向上させるための情報を提供し、PowerChuteの導入および構成の最適な方法をお客様にアドバイスするのに役立ちます。

CEIPの一環として、お客様の環境での「PowerChute Business Edition」の構成および使用方法に関する特定の情報を収集します。この情報は完全に匿名であり、個人を特定するために使用されることは決してありません。詳細については、当社の[CEIPよくある質問](#)を参照してください。

PowerChute CEIPに参加を希望しない場合は、以下のチェックボックスのチェックを外してください。CEIPへの参加、離脱はいつでも可能です。

「PowerChuteカスタマーエクスペリエンス向上プログラム」 (CEIP) に参加する

適用

- (3) 初期セットアップ画面が表示されず、UPSステータス画面が表示された場合、シャットダウンをクリックしてプルダウンメニューを表示させた後、「初期セットアップ」をクリックしてください。

PowerChute Business Edition
 WIN-MTNKSTFQ1J6
 APCUPS

クイックステータス
www.apc.com/jp/ja | ログオフ | バージョン情報 | ヘルプ
 日本語

Smart-UPS 750 PowerChute シャットダウン ネルギー管理 ログ

UPSステータス

- システムステータス

デバイスステータス	オン
UPS負荷	0.0
ランタイム残り時間	270
内部温度	30.6°C / 87.1°F
負荷電力	0.0 % VA
負荷電流	0.0 A
UPS LCDは読み取り専用です	いいえ

シャットダウンメニュー:

- 初期セットアップ
- シャットダウン設定
- スケジュールされたシャットダウン
- コンセントシーケンス
- コンセントの制御
- すぐにサーバをシャットダウン

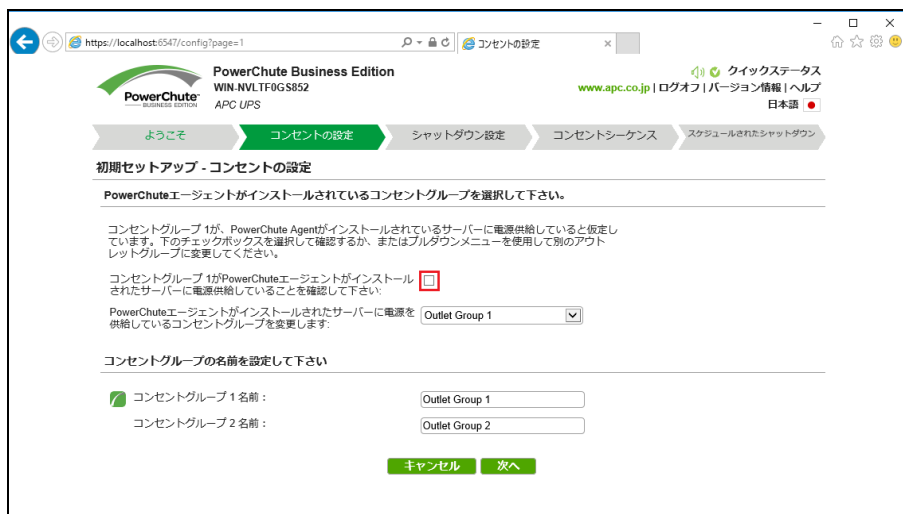
(4)初期セットアップがスタートします。「次へ」をクリックしてください。

セットアップ完了後に、この初期セットアップをやり直したい場合は
[シャットダウン]-[初期セットアップ]を選択すると、初期セットアップ画面に移行します。



(5)コンセントの設定を行います。PCBEエージェントがインストールされたサーバが接続しているアウトレットグループを選択し、チェックを入れて「次へ」をクリックしてください。

次頁以降の設定は「コンセントグループ1」を選択した場合の手順の説明になります。



(6)シャットダウンの設定を行います

The screenshot shows the 'Shutdown Settings' page in a web browser. The page title is 'シャットダウン設定' (Shutdown Settings). The breadcrumb navigation shows: ようこそ > コンセントの設定 > シャットダウン設定 > コンセントシーケンス > スケジュールされたシャットダウン.

初期セットアップ - シャットダウン設定

- 電源障害設定

停電時のシャットダウン開始:

- 即時
- UPSのバッテリー状態が次の時間経過後 秒
- ランタイム制限で 秒
- 停電時もシャットダウンしない。

- OSとアプリケーションのシャットダウン

OSがシャットダウンする時間 秒

必要な場合は、OSのシャットダウンに先立ち、コマンドファイルを使用してアプリケーションをシャットダウンできます。
 コマンドファイルの選択

- シャットダウンサマリ

電源障害が発生したときは:
 シャットダウンプロセスは、UPSが60秒間バッテリー運転した後に開始します。

続いて:

0 秒	OSシャットダウンの開始
180 秒	PowerChuteエージェントに電源供給しているコンセントグループOutlet Group 1の電源オフ コンセントグループOutlet Group 2も、コンセントシーケンス画面を介して設定された待機時間に基づいて電源オフになります

電源が復旧したときには:

続いて:

0 秒	PowerChuteエージェントに電源供給しているコンセントグループOutlet Group 1の電源オン コンセントグループOutlet Group 2も、コンセントシーケンス画面を介して設定された待機時間に基づいて電源オンになります
-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

備考: 停電設定にかかわらず、UPSがバッテリー運転中で、ランタイムの残りがアプリケーションとOSのシャットダウン時間の合計 (180秒) を下回った場合、正常なシャットダウンが確保できるよう、即時にシャットダウンに入ります。

①電源障害設定

停電発生後、OSがシャットダウンを開始するまでの待機時間を設定します。

即時	停電発生を検知して、UPSがバッテリー動作に切り替えられた場合、すぐにシャットダウンが開始されます。
UPSのバッテリー運転が次の時間経過後(推奨)	停電発生検知後、設定した時間が経過するとシャットダウンを開始します。
ランタイム制限で(非推奨)	停電発生検知後、バッテリーのランタイムが設定した時間を下回るとシャットダウンを開始します。 ランタイムの値が目安時間ですので、これを設定する場合正常にシャットダウンできない可能性があります。確実に安全なシャットダウンを実施したい場合は”UPSのバッテリー運転が次の時間経過後”で設定してください。
電源障害時にシャットダウンせず(非推奨)	UPSはローランタイム警告イベント発生と同時にシャットダウンを開始します。ローランタイム警告イベントはバッテリーのランタイムが[OSがシャットダウンする時間]+[コマンドファイルを実行するのに必要な時間]を下回ると発生します。

②OSとアプリケーションのシャットダウン

OSがシャットダウンする時間	OSシャットダウン開始後、設定した時間が経過するとUPSは電源供給を停止します。OSシャットダウンに必要な時間を計算して、それ以上の時間を入力してください。
コマンドファイルの選択	OSをシャットダウンする前に、コマンドファイルを実行する場合は、ファイルを指定してください。 PCBEインストールフォルダ下の「cmdfiles」に保存したコマンドファイルが選択可能です。 「C:¥Program Files (x86)¥APC¥PowerChute Business Edition¥agent¥cmdfiles」
コマンドファイルを実行するのに必要な時間	コマンドファイル実行に必要な時間を計算して、それ以上の時間を入力してください。

③シャットダウンサマリ

電源障害が発生したときは	①,②項で設定したシーケンスが表示されます。表示内容を確認し、再設定が必要な場合は①,②項に戻って再設定を行ってください。
電源が復旧したときには	初期設定時には0秒と表示されます。「9.1.2シャットダウンの設定(詳細)」で設定が可能です。

(7)続いて「コンセントシーケンス」「スケジュールされたシャットダウン」を設定したい場合は「詳細セットアップ」をクリックしてください。いずれも、後で設定できます。

9.1.2 シャットダウンの設定(詳細)

9.1.1項で設定したシャットダウンシーケンスがグラフで表示されます。

各設定項目について説明します。

[GQ-BURx1502/GQ-BUTx1002/GQ-BUTx1502/GQ-BURW152x/GQ-BUTW102x/GQ-BUTW152xの場合]

・UPS Outlets タブ



AC商用電源復旧時にすべてのコンセントグループを自動的に電源オン	チェックを外した場合、復電時にUPSは電源供給を開始しません。
このコンセントグループを電源オフシーケンスに含める	チェックを外した場合、シャットダウンシーケンスが開始しても「UPS Outlets」はバッテリー運転を継続します。IE2を使用している場合はチェックを外さないでください。
待機時間Outlet Group1 電源オフ	9.1.1項で設定した「OSがシャットダウンする時間」が表示されます。
経過後コンセントグループの電源オフ	「Outlet Group1」の出力停止後、本設定項目で指定した時間が経過すると「UPS Outlets」は出力を停止します。「Outlet Group1」と「UPS Outlets」の間で時間差をつけて出力を停止する場合に設定を変更してください。
コンセントグループのオフの状態を続ける最小時間	「UPS Outlets」が出力を停止してから、再度出力を開始する際に、最低限オフの状態を継続する時間です。60秒以上を設定してください。
コンセントグループの電源をオンにする前に必要な最小バッテリーランタイム	バッテリーランタイムが設定時間を上回ると「UPS Outlets」は出力を開始します。バッテリーランタイムは負荷によって変動するため、設定しないことをお勧めします。
この追加待機時間を使用してコンセントグループの電源オンのシーケンスを決めます。	復電後、設定時間経過後に「UPS Outlets」は出力を開始します。

・Outlet Group1 タブ

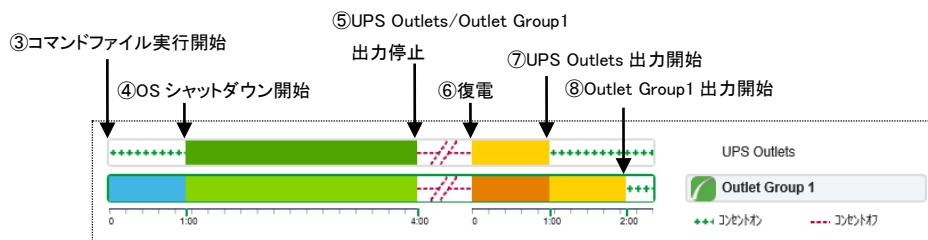


AC商用電源復旧時にすべてのコンセントグループを自動的に電源オン	チェックを外した場合、復電時にUPSは電源供給を開始しません。
このコンセントグループを電源オフシーケンスに含める	サーバに接続されているコンセントグループは電源オフシーケンスに含まれます。IE2を使用している場合はチェックを外さないでください。
他のアプリケーションがシャットダウンする時間	9.1.1項で設定したコマンドファイル実行時間が表示されます。
OSがシャットダウンする時間	9.1.1項で設定したOSがシャットダウンする時間が表示されます。設定時間が経過すると「Outlet Group1」は出力を停止します。
コンセントグループがシャットダウンする合計時間	「他のアプリケーションがシャットダウンする時間」と「OSがシャットダウンする時間」の合計時間が表示されます。
コンセントグループのオフの状態を続ける最小時間	「Outlet Group1」が出力を停止してから、再度出力を開始する際に、最低限オフの状態を継続する時間です。60秒以上を設定してください。
コンセントグループの電源をオンにする前に必要な最小バッテリーランタイム	バッテリーランタイムが設定時間を上回ると「Outlet Group1」は出力を開始します。バッテリーランタイムは負荷によって変動するため、設定しないことをお勧めします。
この追加待機時間を使用してコンセントグループの電源オンのシーケンスを決めます。	復電後、「UPS Outlets」が出力を開始してから、設定時間経過後に「Outlet Group1」は出力を開始します。

簡易シャットダウンフロー

電源障害時のシャットダウン開始:	②
<input type="radio"/> 即時	↓
<input checked="" type="radio"/> UPSのバッファ運転が次の時間経過後	60 秒
<input type="radio"/> ランタイム制限で	660 秒
<input type="radio"/> 電源障害時にシャットダウンせず	

- ① 停電発生
- ② 60秒経過、シャットダウンシーケンスがスタート



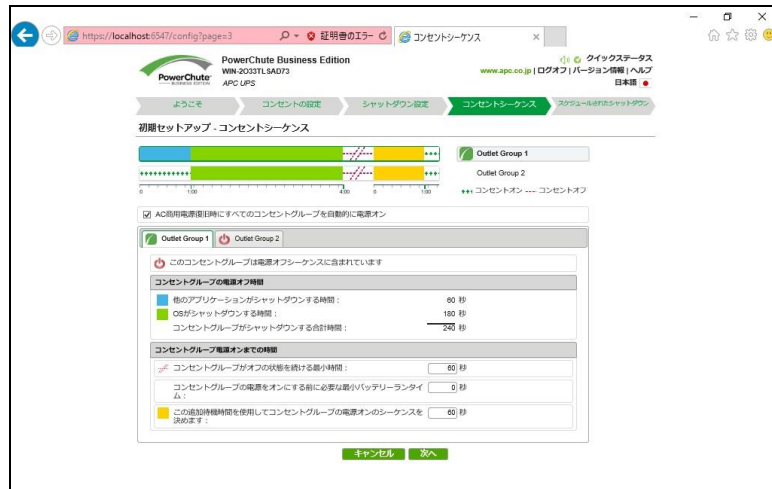
- ③コマンドファイル実行開始
- ④OSシャットダウン開始
- ⑤UPS Outlets/Outlet Group1出力停止
- ⑥復電
- ⑦UPS Outlets出力開始
- ⑧Outlet Group1出力開始

[注意事項]

スケジュールシャットダウン時は③の動作からシーケンスが開始します。

[GQ-BURx1202/GQ-BURx3002/GQ-BUTx0752/GQ-BURW122x/GQ-BURW302x/GQ-BUTW072xの場合]

・Outlet Group1 タブ



AC商用電源復旧時にすべてのコンセントグループを自動的に電源オン	チェックを外した場合、復電時にUPSは電源供給を開始しません。
このコンセントグループを電源オフシーケンスに含める	サーバに接続されているコンセントグループは電源オフシーケンスに含まれます。IE2を使用している場合はチェックを外さないでください。
他のアプリケーションがシャットダウンする時間	9.1.1項で設定したコマンドファイル実行時間が表示されます。
OSがシャットダウンする時間	9.1.1項で設定したOSがシャットダウンする時間が表示されます。設定時間が経過すると「Outlet Group1」は出力を停止します。
コンセントグループがシャットダウンする合計時間	「他のアプリケーションがシャットダウンする時間」と「OSがシャットダウンする時間」の合計時間が表示されます。
コンセントグループのオフの状態を続ける最小時間	「Outlet Group1」が出力を停止してから、再度出力を開始する際に、最低限オフの状態を継続する時間です。60秒以上を設定してください。
コンセントグループの電源をオンにする前に必要な最小バッテリーランタイム	バッテリーランタイムが設定時間を上回ると「Outlet Group1」は出力を開始します。バッテリーランタイムは負荷によって変動するため、設定しないことをお勧めします。
この追加待機時間を使用してコンセントグループの電源オンのシーケンスを決めます。	復電後、設定時間経過後に「Outlet Group1」は出力を開始します。

・Outlet Group2 タブ

(GQ-BUTx0752/GQ-BUTW072xの場合表示されません。また、GQ-BURx3002/GQ-BURW302xではさらにOutlet Group3 タブが表示されますが、項目は同じです。)



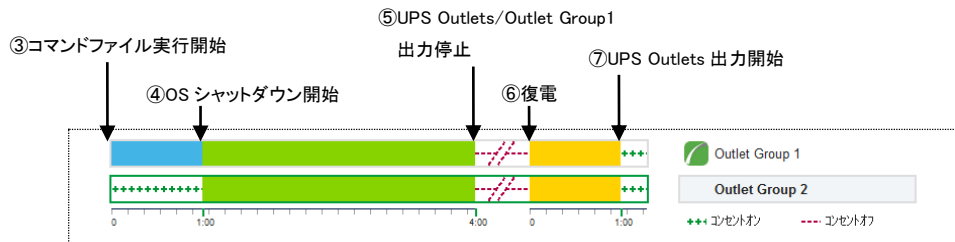
AC商用電源復旧時にすべてのコンセントグループを自動的に電源オン	チェックを外した場合、復電時にUPSは電源供給を開始しません。
このコンセントグループを電源オフシーケンスに含める	チェックを外した場合、シャットダウンシーケンスが開始しても「Outlet Group2」はバッテリー運転を継続します。IE2を使用している場合はチェックを外さないでください。
経過後コンセントグループの電源オフ	OSがシャットダウン開始後、設定時間が経過すると「Outlet Group2」は出力を停止します。
コンセントグループのオフの状態を続ける最小時間	「Outlet Group2」が出力を停止してから、再度出力を開始する際に、最低限オフの状態を継続する時間です。60秒以上を設定してください。
コンセントグループの電源をオンにする前に必要な最小バッテリーランタイム	バッテリーランタイムが設定時間を上回ると「Outlet Group2」は出力を開始します。バッテリーランタイムは負荷によって変動するため、設定しないことをお勧めします。
この追加待機時間を使用してコンセントグループの電源オンのシーケンスを決めます。	復電後、設定時間経過後に「Outlet Group2」は出力を開始します。

簡易シャットダウンフロー

電源障害時のシャットダウン開始:	②
<input type="radio"/> 即時	
<input checked="" type="radio"/> UPSのバック運転が次の時間経過後	60 秒
<input type="radio"/> ランタイム制限で	660 秒
<input type="radio"/> 電源障害時にシャットダウンせず	

① 停電発生

② 60秒経過、シャットダウンシーケンスがスタート



③コマンドファイル実行開始

④OSシャットダウン開始

⑤OutletGroup1/Outlet Group2出力停止

⑥復電

⑦OutletGroup1/Outlet Group2出力開始

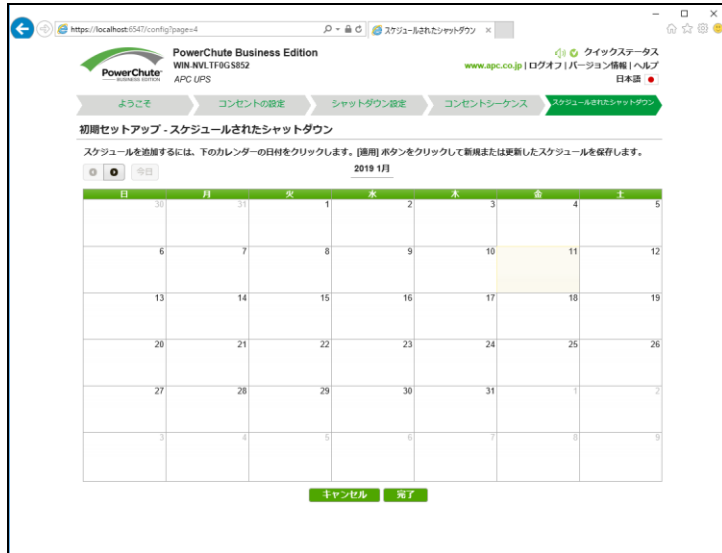
[注意事項]

スケジュールシャットダウン時は③の動作からシーケンスが開始します。

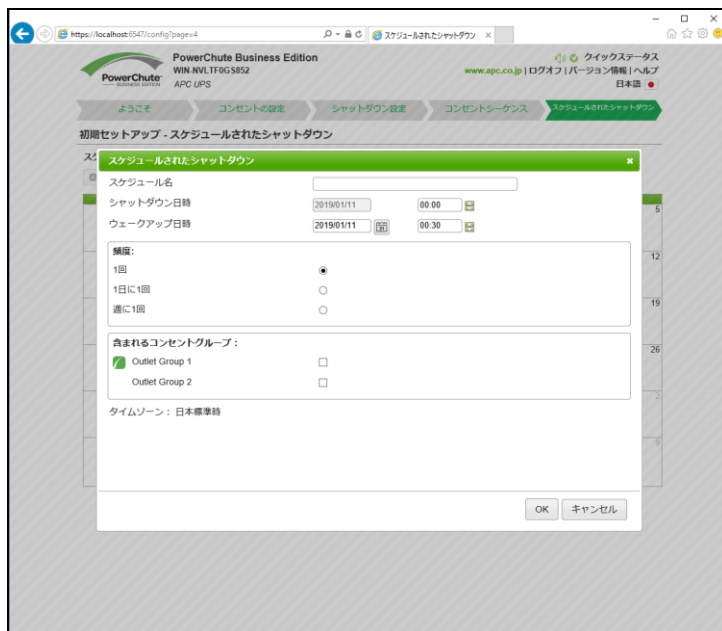
9.1.3 スケジュールシャットダウンの設定

スケジュールシャットダウンの設定方法を説明します。

保護サーバのPCBEからスケジュールシャットダウンの設定はございません。



スケジュールシャットダウンを実施する日をクリックしてください。次の画面が表示されます。



「スケジュール名」「シャットダウン日時」、「ウェークアップ日時」、「頻度」、「含まれるコンセントグループ」を設定してください。

例) 平日の日中のみサーバを起動させる場合の設定



月曜日: 21:00～火曜日07:00 週に1回

火曜日: 21:00～水曜日07:00 週に1回

水曜日: 21:00～木曜日07:00 週に1回

木曜日: 21:00～金曜日07:00 週に1回

金曜日: 21:00～月曜日07:00 週に1回

スケジュール設定が完了したらスケジュール設定画面で「適用」をクリックします。

[注意事項]

- (1) 赤色、または赤色の囲み線で表示されるスケジュールは10分以内に実行されます。この時点では、スケジュールを編集できませんが、キャンセルは可能です。
- (2) 重複するスケジュールが存在する場合は、次の優先順位に基づいて実行するスケジュールを決定します。
 - ① 1回のスケジュール
 - ② 週に1回のスケジュール
 - ③ 1日に1回のスケジュール
- (3) 現在時刻より15分以上先のスケジュールを設定してください。

すぐにシャットダウンを実行する場合は11.6項「すぐにサーバをシャットダウン」をご参照ください。

9.1.4 IE2 に接続した保護サーバの初期設定

保護サーバのシャットダウンの設定方法を説明します(マスタサーバと設定画面が異なります)。IE2を搭載している場合の設定例は、IE2の取扱説明書を参照してください。

(1)PCBEエージェントインターフェースにアクセスします。

Windowsの場合は「スタート」-「PowerChute business Edition」-「エージェントWebインターフェース」をクリックするとPCBEエージェントインターフェースにアクセスできます。

PCBEエージェントインターフェースにアクセスするとユーザ名とパスワードの入力画面が表示されます。インストール時に設定したユーザ名とパスワードでログインしてください。



(2)PowerChuteカスタマーエクスペリエンス向上プログラムについての説明が表示されますので、「PowerChuteカスタマーエクスペリエンス…」の右側にあるチェックボックスにチェックが付いていないことを確認してから「適用」をクリックしてください。



(3)PCBEエージェントインターフェースから「シャットダウン」をクリックし、シャットダウンの設定をします。



①電源障害設定

停電発生後、OSがシャットダウンを開始するまでの待機時間を設定します。

即時	停電発生を検知して、UPSがバッテリー動作に切り替えられた場合、すぐにシャットダウンが開始されます。
UPSのバッテリー運転が次の時間経過後(推奨)	停電発生検知後、設定した時間が経過するとシャットダウンを開始します。
UPSがローバッテリーイベント信号を出力したとき	停電発生検知後、UPSがローバッテリーイベント信号出力と同時にシャットダウンを開始します。
停電時もシャットダウンしない(非推奨)	停電発生時やUPSのローバッテリーイベントでOSシャットダウンを実行しません。

②OSとアプリケーションのシャットダウン

コマンドファイルの選択	OSをシャットダウンする前に、コマンドファイルを実行する場合は、ファイルを指定してください。 PCBEインストールフォルダ下の「cmdfiles」に保存したコマンドファイルが選択可能です。 「C:¥Program Files (x86)¥APC¥PowerChute Business Edition¥agent¥cmdfiles」
コマンドファイルを実行するのに必要な時間	コマンドファイル実行に必要な時間を計算して、それ以上の時間を入力してください。

10. PCBE の設定

(1) PCBEエージェントインターフェースにアクセスします。

Windowsの場合は「スタート」-「PowerChute business Edition」-「エージェントWebインターフェース」をクリックするとPCBEエージェントインターフェースにアクセス出来ます。

RHELやWindowsではWebブラウザに「servername(IPアドレスでも可)」と「port」を入力することでPCBEエージェントインターフェースにアクセス出来ます。

入力例: `https://localhost:6547`

PCBEエージェントインターフェースにアクセスするとユーザ名とパスワードの

入力画面が表示されます。インストール時に設定したユーザ名とパスワードでログインしてください。



PCBE エージェントインターフェースが表示されます。

保護サーバの PCBE の場合、使用できるメニュー項目が異なります。



10.1 セルフテスト

[UPS モデル名]-[診断]を選択すると、設定画面に移行します。

保護サーバ上の PCBE には、本機能がありません。



・セルフテストのステータス

前回のセルフテスト実施日とステータス

・ランタイム較正のステータス

前回のランタイム較正実施日とステータス

・診断を開始する

セルフテスト: UPS の内部診断を行います。

ランタイム較正: 現在の負荷に基づいて利用可能なランタイムを算出し直します。

[注意事項]

(1)ランタイム構成を実行すると、UPS バッテリーを大幅に消耗します。そのため、UPS は一時的に、停電が発生してもサーバをサポートできなくなる可能性があります。

(2)ランタイム較正はバッテリーの容量が 100%の場合にのみ実行できます。また、UPS の負荷が 15%以上でなければ実行できません。

アラームのテスト: アラームテストを実行します。

・セルフテストの予定を設定

設定項目	説明
しない(非推奨)	セルフテストを実行しない場合、バッテリーの劣化を確認出来ません。セルフテストは必ずスケジュールで行うように設定してください。
UPS起動時	UPSの電源をオンにすると、セルフテストが実行されます。
UPS起動時、および起動日の後7日ごと	UPSの電源をオンにすると、セルフテストが実行され、その後7日ごとにテストが実行されます。(UPSの電源をオフにして再びオンにしない限り、7日間隔の日付はずれません。)例えば、9月3日にUPSの電源をオンにした場合、すぐにセルフテストが実行され、その後、9月10日、9月17日、9月24日のように7日間隔でテストが実行されます。

設定項目	説明
UPS起動時、および起動日の後14日ごと	UPSの電源をオンにすると、セルフテストが実行され、その後14日ごとにテストが実行されます。上述の例を参照してください。
UPS起動時、およびテスト後7日ごと	UPSの電源をオンにすると、セルフテストが実行されます。ただし、この画面またはUPSから直接、手動でセルフテストを開始すると、実行日の変更されます(ドロップダウンボックスの2つ目の項目は実行日が変わりませんので、この点でこの項目とは異なります)。例えば、9月3日にUPSの電源をオンにした場合、すぐにセルフテストが実行され、その後、9月10日にテストが実行されます。9月12日に手動でセルフテストを実行すると、その後9月19日、9月26日のように7日間隔が続きます。
UPS起動時、およびテスト後14日ごと	UPSの電源をオンにすると、セルフテストが実行され、その後14日ごとにテストが実行されます。ただし、この画面またはUPSから直接セルフテストを手動開始すると、実行日の変更されます。上述の例を参照してください。

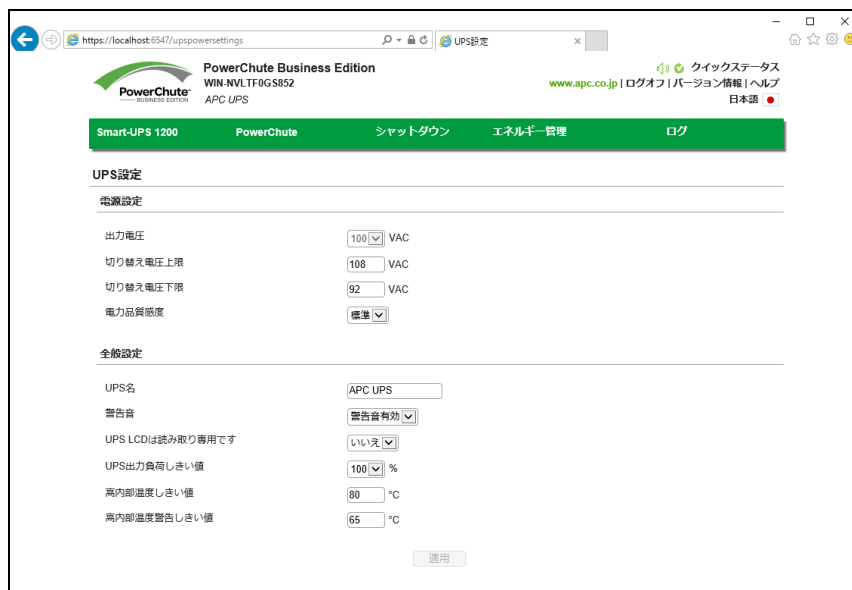
ステータスに表示される内容は以下のとおりです。

ステータス	説明
処理中	診断テストが現在行われています。
成功	セルフテストをパスしました。 これは、アラームテストと較正には関係がありません。
失敗しました	セルフテスト、アラームテスト、または較正が失敗しました。
拒否	UPSが診断テストを拒否しました。較正の場合、UPSの負荷が全容量の10%を下回る場合にこの状態になります。また、構成を実行するには、UPSバッテリーが完全に充電されている必要があります。
中止	セルフテスト、アラームテスト、または較正が、停電などの理由により完了できませんでした。これには、ユーザによる較正のキャンセルは含まれません。下記を参照してください。
キャンセル	ランタイム較正がユーザによりキャンセルされました。
完了	ランタイム較正が正常に完了しました。
不明	診断テストの状態が不明です。通信障害原因と考えられます。 初期状態で表示されることがあります。

10.2 UPS 設定

[UPS モデル名]-[UPS 設定]を選択すると、設定画面に移行します。

保護サーバ上の PCBE には、本機能がありません。



・電源設定

設定項目	説明
出力電圧	UPSがバッテリー動作時に供給する電圧です。設定を変更しないでください。
切り替え電圧上限	UPSが接続されている負荷に対して提供できる上限の電圧です。
切り替え電圧下限	UPSが接続されている負荷に対して提供できる下限の電圧です。
電力品質感度	線間電圧のひずみに対するUPSの感度です。

・全般設定

設定項目	説明
UPS名	ユーザが設定するUPS名です。US-ASCII文字のコード32~126のみ使用可能です。 注意: 最大文字数はUPSの種類によって異なります。最大8~16文字の英数字を使用できます。
警告音	このフィールドでは、電源問題が起きたときのUPSの警告音を有効または無効にできます。

UPS LCDは読み取り専用です	本設定項目は一部のUPSモデルでは表示されません。 本体前面のLCDパネルからUPSを設定できるかどうかを設定することができます。LCDパネルを読み取り専用にした場合においてもUPSオン/オフの操作は可能です。
UPS出力負荷しきい値	UPSモデルごとに、例えば1500VAなどの最大定格があります。定格に対して使用できる最大電力の割合を設定するために、この項目を設定します。 例えば、このしきい値を70に設定した場合、負荷が1050VA(1500VAの70%)以上消費すると、UPS負荷しきい値超過イベントが生成されます。
高内部温度しきい値	この温度を超えると、UPS内部温度しきい値超過イベントが生成されます。 (デフォルトでは、このイベントによりシャットダウンが実行されます) この温度は、下の行の高内部温度警告しきい値の温度より高く(少なくとも等しく)設定しなくてはなりません。 [注意事項] 警告:この値は、UPSの正常な温度範囲より高く設定してください。 そうしない場合「内部温度の重大範囲超過」イベントが絶えず生成されます。
高内部温度警告しきい値	この温度を超えると、UPS内部温度警告イベントが生成されます。

10.3 イベントの設定

[PowerChute]-[イベントの設定]を選択すると、設定画面に移行します。

保護サーバ上の PCBE では、UPS 本体に接続されているサーバの PCBE に対して、設定できる項目が限定されます。



イベントの設定画面には、発生しうるイベントが重大(緊急)、警告、および情報の3種類に分類されて表示されます。イベントごとにログ通知の有無、Eメール通知の有無、シャットダウン条件とコマンドファイル実行について設定することが可能です。Eメール通知の宛先については10.4項の「電子メールの設定」をご確認ください。また、各イベントの詳細については14項の「イベントリスト」を参照してください。デフォルト時は、情報イベントは非表示になっています。情報イベントを表示するには「情報」の横の＋アイコンをクリックしてください。

[注意事項]

HA8000V(USB接続)で使用する場合、USBケーブルが抜けたときのイベント(通信切断)に対し、該当する電子メールのイベントにチェックを入れるか、SNMPトラップ最小重大度を警告あるいは情報に設定し、異常が必ず通知されるように設定してください。

10.4 電子メールの設定

[PowerChute]-[電子メール設定]を選択すると、設定画面に移行します。

The screenshot shows the '電子メール設定' (Email Settings) page in the PowerChute Business Edition web interface. The page is titled 'PowerChute Business Edition' and includes navigation links for 'Smart-UPS 1200', 'PowerChute', 'シャットダウン', 'エネルギー管理', and 'ログ'. The main content area is divided into several sections:

- 電子メール設定**: Contains a sub-section for SMTP server settings with input fields for 'SMTPサーバ(ホスト名, IPv4, またはIPv6)', '発信電子メールアドレス', 'ポート' (set to 25), and a dropdown for 'SSL/TLSを使用' (set to '未選択').
- 電子メール受信者の追加/削除**: Includes a note about the maximum number of recipients (10) and an input field for '送信先E-Mailアドレス'.
- 電子メール認証の確認**: Features a checkbox for '認証を有効にする' and input fields for 'サーバーユーザー名 (オプション)', 'サーバーパスワード (オプション)', and 'パスワードの確認'.
- 連絡先情報**: Includes input fields for '連絡先の名前' and 'システムの場所', and a '適用' (Apply) button at the bottom.

電子メールの設定画面では、イベント発生時に通知する宛先を設定することができます。

設定項目	説明
SMTPサーバー (ホスト名、IPv4、またはIPv6)	サーバ名、IPv4アドレス、IPv6アドレスいずれか1つでSMTPサーバを識別します。
発信電子メールアドレス	電子メールの差出人を指定します。通知の送信に使用されるメールアカウントです。
ポート	SMTPサーバで使用するポートを設定します。 ポートには[25、465、587、5000～32768]が選択可能です。
SSL/TLSを使用	電子メールで使用されるメール暗号化プロトコルを設定します。 未選択 - 認証が無効な場合、電子メール暗号化プロトコルは使用されず、電子メールは暗号化されずに送信されます。認証が有効な場合、電子メールはSMTPS プロトコルを使用して暗号化されます。 SSL - 電子メールはSSL 暗号化プロトコルを使用して暗号化されます。ポート465 または電子メール管理者がSSL 通信用に割り当てたポートを選択する必要があります。 TLS - 電子メールはTLS 暗号化プロトコルを使用して暗号化されます。ポート587 または電子メール管理者がTLS 通信用に割り当てたポートを選択する必要があります。
送信先E-mailアドレス	電子メールの送信先を指定します。
認証を有効にする	電子メール認証はオプションです。チェックを入れることで電子メール認証が有効になります。
サーバーユーザー名 (オプション)	ユーザ名の登録が可能です。 (サーバのユーザ名とパスワードを指定しない場合、SMTPサーバを使用して、認証済み電子メールを送信できるIPアドレスのリストを取得します。)
サーバーパスワード名 (オプション)	パスワードの設定が可能です。 (サーバのユーザ名とパスワードを指定しない場合、SMTPサーバを使用して、認証済み電子メールを送信できるIPアドレスのリストを取得します。)
連絡先の名前	記入した場合、電子メールに設定した連絡先の情報が追加されます。
システムの場所	記入した場合、電子メールに設定した場所の情報が追加されます。

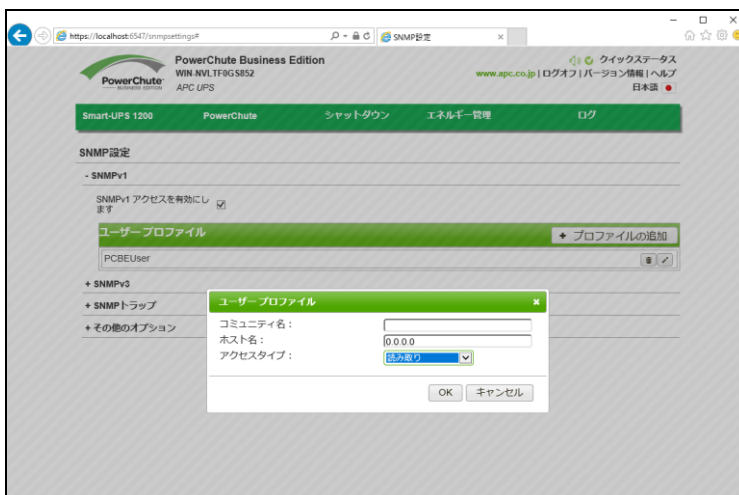
10.5 SNMP 設定

[PowerChute]-[SNMP 設定]を選択すると、設定画面に移行します。



・SNMPv1アクセスを有効にします

SNMPv1アクセスを有効に設定すると、Network Management System(NMS)からPCBEにSNMPv1通信でアクセス可能になり、PCBEの設定を照会および設定変更することができます。使用可能なSNMPオブジェクト識別子(OID)についてはSNMPデータポイントを参照。チェックを付けるとユーザープロファイルが表示されますので、「プロファイルの追加」をクリックまたは、デフォルトのユーザープロファイル(PCBEUser)を編集してください。編集後は「適用」ボタンをクリックします。



設定項目	説明
コミュニティ名	SNMPv1通信で使用するコミュニティ名を設定します。最大長はASCII文字で15文字です。
ホスト名	NMSのIPアドレス、ホスト名またはFQDNを設定します。デフォルトの「0.0.0.0」は、全てのNMSからのアクセスを許可します。
アクセスタイプ	無効 - SNMP GETおよびSET要求を禁止します。 読み取り - SNMP GET要求のみを許可します。 読み取り/書込み - SNMP GETおよびSET要求を許可します。

・SNMPv3アクセスを有効にします

SNMPv3アクセスを有効に設定すると、Network Management System(NMS)からPCBEにSNMPv3通信でアクセス可能になり、PCBEの設定を照会および設定変更することができます。

使用可能なSNMPオブジェクト識別子(OID)についてはSNMPデータポイントを参照。

チェックを付けるとユーザープロファイルが表示されますので、「プロファイルの追加」をクリックまたは、デフォルトのユーザープロファイル(PCBEUser)を編集してください。

編集後は「適用」ボタンをクリックします。



設定項目	説明
ユーザ名	SNMPv3信で使用するユーザ名を設定します。 最大長はASCII文字で32文字です。
認証プロトコル	MD5、SHA-1またはSHA-2(SHA256 またはSHA512)プロトコルを選択します。
認証パスワード	選択したプロトコル用の認証パスワードを8 ~ 32 文字のASCII文字で入力します。
プライバシープロトコル	AES-128、AES-192、AES-192 Ex、AES-256、AES-256 Ex、またはDESを選択します。
プライバシーパスワード	選択した暗号化プロトコル用のプライバシーパスワードを8 ~ 32 文字のASCII 文字で入力します。
アクセスタイプ	無効 - SNMP GETおよびSET要求を禁止します。 読み取り - SNMP GET要求のみを許可します。 読み取り/書込み - SNMP GETおよびSET要求を許可します。

・SNMPトラップ

トラップレシーバでSNMPトラップの送信先を設定する必要があります。
 トラップレシーバの追加をクリックします。トラップレシーバレシーバ設定画面が表示されるので、
 設定します。
 使用可能なSNMPオブジェクト識別子(OID)についてはSNMPデータポイントを参照。

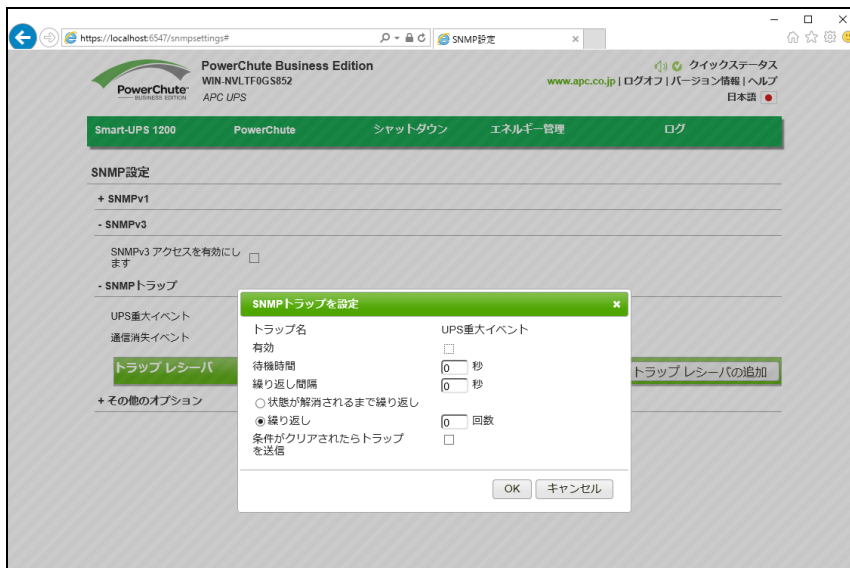


設定項目	説明
有効	トラップレシーバを有効にする場合にチェックします。
ホスト名	NMSのIPアドレス、ホスト名、またはFQDN(完全修飾ドメイン名)を指定します。
ポート	NMSが受信トラップを待機するポートを指定します。デフォルトのポート番号は162です。
SNMPv1	SNMPv1通信でトラップを送信したい場合はチェックしてください。
コミュニティ名	SNMPv1通信でのコミュニティ名を指定します。
SNMPv3	SNMPv3通信でトラップを送信したい場合はチェックしてください。
ユーザー名	SNMPv3で使用するユーザー名を選択します。 ユーザー名にはSNMPv3で設定したユーザプロファイルのユーザー名が表示されます。SNMPv3でユーザプロファイルを設定していない場合には、ユーザー名は表示されません。
SNMPトラップレシーバテスト	クリックすると、設定したトラップレシーバに対してテストトラップを送信します。トラップレシーバがテストトラップを受信したことを確認できます。

UPS重大イベント および 通信消失イベント発生時にSNMPトラップを送信するためには、SNMPトラップ設定を有効にする必要があります。

UPS重大イベント および 通信消失イベントを選択するとUPS重大イベントのSNMPトラップ設定画面が表示されますのでSNMPトラップ設定を設定してください。

トラップレシーバ、UPS重大イベント および 通信消失イベントのトラップ設定が完了したら、「適用」ボタンをクリックします。



設定項目	説明
トラップ名	UPS重大イベント または 通信消失イベント
有効	UPS重大イベント または 通信消失イベントでのトラップ送信を有効にします。
待機時間	トラップが送信されるまでのイベント継続時間を指定します。 この時間が経過する前にイベントが解消すると、トラップは送信されません。
繰り返し間隔	トラップを再送信する間隔を秒数で指定します。 繰り返しの条件を以下から選択します。 ・状態が解消されるまで繰り返し - イベントが解消されるまで トラップ送信を繰り返します ・繰り返し []回数 - 指定した回数トラップを送信したら、トラップ 送信を停止します。
条件がクリアされたらトラップを送る	イベントが解消したことをトラップで通知する場合にチェックを付けます。

・SNMPデータポイント

以下の表に、PowerChute Business EditionでサポートされているSNMPオブジェクト識別子(OID)を示します。

注意: ご使用のUPSは、リストされているすべてのSNMP OIDをサポートしていない場合があります。
保護サーバ上のPCBEでは、リストされているすべてのSNMP OIDをサポートしていません。

UPS情報

SNMP OID名	アクセス:	説明
upsBasicIdentModel	読み取り専用	UPSモデル名(例: APC Smart-UPS 1000)
upsBasicIdentName	読み書き	UPS名
upsAdvIdentFirmwareRevision	読み取り専用	UPSファームウェアのバージョン
upsAdvIdentDateOfManufacture	読み取り専用	UPSの製造日(mm/dd/yy またはmm/dd/yyyy 形式)
upsAdvIdentSerialNumber	読み取り専用	UPS内部マイクロプロセッサの内部シリアル番号。 注意: この値は、UPSの背面のシリアル番号とは異なります
upsBasicBatteryStatus	読み取り専用	UPSバッテリーの状態
upsBasicBatteryTimeOnBattery	読み取り専用	UPSがバッテリー運転に切り替えた後の経過時間
upsBasicBatteryLastReplaceDate	読み書き	UPSバッテリーが最後に交換された日付(mm/dd/yy または mm/dd/yyyy形式)
upsAdvBatteryCapacity	読み取り専用	残りのバッテリー容量(フル容量のパーセンテージで表されます)
upsAdvBatteryTemperature	読み取り専用	現在の内部UPS温度(摂氏)
upsAdvBatteryRunTimeRemaining	読み取り専用	ランタイム残り時間
upsAdvBatteryReplaceIndicator	読み取り専用	この値は、UPSバッテリーを交換する必要があるかどうかを示します
upsAdvBatteryNumOfBattPacks	読み取り専用	UPSに接続されている外部バッテリーパックの数
upsAdvBatteryActualVoltage	読み取り専用	バッテリー電圧(ボルト)
upsBasicInputPhase	読み取り専用	現在のAC入力位相
upsAdvInputLineVoltage	読み取り専用	UPSへの入力電力の現在の電圧(VAC)
upsAdvInputFrequency	読み取り専用	UPSへの現在の入力周波数(ヘルツ)
upsAdvInputLineFailCause	読み取り専用	UPSがバッテリー運転に移行した最新の理由
upsBasicOutputStatus	読み取り専用	UPSの現在の状態(オンライン、バッテリー駆動など)
upsBasicOutputPhase	読み取り専用	現在の出力位相
upsAdvOutputVoltage	読み取り専用	UPSの出力電圧(VAC)
upsAdvOutputFrequency	読み取り専用	UPSの現在の出力周波数(ヘルツ)
upsAdvOutputLoad	読み取り専用	現在のUPSの負荷率(UPSの定格容量のパーセンテージで表示されます)
upsAdvOutputCurrent	読み取り専用	現在のUPSの負荷容量(電流値)
upsAdvConfigRatedOutputVoltage	読み書き	UPSからの公称出力電圧(VAC)
upsAdvConfigHighTransferVolt	読み書き	詳細については、「切り替え電圧上限b」を参照してください。
upsAdvConfigLowTransferVolt	読み書き	詳細については、「切り替え電圧下限b」を参照してください
upsAdvConfigAlarm	読み書き	UPSが回線障害アラーム音をどのように処理するか の表示
upsAdvConfigSensitivity	読み書き	UPS の電源入力ノイズの感度
upsAdvConfigLowBatteryRunTime	読み書き	バッテリーの残量が少なくなると、UPSの実行時間が秒単位で表示されます
upsAdvConfigShutoffDelay	読み書き	UPSがオフになるように指示された後、UPSがオンのままになっている秒数

upsAdvConfigAllowedSetTable	読み取り専用	このOIDを読んで、SNMP SETを使用して値を設定するUPSデータポイントを取得します。 このテーブルをクエリすると、次のOIDが返されます。 ·upsAdvConfigRatedOutputVoltage ·upsAdvConfigHighTransferVolt ·upsAdvConfigLowTransferVolt ·upsAdvConfigLowBatteryRunTime また、各OIDに設定できる許容値の範囲が返されます。 UPSがOIDをサポートしていない場合、クエリにはnullが返されます
upsAdvControlFlashAndBeep	読み書き	このOIDに、UPSのアラーム音とUPSの表示インジケータの制御方法を指定します
upsAdvControlBypassSwitch	読み書き	このOIDにUPSバイパスモードを制御する方法を指定します
upsAdvTestDiagnosticSchedule	読み書き	このOIDにUPSのバッテリーテストスケジュールを制御する方法を指定します
upsAdvTestDiagnostics	読み書き	このOIDにUPSにセルフテストを実行する指示を指定します
upsAdvTestDiagnosticsResults	読み取り専用	最後の診断UPSセルフテストの結果
upsAdvTestLastDiagnosticsDate	読み取り専用	最後のUPS診断テストの日付(mm/dd/yy形式)
upsAdvTestRuntimeCalibration	読み書き	このOIDに書き込むことで、ランタイム較正テストを実行するためのオプションが提供されます
upsAdvTestCalibrationResults	読み取り専用	最後のランタイム較正テストの結果
upsAdvTestCalibrationDate	読み取り専用	最後のランタイム較正試験が行われた日付(mm/dd/yy形式)
upsCommStatus	読み取り専用	SNMPエージェントとUPSとの通信の状態
powerNetSoftwareSystemDescription	読み取り専用	PowerChute Business Editionエージェントの説明
upsOutletGroupStatusTableSize	読み取り専用	UPSのコンセントグループの数
upsOutletGroupStatusTable	読み取り専用	この表からPowerNet MIBに定義された、UPSのコンセントグループのステータスを取得することができます。この表のエントリ数は、upsOutletGroupStatusTableSizeで決定されます
upsOutletGroupConfigTableSize	読み取り専用	UPSのコンセントグループの数
upsOutletGroupConfigTable	読み書き	PowerNet MIBに定義されているパラメータ範囲で構成できる、コンセントグループの一覧です ·Name ·PowerOnDelay ·PowerOffDelay ·RebootDuration ·MinReturnRuntime ·LoadShedControlSkipOffDelay ·LoadShedControlAutoRestart ·LoadShedControlTimeOnBattery ·LoadShedControlRuntimeRemaining ·LoadShedControlInOverload ·LoadShedTimeOnBattery ·upsOutletOutletGroupConfigLoadShedRuntimeRemaining

PowerChute Business EditionのID情報

SNMP OID名	アクセス :	説明
pcbehostname	読み取り専用	PowerChute Business Editionエージェントのホスト名
pcbeVersion	読み取り専用	PowerChute Business Editionのバージョン番号 (xxxxの形式)
pcbeOS	読み取り専用	PowerChute Business Editionがインストールされているオペレーティングシステムとバージョン
pcbeJavaVersion	読み取り専用	PowerChute Business Editionと共にインストールされたJavaのバージョン
pcbeUIProtocol	読み取り専用	PowerChute AgentのWebインターフェース (http / https)に接続するためのプロトコル
pcbeHttpsPort	読み取り専用	PowerChute https Webインターフェースに使用されるポート

PowerChute Business Editionのアラーム情報

SNMP OID名	アクセス :	説明
pcbeCriticalFlag	読み取り専用	このOIDは、PowerChute Business Editionがホストの正常なシャットダウンを開始したことを示します
pcbeCriticalCause	読み取り専用	このOIDは、PowerChute Business Editionがホストの正常なシャットダウンを開始した理由を示しています
pcbeComsLostFlag	読み取り専用	このOIDは、PowerChuteがUPSと通信できないことを示します

SNMP トラップ

下の表は、通信イベントの致命的および消失にPowerChute が送信するSNMP トラップのOID 名の詳細を示しています。

UPS 重大イベント

SNMP OID名	水準器 :	説明
pcbeCriticalEventActive	重大	PowerChute Business Editionは、重大なイベントのためにホストの正常なシャットダウンを開始しました
pcbeCriticalEventResolved	情報	PowerChuteクリティカルイベントが解決され、ホストの正常なシャットダウンが継続されます

通信消失イベント

SNMP OID名	水準器 :	説明
pcbeComsLost	重大	PowerChuteはUPSと通信できません
pcbeComsLostResolved	情報	PowerChuteはUPSとの通信を再確立しました

その他イベント

SNMP OID名	水準器 :	説明
pcbeTest	情報	PowerChuteがテストトラップをNMSに送信しました

11. PCBE から UPS を制御する

11.1 シャットダウンの設定

[シャットダウン]-[シャットダウンの設定]を選択すると、設定画面に移行します。

ここではシャットダウンシーケンスが実行される条件、OS シャットダウン待機時間
コマンドファイルの設定をすることができます。

各項目については 9.1.1 項の(4)を参照してください。

保護サーバの PCBE については、9.1.4 項の(2)を参照してください。

電源障害設定

電源障害時のシャットダウン開始:

即時

UPSのバッテリー運転が次の時間経過後 秒

システム制限で 秒

電源障害時にシャットダウンせず

OSとアプリケーションのシャットダウン

OSがシャットダウンする時間 秒

必要な場合は、OSのシャットダウンに先立ち、コマンドファイルを使用してアプリケーションをシャットダウンできます。

コマンドファイルの選択

シャットダウン方針

電源障害が発生したときは：
シャットダウン時は、UPSが60秒間バッテリー運転した後に開始します。

続いて：

0 秒 OSシャットダウンの開始

180 秒 PowerChuteE-Serverに電源供給しているコンベクトグループ Outlet Group 1 の電源や、
コンベクトグループ UPS Outlets も、コンベクト画面を介して設定された待機時間に基づいて電源切になります

電源が復旧したときには：

続いて：

0 秒 PowerChuteE-Serverに電源供給しているコンベクトグループ Outlet Group 1 の電源や、
コンベクトグループ UPS Outlets も、コンベクト画面を介して設定された待機時間に基づいて電源切になります

注：電源障害設定の選択にかかわらず、残りのUPSランタイムがアプリケーションおよびオペレーティングシステムのシャットダウンに設定された時間の合計（180秒）を下回った場合、安全なシャットダウンに十分な時間を確保するため、即時シャットダウンが実行されます。Windows のプロセス

11.2 スケジュールされたシャットダウン

[シャットダウン]-[スケジュールされたシャットダウン]を選択すると、設定画面に移行します。

保護サーバ上のPCBEには、本機能がありません。

各設定項目に関しては9.1.3項を参照してください。設定の適用は「適用」をクリックしてください。

(下図参照)

Smart-UPS 1500 PowerChute シャットダウン 設定管理 閉

スケジュールされたシャットダウン

スケジュールを追加するには、下のカレンダーの日付をクリックします。[適用] ボタンをクリックして新規または更新したスケジュールを保存します。

今日 2015 6月

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
					0:00 test	

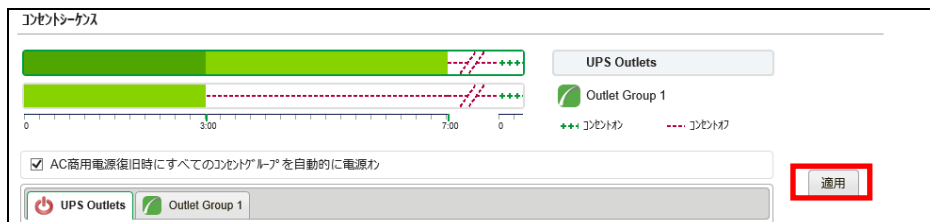
11.3 コンセントシーケンス

[シャットダウン]-[コンセントシーケンス]を選択すると、設定画面に移行します。

各設定項目に関しては9.1.2項を参照してください。

保護サーバ上のPCBEでは、本設定を変更できません。

設定の適用は「適用」をクリックしてください。(下図参照)



11.4 負荷制限機能

[シャットダウン]-[負荷制限機能]を選択すると、設定画面に移行します。

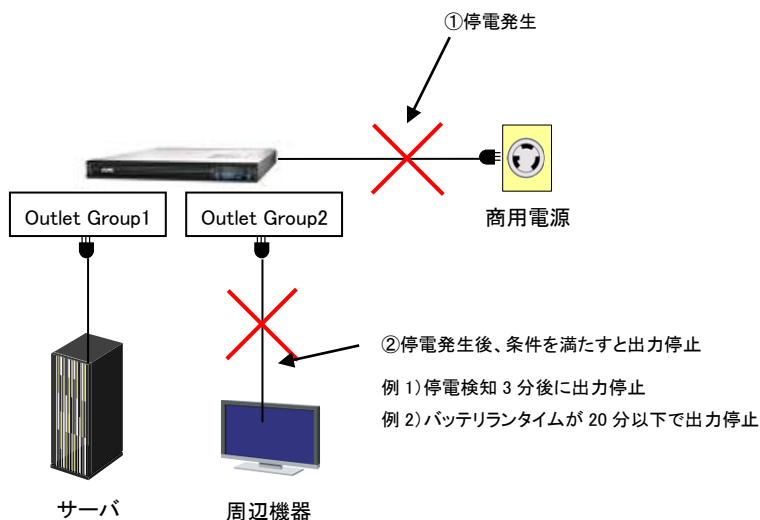
UPS がバッテリー運転で稼動している時や過負荷状態になっているとき、負荷制限機能を使用するとモニターなどの重要でない負荷機器の電源をオフにすることができます。これによって、バッテリーの残量と重要な負荷機器のランタイムが節約されます。

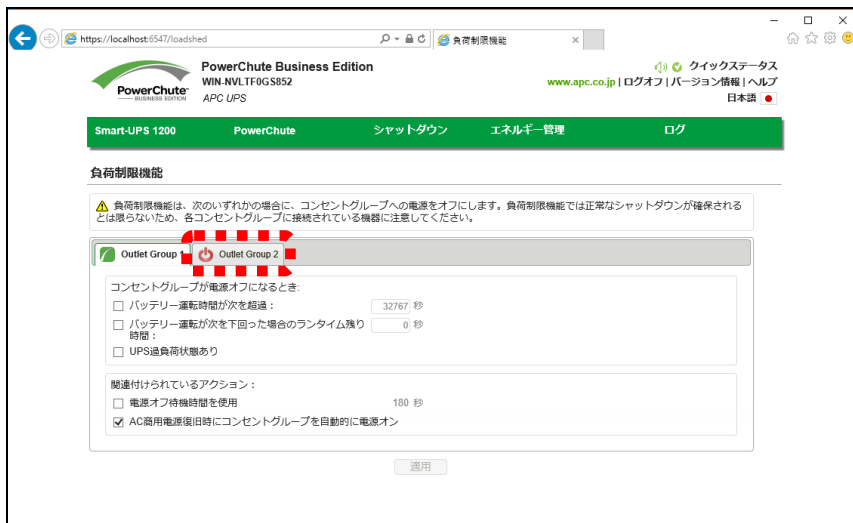
保護サーバ上の PCBE では、本設定を変更できません。

[注意事項]

以下の UPS モデルでは負荷制限機能を使用しないで下さい。サーバがシャットダウンする可能性があります。

- ・GQ-BURx1502/GQ-BURW152x
- ・GQ-BUTx0752/GQ-BUTx1002/GQ-BUTx1502/GQ-BUTW072x/GQ-BUTW102x/GQ-BUTW152x





[注意事項]

PCBEエージェントがインストールされたサーバが接続しているアウトレットグループの設定は行わないこと。(該当サーバはアウトレットグループ名の左に緑色のマークが表示されています。)

設定項目	説明
バッテリー運転時間が次を超過	バッテリー運転時間が設定した時間以上継続すると、負荷制限機能が動作します。
バッテリー運転が次を下回った場合のランタイム残り時間	バッテリーランタイムが設定した時間を下回ると、負荷制限機能が動作します。
UPS過負荷状態あり	UPSが過負荷状態を検出すると、負荷制限機能が動作します。
電源オフ待機時間を使用	チェックを入れると、負荷制限機能でコンセントグループが電源オフになる時に、遅延時間経過後に電源がオフになります。9.1.2項で設定した値から取得されます。
AC商用電源復旧時にコンセントグループを自動的に電源オン	チェックを入れると、復電時にコンセントグループが出力を開始します。9.1.2項で設定した値から取得されます。

11.5 コンセント管理

[シャットダウン]-[コンセントの制御]を選択すると、操作画面に移行します。

コンセントの制御画面には、お使いの UPS の各コンセントグループの名前と現在のステータスが表示されます。さらに、ドロップダウンボックスからただちに実行するアクションを指定することができます。

保護サーバ上のPCBEには、本機能がありません。

使用できるアクションは次のとおりになります。

設定項目	説明
待機時間後にオフ	設定した待機時間後にコンセントグループの電源をオフにします。
直ちにオフ	待機時間無しでコンセントグループの電源をオフにします。
待機時間後にシャットダウン、AC再起動	設定した待機時間後にコンセントグループの電源をオフにします。AC商用電源がその後復旧した場合、設定した待機時間後にコンセントグループを再起動します。
即時シャットダウン、AC再起動	待機時間無しでコンセントグループの電源をオフにします。AC商用電源がその後復旧した場合、設定した待機時間後にコンセントグループを再起動します。
待機時間後に再起動	コンセントグループを設定した待機時間後に電源オフ、および設定した待機時間後に再起動します。
即時再起動	コンセントグループをすぐに電源オフにし、設定した待機時間後に再起動します。

[注意事項]

以下の UPS モデルではコンセント管理機能を使用しないで下さい。

- ・GQ-BURx1502/GQ-BURW152x
- ・GQ-BUTx0752/GQ-BUTx1002/GQ-BUTx1502/GQ-BUTW072x/GQ-BUTW102x/GQ-BUTW152x

11.6 すぐにサーバをシャットダウン

[シャットダウン]-[すぐにサーバをシャットダウン]を選択すると、操作画面に移行します。

保護サーバ上のPCBEには、本機能がありません。



すぐにサーバをシャットダウン画面では、すぐにまたは 15 分以内にシャットダウンシーケンスを開始できます。シャットダウン後に UPS をいつどのように電源オンにするか制御することも可能です。

設定項目	説明
OSシャットダウンシーケンス開始までの時間	0～14分59秒を指定することが可能です。(1秒単位)
UPSシャットダウンタイプ	このドロップダウンボックスにある[待機ウェークアップ]と[手動再起動]のどちらのオプションでも、9.1.1項で設定した電源オフ待機時間が適用されます。ただし、電源オン待機時間は、[待機ウェークアップ]には適用されませんが、[手動再起動]には適用されません
ウェークアップ待機時間	この項目は、[待機ウェークアップ]が選択された場合に限り表示されます。UPSを電源オフのままにしている時間を指定します。]

12. PCBE から UPS を監視する

12.1 UPS ステータス

[UPS モデル名]-[UPS ステータス]を選択すると、次の画面に移行します。

保護サーバの PCBE からは、「システムステータス」中の「デバイスステータス」のみ確認できます。

The screenshot shows the PowerChute Business Edition web interface. The browser address bar displays `https://localhost:6547/status`. The page title is "UPSステータス". The interface includes a navigation menu with "Smart-UPS 1200", "PowerChute", "シャットダウン", "エネルギー管理", and "ログ".

The main content area is titled "UPSステータス" and is divided into several sections:

- システムステータス**
 - デバイスステータス: オンライン (グリーンモード)
 - UPS負荷: 0.0 %
 - ランタイム残り時間: 251 分
 - 内部温度: 28.2°C/ 82.8°F
 - 負荷電力: 0.00 % VA
 - 負荷電流: 0.0 A
 - UPS LCDは読み取り専用です: いいえ
- 電源ステータス**
 - 入力電圧: 102.9 VAC
 - 出力電圧: 102.9 VAC
 - 入力周波数: 50.0 Hz
 - 出力周波数: 50.0 Hz
- バッテリーステータス**
 - バッテリー充電: 100.0 %
 - バッテリー電圧: 40.8 VDC
- コンセントグループのステータス**

コンセント名	ステータス
Outlet Group 1	オン
Outlet Group 2	オン

(1) システムステータス

項目	説明
デバイスステータス	現在のUPSの動作状態を表示します。
UPS負荷	UPSの定格負荷容量に対して現在供給している電力をパーセントで表します。
ランタイム残り時間	バッテリー動作時に、UPSが出力し続けるとされる目安時間です。この時間はあくまで目安ですので保障できるものではありません。
内部温度	UPSの内部温度を表示します。
負荷電力	UPSの定格電力に対して現在供給している電力をVA(ボルトアンペア)単位で表します。
負荷電流	接続機器がUPSから引き込む電流を表しています。
UPS LCDは読み取り専用です	このフィールドは、UPS本体LCDパネルでUPSを設定できるかどうかを知らせません。このフィールドの値が [はい] の場合、LCDパネルから値を設定できません。 [注意事項] (1)このフィールドは一部のUPSでは表示されません。 (2)このフィールドの値が [はい] の場合でも以下の操作は可能です。 ・待機後にUPSの電源をオフ ・すぐに電源をオフ ・待機後に再起動 ・すぐに再起動

(2) 電源ステータス

UPS の電源電圧と周波数が表示されます。

(3) バッテリステータス

項目	説明
バッテリー充電	UPSバッテリーの全容量に対する現在の残量の割合を表しています。
バッテリー電圧	UPSバッテリーの現在の電圧を表しています。

(4) コンセントグループステータス

ご使用中の UPS の各コンセントグループの名前と現在の状態を表示します。

12.2 バッテリー管理

[UPS モデル名]-[バッテリー管理]を選択すると、次の画面に移行します。

保護サーバの PCBE からは、バッテリーのステータスを確認することができません。



(1) バッテリーステータス

項目	説明
バッテリーステータス	標準、バッテリー交換要、およびバッテリー切断のいずれかの値。 バッテリー交換が必要な場合は、保守員をコールしてください。
バッテリー充電	UPS/バッテリーの全容量に対する現在の残量の割合を表しています。
バッテリー電圧	UPS/バッテリー(AC電源とは異なる)の現在の電圧(DC)をボルト単位で表しています。
ランタイム残り時間	UPS/バッテリーが現在の負荷をサポートできる時間です。
バッテリー運転の回数	この値は一部のUPSデバイスでは表示されません。 AC電源の停電時に、UPS/バッテリーがシステムに電源を供給した回数です。
バッテリー運転の合計時間	この値は一部のUPSデバイスでは表示されません。 AC電源の停電時に、UPS バッテリーがシステムに電源を供給した合計時間です。

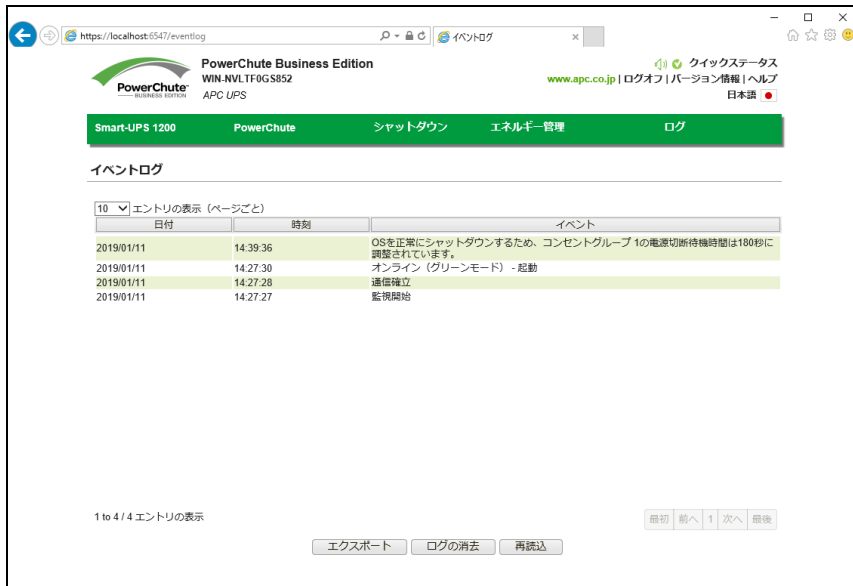
(2) 予想バッテリー交換

項目	説明
バッテリー設置日付	UPS/バッテリーを取り付けた日付を表示します。 一部のUPSデバイスでは、この情報はUPS本体から取得されます。他のデバイスでは、ドロップダウンボックスを使用して取り付けた月と年を入力できます。
予想交換日	この日付はUPSにより提供され、バッテリーの交換がいつ必要になるかを示します。表示される日付は参考値です。 必ずバッテリーは2年ごとに交換するようお願いいたします。

12.3 ログの設定

12.3.1 イベントログ

[ログ]-[イベントログ]を選択すると、次の画面に移行します。



イベントログ画面では、最新の UPS イベント、および各イベントの発生した日付と時刻が、一覧表示および分類されています。イベントは新しいものから順に表示されます。イベントの説明については 14 項の「イベントリスト」をご参照ください。

- ・ログをエクスポートする時は、画面下部のエクスポートボタンをクリックしてください。
エクスポートされたログは画面に表示されるパスにあります。
- ・イベントログの内容を削除する時は、画面の下部にあるログの消去をクリックしてください。
- ・画面の表示後に発生したイベントを表示する時は、画面下部にある再読込をクリックしてください。

12.3.2 データログ

[ログ]-[データログ]を選択すると、次の画面に移行します。

保護サーバの PCBE からは、データログを確認することができません。

PowerChute Business Edition
WIN-NVLTF0GS852
APC UPS

Smart-UPS 1200 PowerChute シャットダウン エネルギー管理 ログ

データログ

10 エントリの表示 (ページごと) 列の表示/非表示

日付	時刻 (hh:mm:ss)	入力電源電 圧 (VAC)	UPS出力電 圧 (VAC)	バッテリ電 圧 (VDC)	バッテ リ充電 (%)	入力周波 数 (Hz)	出力周波 数 (Hz)	UPS負 荷 (%)	内部 UPS温 度 (°C)
2019/01/11	15:47:48	103.2	103.2	40.9	100	50.0	49.99	0.0	28.1
2019/01/11	15:27:48	102.7	102.7	40.9	100	50.01	50.01	0.0	28.2
2019/01/11	15:07:48	102.9	102.9	40.8	100	49.97	49.97	0.0	28.2
2019/01/11	14:47:48	102.9	102.9	40.9	100	50.02	50.03	0.0	28.3
2019/01/11	14:27:48	103.3	103.3	40.9	100	50.01	50.01	0.0	28.3

1 to 5 / 5 エントリの表示

最初 前へ 1 次へ 最後

ログの消去 欄のリセット 再読み込み

画面のログは、日付、次に時刻の順にソートされています。画面の上部に最新のデータが表示されます。

また、画面右側の「列の表示/非表示」をクリックして表示項目をカスタムすることが可能です。

項目	説明
入力電源電圧 (VAC)	UPSへ電力を供給している入力電源の電圧(AC)です。
UPS出力電圧 (VAC)	UPSがサポートする機器に供給する電圧(AC)です。
バッテリー電圧 (VDC)	UPSデバイスのバッテリーの電圧(AC)です。
バッテリー充電 (%)	UPS/バッテリー容量に対する充電率です。
入力周波数(Hz)	UPSへの入力電圧の周波数 (Hz) です。
出力周波数(Hz)	出力電圧の周波数 (Hz) です。
UPS負荷 (%)	記録期間内に、機器が使用したUPS負荷の割合 (%) です。
内部UPS温度(°C)	UPS温度 (摂氏または華氏) です。 [注意事項] UPSに内部温度センサーがない場合、この欄は表示されません。

列の見出し(例:出力周波数(Hz))をクリックしてドラッグすることで、列を移動したり配置を変えられます。

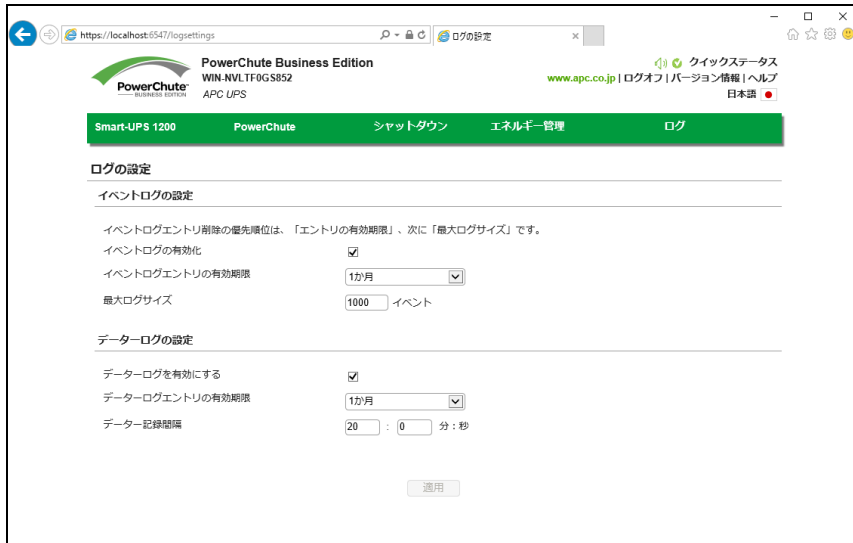
元のデフォルト位置に戻す時は、画面下部にある列のリセットをクリックしてください。

データログ中の全ての記録を削除する時は、画面の下部にあるログの消去をクリックしてください。

画面の表示後に新しいデータを表示する時は、画面下部にある再読み込みをクリックしてください。

12.3.3 ログの設定

[ログ]-[ログの設定]を選択すると、次の画面に移行します。



ログの設定画面では、イベントログとデータログの記録パラメータを設定することができます。またログを無効にすることもできます。

保護サーバのPCBEからは、イベントログの記録パラメータのみ設定および無効にすることができます。イベントログには個々の発生回数が記録されます。データログでは定期的な時間間隔で集められた値が記録され、システム全体のスナップショットが提供されます。

ログエントリを削除する時間間隔を選択するには、イベントログエントリの有効期限とデータログエントリの有効期限を使用します。1ヶ月を選択すると、1ヶ月経過したエントリは削除されます。

また、どちらのログファイルも、ディスク領域を必要とします。画面のオプションを設定する際には注意してください。各設定についてはデフォルト設定を推奨します。

項目	説明
イベントログを有効にする	
イベントログエントリの有効期限	エントリを削除しない/1日/1週間/2週間/1ヶ月/3ヶ月/6ヶ月/1年から選択することができます。デフォルトは1ヶ月です。
最大ログサイズ	最小25件～最大2000件を選択可能です。(デフォルトは1000件)
データログを有効にする	
データログエントリの有効期限	エントリを削除しない/1日/1週間/2週間/1ヶ月/3ヶ月/6ヶ月/1年から選択することができます。デフォルトは2週間です。
データ記録間隔	最小10秒～最大59分59秒を選択可能です。(デフォルトは20分です。)

13. PCBE ユーティリティ

13.1 UPSSleep

UPSSleep は、Windows のコマンドラインインターフェース (CLI) から UPS をシャットダウンおよび再起動するための実行ファイルです。このユーティリティは、例えば、特定の日時にお使いの UPS をシャットダウンおよび再起動するジョブスケジューリングのコマンドファイルと併用できます。

UPSSleep ユーティリティは、PowerChute インストールフォルダの下の utils フォルダにあります。

デフォルトでは、次のパスになります。 C:\Program Files (x86)\APC\PowerChute Business Edition\agent\utils.

UPSSleep の使用方法については、

C:\Program Files (x86)\APC\PowerChute Business Edition\agent\utils\UPSSleep Users Guide

(Japanese).pdf

をご覧ください。

[注意事項]

同じフォルダには、UPSSleep.log ファイルもあります。これは、UPSSleep を実行した時のアクティビティを記録します。

14. Java Update

PCBE のインストール時に PCBE 実行環境として Java (OpenJDK 17)がインストールされます。

PCBE で使用する Java を更新する場合、以下の手順で実施します。

なお、Java を更新している間は PCBE が停止しているため、UPS がバッテリー動作に切り替わってもシステム装置などは自動的にシャットダウンは実施されませんので、停電などにより UPS がバッテリー動作に切り替わった場合、手動にてシャットダウン処理をしてください。

(1) Java アップデート用 OpenJDK のダウンロード

OpenJDKWEB サイト(<https://jdk.java.net/>)より、PCBE をインストールしているシステムに適した OpenJDK ファイル(2023 年 3 月現在、バージョン 18.0.1.1 までの Java で検証済み、Windows では Windows/x64 版(zip 型式)、Linux/VMware では Linux/x64(tar.gz 型式)をダウンロードします。

(2) OpenJDK アップデート用フォルダを作成

PCBE をインストールしているシステムにて、PCBE をインストールしているディレクトリに移動した状態で、「Updates」ディレクトリを作成します。

(Windows の場合、「C:\Program Files (x86)\APC\PowerChute BusinessEdition\」上、Linux/VMware の場合、「/opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/」上に「Updates」ディレクトリを作成してください)

(3) 上記(1)でダウンロードしたファイルを(2)で作成したディレクトリ上へ格納する

(4) PCBE のホーム画面よりバージョン情報ダイアログを表示

WEB ブラウザより PCBE エージェントインターフェースにアクセス、ホーム画面右上にある「バージョン情報」をクリックします。

PowerChute Business Edition
WIN-NVLTFOGS852
APC UPS

www.apc.co.jp | ログオフ | クイックステータス | **バージョン情報** | ヘルプ | 日本語

Smart-UPS 1200 PowerChute シャットダウン エネルギー管理 ログ **クリックする**

UPSステータス

- システムステータス

デバイスステータス	オンライン (グリーンモード)
UPS負荷	0.0 %
ランタイム残り時間	251 分
内部温度	28.2°C / 82.8°F
負荷電力	0.00 % VA
負荷電流	0.0 A
UPS LCDは読み取り専用です	いいえ

+ 電源ステータス

+ バッテリーステータス

+ コンセントグループのステータス

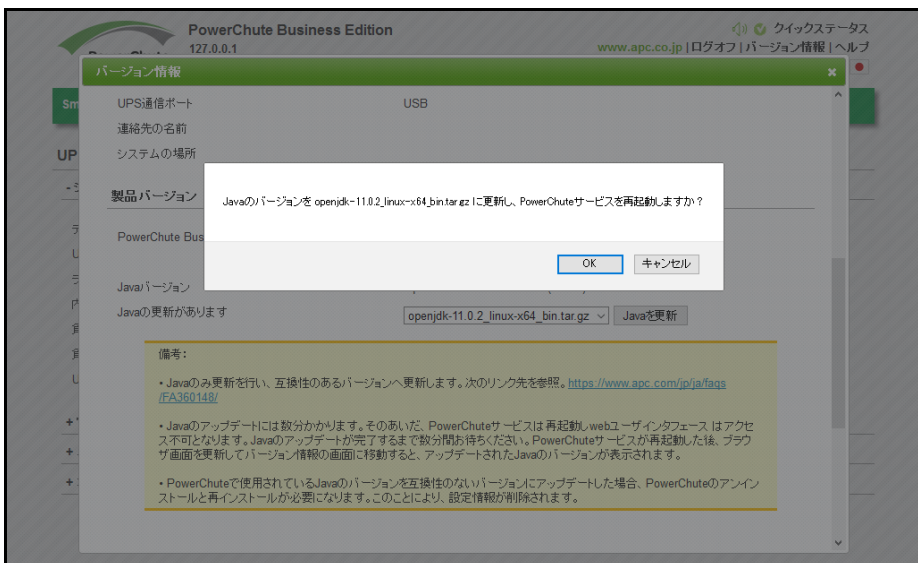
(5) アップデートに使用する OpenJDK のファイルの確認およびアップデートの開始指示

「バージョン情報」をクリックすると、PCBE で現在使用している「Java バージョン」と、(3)で格納したファイル名が「Java の更新があります」の行に表示されますので、使用するファイル名であるか確認した後、ファイル名右側にある「Java を更新」のボタンを押してください。
 なお、OpenJDK アップデート用フォルダに複数の OpenJDK のファイルが格納されている場合、プルダウン(ファイル名右側「V」をクリック)にてアップデートに使用するファイルを選択してください。

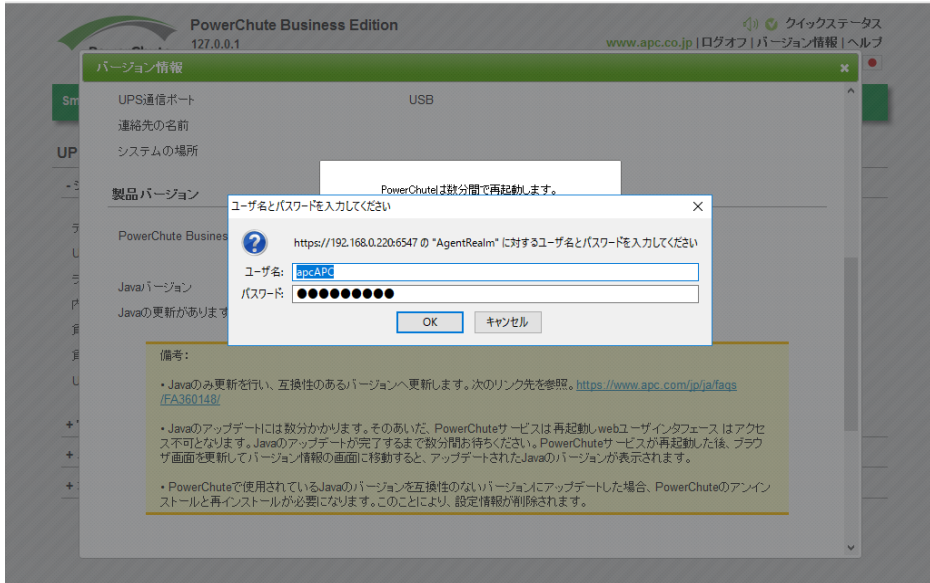


(6) Java アップデート開始を指示してアップデートを開始します

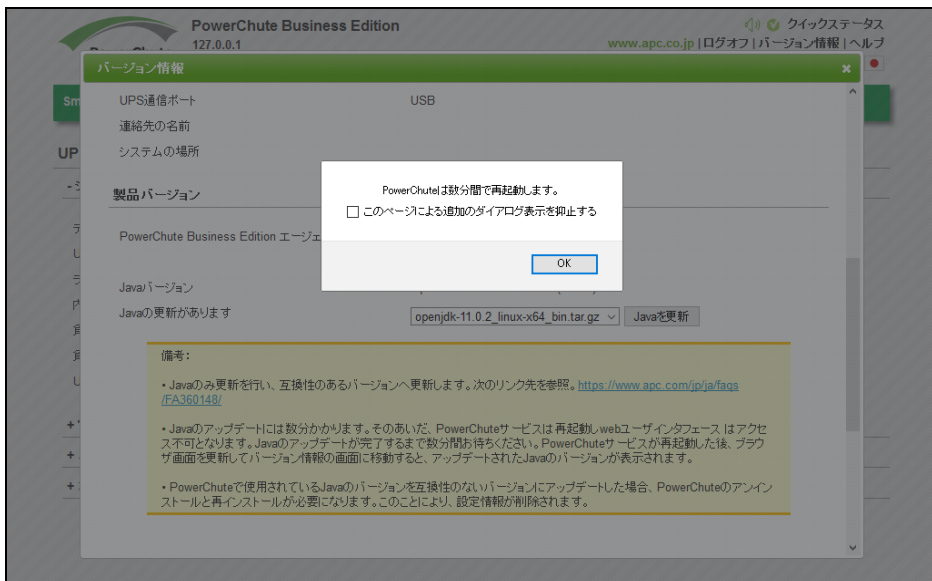
Java をアップデートし、PCBE を再起動させる確認メッセージが表示されますので、「OK」ボタンを押してアップデートを開始してください。



Java アップデート開始直後に PCBE のユーザ名とパスワードの入力を要求されるますので、PCBE のユーザ名とパスワードを入力(PCBE にログインしている間の場合、ユーザ名とパスワードが入った状態になっております)した後、[OK]をクリックしてください。



「PowerChute は数分間で再起動します」のメッセージが表示されましたら、[OK]ボタンを押してしばらくお待ちください。



Java のアップデートが完了し、PCBE が再起動すると、バージョン情報の表示が消えます。

The screenshot shows the PowerChute Business Edition web interface. At the top, there is a navigation bar with the following items: Smart-UPS 1200, PowerChute, シャットダウン, エネルギー管理, and ログ. Below the navigation bar, the main content area is titled "UPSステータス" (UPS Status). Underneath, there is a section for "システムステータス" (System Status) which contains a table of system metrics:

項目	値
デバイスステータス	オンライン (グリーンモード)
UPS負荷	0.0 %
ランタイム残り時間	251 分
内部温度	28.2°C / 82.8°F
負荷電力	0.00 % VA
負荷電流	0.0 A
UPS LCDは読み取り専用です	いいえ

Below the system status table, there are expandable sections for "電源ステータス" (Power Status), "バッテリーステータス" (Battery Status), and "コンセントグループのステータス" (Outlet Group Status).

(7) Java がアップデートされたか確認する

再度 WEB ブラウザより PCBE ホーム画面右上にある「バージョン情報」をクリックし、PCBE で現在使用している「Java バージョン」が更新されていることを確認してください。

The screenshot shows the "バージョン情報" (Version Information) page in the PowerChute Business Edition web interface. The page displays the following information:

- システムの場所: fe80:0:0:1d8f:f5af:414f:c676:eno1
- 製品バージョン: PowerChute Business Edition エージェントバージョン 10.0.0.401
- 更新はありますか: 更新はありません。
- Java バージョン: OpenJDK 64-Bit Server VM (11.0.2+9)
- Java の更新があります: openjdk-11.0.2_linux-x64_bin.tar.gz

A red box highlights the "現在の Java バージョン(更新後)" (Current Java Version (After Update)) section, which shows "OpenJDK 64-Bit Server VM (11.0.2+9)". A red arrow points from this box to the "現在の Java バージョン(更新後)" text.

Below the version information, there is a "備考:" (Notes) section with the following text:

- Javaのみ更新を行い、互換性のあるバージョンへ更新します。次のリンク先を参照。 <https://www.apc.com/jp/ja/faqs/FA360148/>
- Javaのアップデートには数分かかります。そのあいだ、PowerChuteサービスは再起動し、webユーザインタフェースはアクセス不可となります。Javaのアップデートが完了するまで数分間お待ちください。PowerChuteサービスが再起動した後、ブラウザ画面を更新してバージョン情報の画面に移動すると、アップデートされたJavaのバージョンが表示されます。
- PowerChuteで使用されているJavaのバージョンを互換性のないバージョンにアップデートした場合、PowerChuteのアンインストールと再インストールが必要となります。このことにより、設定情報が削除されます。

At the bottom of the page, there is a section for "トラブルシューティング情報" (Troubleshooting Information).

15. イベントリスト

PCBE のイベントログに記録されるイベント一覧表です。

■重大イベント

イベント	イベントの説明
UPS バッテリー 運転中に通信 切断	UPS がバッテリー運転をしている時に、PowerChute がUPS と通信できなくなりました。このイベントはデフォルトで、シャットダウンイベントが実行されるようにチェックされています。 正しい通信ケーブルが使用され、正しく接続されていることを確認してください。
UPS内部温度しき い値超過	UPS の内部温度が、ユーザが設定したしきい値を超えました。これにより内部温度が正常に戻ったとしても、キャンセルできないシャットダウンが発生します。
バッテリー低下	バッテリー動作しているUPSがランタイムしきい値の下限に達しました。つまり、UPSによって報告されるランタイム残り時間が9.1.1項で設定したランタイム制限の値よりも短いことを意味します。

■警告イベント

イベント	イベントの説明
バッテリー運転	停電または電源品質低下のため、UPSがバッテリー運転に切り替わりました。
バッテリー消耗	オンラインのUPSがランタイムしきい値の下限に達しました。停電が発生した場合、シャットダウンが即座に開始されます。 ランタイムしきい値の下限は、UPSによって報告されるランタイム残り時間が9.1.1項で設定したランタイム制限の値よりも短いことを意味します。
UPS過負荷	UPSは現在の負荷を安全にサポートすることができません。負荷が最大容量の105%以上になっています。(このパーセンテージはUPSデバイスによって異なり、最大110%になる場合があります。)
セルフテストに失 敗	UPSは最後のセルフテストに合格しませんでした。バッテリーに問題がある可能性があります。 システムが利用できるランタイムが不十分(オンライン) またはUPS過負荷の状態を報告している場合、このイベントをクリアしてもう一度UPSのテストを行って下さい。
通信切断	UPSがオンライン運転中に、PCBEとUPS間の通信が失われました。正しい通信ケーブルが使用され、正しく接続されていることを確認してください。
バッテリー運転時 間しきい値超過	UPSがバッテリー状態になり、ユーザが設定したしきい値を超えました。このイベントはデフォルトで、シャットダウンイベントが実行されるようにチェックされています。
UPS負荷しきい値 超過	UPSの負荷がユーザが設定した負荷しきい値を超えました。
利用できるランタ イムが不十分(オ ンライン)	UPSはオンラインであり、ランタイムしきい値の下限を下回っています。
利用できるランタ イムが不十分(バ ッテリー運転)	UPSはバッテリー運転であり、ランタイムしきい値の下限を下回っています。
バッテリー交換要	バッテリーを交換する必要があります。 保守員をコールしてください。
UPS内部温度警 告	お使いのUPSの内部温度に対して設定された警告しきい値を超えました。
AVR Boost有効	UPSは低電圧状態を検知し、AVR Boost機能を開始しました
AVR Trim有効	UPSは過電圧状態を検知し、AVR Trim機能を開始しました。
バッテリー切断	UPSのバッテリーが切断または取り外されました

過電圧状態頻発	AVR Trimが、過去24時間の間に5回以上、または過去7日間に15回以上作動し、高い入力電圧を補正しています。これは、UPSに供給されている入力電圧の品質を改善する必要があることを表しています。
低電圧状態頻発	AVR Boostが、過去24時間の間に5回以上、または過去7日間に15回以上作動し、低い入力電圧を補正しています。
長時間過電圧状態	AVR Trimが、少なくとも1時間にわたって高い入力電圧を連続的に補正しています。これは、UPSに供給されている入力電圧の品質を改善する必要があることを表しています。
長時間低電圧状態	AVR Boostが作動し、少なくとも1時間にわたって低い入力電圧を連続的に補正しています。これは、UPSに供給されている入力電圧の品質を改善する必要があることを表しています。
無効な設定ファイル	pcbeconfig.iniファイルの内容が無効です。(Notepad などの)テキストエディタを使用して、pcbeconfig.iniファイルを開いて、エラーを解決する必要があります。

■情報イベント

イベント	イベントの説明
オンライン (グリーンモード)	UPSはグリーンモードで動作を開始しました。これは商用電源で正常に動作しており、電気入力が高効率で使用されています。
バッテリー運転から復旧	商用電源が復旧したため、UPSはバッテリー状態から復帰しました。これは、バッテリー運転で報告されるイベントです。
UPS過負荷状態解決	過負荷状態が修復されました。警告イベントの「UPS過負荷」を参照してください。
出力負荷範囲内	UPS負荷範囲外の状態が修復されました。警告イベント「UPS負荷しきい値超過」を参照してください。
シャットダウン開始 シャットダウンが進行中	シャットダウン手順の各段階です。
ランタイム較正開始 ランタイム較正完了 較正キャンセル	ランタイム較正の各段階です。ユーザまたは停電によって、ランタイム較正がキャンセルされます。(10.1項セルフテストの設定を参照してください)
通信確立	PCBEとUPS間の通信が確立されました。
監視開始 監視停止	PCBEがUPSの監視を開始または停止しました。
利用できるランタイム時間が十分にありません。	これは、利用できるランタイム時間が不十分(オンライン)で報告されるイベントです。UPSには、正常なシャットダウンを実行するのに十分な実行時間があります。
管理上のシャットダウンスケジュール済み	すぐにシャットダウンを開始するように指示しました。このイベントは、スケジュールされたシャットダウンが発生する前の10分間、または[今すぐシャットダウン] 画面でシャットダウンが作成されたときに表示されます。 管理上のシャットダウンは、停電などのイベントではなく、ユーザにより実行されません。
管理上のシャットダウン待機中	ユーザ指定の待機時間終了後、シャットダウンが開始されます。
管理上のシャットダウンキャンセル済み	[シャットダウンキャンセル] が選択され、シャットダウンプロセスが中止されました。 管理上のシャットダウンは、停電などのイベントではなく、ユーザにより実行されません。
セルフテスト開始 セルフテスト成功	UPSが内部診断セルフテストを開始または完了しました。

AVR Boost有効状態終了	UPS は、低電圧状態を補正するためにAVR Boost が作動していたが、電圧が安定したため解除しました。これは、AVR Boost有効で報告されるイベントです。
AVR Trim有効状態終了	UPSは、高電圧状態を補正するためにAVR Trim 作動していたが、電圧が安定したため解除しました。これは、AVR Trim有効で報告されるイベントです。
バッテリー再接続済み	UPSの切断、取り外しされたバッテリーが再度接続されました。
バッテリー交換済	UPS側で“Battery Replaced”(バッテリーコウカンヒツヨウ)と判断された後に、その状態が解消された場合に出力されます。
UPS 内部温度範囲内	UPSの内部温度が許容レベルに戻りました。これは、UPS内部温度しきい値を超過またはUPS内部温度警告で報告されるイベントです。
変更された設定ファイル	pcbeconfig.iniファイルが直接編集されました。

16. よくある質問

この章では、PCBE でよくある質問について回答します。

[質問 1] PCBE のユーザ名、パスワードを忘れた場合

PCBE はインストール時にエージェントに対して、任意のユーザ名とパスワードをユーザ様にて設定いただきます。このユーザ名、パスワードにデフォルト値はありません。従いまして PCBE のユーザ名、パスワードが分からなくなった場合には、エージェントの再インストールとなります。そのため、設定されたユーザ名、パスワードについては慎重に管理いただくようお願い致します

[質問 2] スケジュールシャットダウン中に停電が発生した場合の動作を確認したい

スケジュールシャットダウンが開始すると、UPS は次回起動までのカウントを開始します。カウント表示中に停電状態になった場合もカウントは継続します。カウント終了時に入力電源が復旧していない場合スリープ状態は継続し、バッテリー運転で出力が開始します。ただし、スリープ状態においても UPS は電力を消費しますので、長時間の停電で、スリープ中にバッテリー容量が大きく低下した場合の動作については保証できません。

[質問 3] UPS を交換する場合の手順を確認したい

UPS を同じ形名の UPS と交換を行う場合、PCBE の再インストールは必要ありません。交換後に UPS 本体側に設定されているパラメータの再設定を行ってください。

【設定項目】

- ・「エージェント Web インターフェース」-「UPS 名」-「UPS 設定」の全て
- ・「エージェント Web インターフェース」-「シャットダウン」-「初期セットアップ」の全て

UPS を異なる形名の UPS と交換を行う場合には、PCBE エージェントの再インストールを行ってください。

17. 困ったときには

この章では、PCBE 使用時に発生した問題に対して、適切にご対処いただけるよう、対処方法と参照先について記載しています。

[トラブルシューティング]

[現象 1] 短時間の「バッテリー運転」イベントが頻発する

[対処方法]

商用電源の入力電圧波形に歪みがある場合、商用電源の設備を見直すか、10.2 項「UPS 設定」にて「電力品質感度」を下げてください。

[現象 2] PCBE をインストールしてから 7300 日(約 20 年)が経過した場合

[対処方法]

PCBE サーバの再インストールを行ってください。

[現象 3] USB 接続している UPS が PCBE インストール時に自動検出されない

[対処方法]

以下の方法で、PCBE がインストール時の認識に使用するバッテリーデバイスをインストールした後、PCBE を再度インストールしてください。

- (1) Windows デスクトップ画面左下のスタートアイコンを右クリックして、「デバイス マネージャー(M)」を選択、デバイス マネージャー(M)」を選択、右クリックでデバイス マネージャーを起動し、“バッテリー”を選択します。
- (2) “HID UPS Battery”エントリを右クリックし “ドライバソフトウェアの更新”を選択してください。
- (3) ハードウェアの更新ウィザードが表示されましたら下記を選択ください。
 - ① “コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します”を選択してください。
 - ② “コンピュータ上のデバイスドライバの一覧から選択します”を選択してください。
 - ③ デバイスドライバー一覧から “APC UPS” または “APC Battery BackUP” を選択してください。

[現象 4] マスタサーバの PCBE が起動中に保護サーバの PCBE がシャットダウン開始する

[対処方法 1]

マスタサーバ側の PCBE サービス(Windows)のスタートアップの種類を、自動から自動(遅延開始)に設定を変更してください。

[対処方法 2]

保護サーバ側の PCBE エージェントインターフェースから「シャットダウン」をクリックし、シャットダウン設定の電源障害設定で、停電時のシャットダウン開始を「ランタイム制限で」に変更する。

(UPS Interface Expander 2 のシャットダウンモードをタイマモードに設定している場合のみ有効。この変更により、UPS のバッテリー運転が UPS Interface Expander 2 のディップスイッチで設定した時間継続すると、保護サーバ側の PCBE エージェントにてシャットダウンが開始されます)

**[現象 5] PCBE エージェントインターフェースのアクセスに失敗する
(ブラウザに「HTTP ERROR 400 Host does not match SNI」のメッセージが表示される)**

[対処方法 1]

PCBE エージェントサービスを再起動します。

<Windows の場合>

- (1) [Windows] - [コントロールパネル] - [システムとセキュリティ] - [管理ツール] - [サービス] を開きます。
- (2) 「APC PCBE Agent」サービスを右クリックして再起動を選択します。

<RHEL の場合>

- (1) 端末を開きます。
- (2) PCBE エージェントサービスを次のコマンドを入力して停止します。
systemctl stop PBEAgent
上記コマンドで PCBE エージェントサービスが停止しない場合は、次のコマンドを入力して停止します。
/etc/init.d/PBEAgent stop
- (3) PCBE エージェントサービスを次のコマンドを入力して開始します。
systemctl PBEAgent start
上記コマンドで PCBE エージェントサービスが停止しない場合は、次のコマンドを入力して停止します。
/etc/init.d/PBEAgent start

[対処方法 2]

現象が頻発する場合には、サーバ起動時の PCBE エージェントサービスの自動起動を遅延起動させるよう設定変更します。

<Windows の場合>

- (1) [Windows] - [コントロールパネル] - [システムとセキュリティ] - [管理ツール] - [サービス] を開きます。
- (2) 「APC PCBE Agent」サービスのプロパティを開き、[スタートアップの種類]を「自動」から「自動(遅延開始)」に変更します。
- (3) PCBE エージェントサービスの再起動または、サーバの再起動を実行して下さい。

<RHEL の場合>

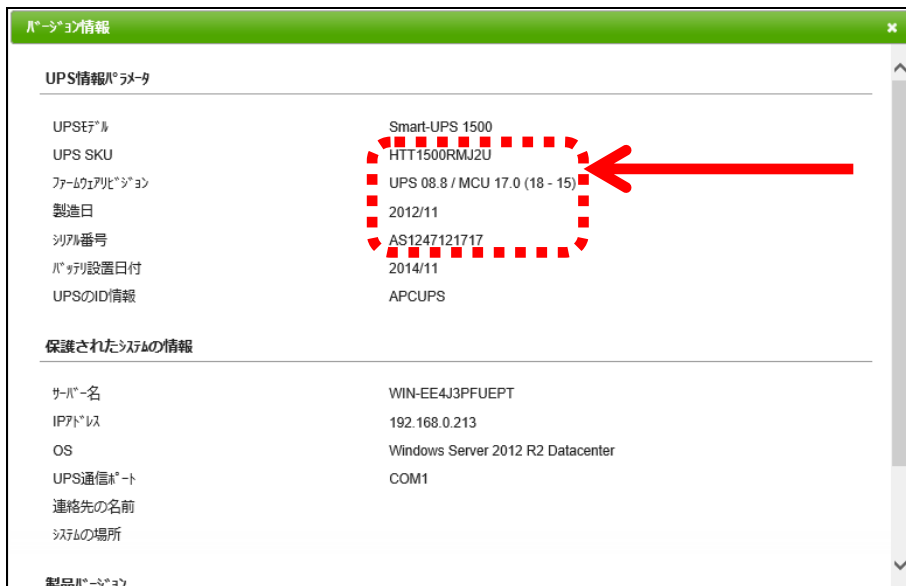
- (1) 端末を開きます。
- (2) 次のコマンドを入力して「PBEAgent.service」ファイルを開きます。
vi /etc/systemd/system/PBEAgent.service
- (3) 「ExecStart=/usr/bin/PBEAgent start」の行をコピーします。
- (4) コピー元の「ExecStart=/usr/bin/PBEAgent start」の先頭に「#」を追加し、コメントアウトします。
- (5) コピーした「ExecStart=/usr/bin/PBEAgent start」を次のように編集して、PCBE エージェントサービスが 60 秒スリープしてから自動移動するように設定します。
ExecStart=/usr/bin/bash -c "sleep 60;/usr/bin/PBEAgent start"
- (6) 編集が終わったら「PBEAgent.service」ファイルを保存します。
- (7) 次のコマンドを入力し、編集した「PBEAgent.service」ファイルの設定を反映します。
systemctl daemon-reload
- (8) PCBE エージェントサービスの再起動または、サーバの再起動を実行して下さい。

【調査資料一覧および採取方法】

障害が発生した場合は、弊社サポートサービスにて原因調査などの問題解決に向けたご支援をいたします。お問合せの際には、以下の資料を予め準備いただきますと、よりスムーズに受け付けさせていただきます。

【システム構成情報】

#	項目	情報	備考
1	OS	<input type="checkbox"/> Windows (バージョン:) <input type="checkbox"/> RHEL (バージョン:) <input type="checkbox"/> VMware (バージョン:) <input type="checkbox"/> vMA (バージョン:)	記入例: Windows2012R2
2	UPS	<input type="checkbox"/> GQ-BURx120xNNx (F/W:) <input type="checkbox"/> GQ-BURW122xxNx (F/W:) <input type="checkbox"/> GQ-BURx150xNNx (F/W:) <input type="checkbox"/> GQ-BURW152xxNx (F/W:) <input type="checkbox"/> GQ-BURx300xENx (F/W:) <input type="checkbox"/> GQ-BURx300xHNx (F/W:) <input type="checkbox"/> GQ-BURW302xxxx (F/W:) <input type="checkbox"/> GQ-BUTx075xNNx (F/W:) <input type="checkbox"/> GQ-BUTW072xxNx (F/W:) <input type="checkbox"/> GQ-BUTx100xNNx (F/W:) <input type="checkbox"/> GQ-BUTW102xxNx (F/W:) <input type="checkbox"/> GQ-BUTx150xNNx (F/W:) <input type="checkbox"/> GQ-BUTW152xxNx (F/W:)	PCBE コンソールプロパティ画面 右上の「バージョン情報」に 記載されている F/W とシリアル 番号をメモしてください。
3	シリアル番号	[]	
4	バッテリー 交換日時	最終交換日(納入日) 日付:	



【調査資料取得手順】

1. PowerChute ファイル ZIP アーカイブの取得

お客様のトラブルの解決に役立てるために、PowerChute ファイルZIP アーカイブ機能を使って、トラブルシューティングに必要なPowerChute 設定ファイルのZIP アーカイブを作成します。

この機能はバージョン情報ダイアログのトラブルシューティングセクションにあります。この ZIP アーカイブは、インストールされた PowerChute ディレクトリの Agent ディレクトリに保管されます。インストール時にデフォルトの場所を選択した場合、PcbeFiles-< タイムスタンプ >.zip ファイルは、次の場所にありますので取得してください。

- ・ Windows システムでは C:\Program Files (x86)\APC\PowerChute BusinessEdition\Agent
 - ・ Linux システムや VMware システムの vMA では/opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent/
- ZIP アーカイブにエクスポートされた PowerChute 設定ファイルは、次の通りです。

energylog ディレクトリ	DataLog ファイル
etc ディレクトリ	EventLog.txt ファイル
log ディレクトリ	pcbeconfig.ini ファイル
comps.m11 ファイル	PCBE-Summary.json ファイル
critical.cfg ファイル	proclog.txt ファイル
data.dat ファイル	

PowerChute® Business Edition
補足説明書 日立編

第 8 版 2023 年 5 月

無断転載を禁じます

株式会社 日立製作所